

アジア太平洋障害者センター プロジェクト（フェーズ2） 終了時評価報告書

平成24年3月
（2012年）

独立行政法人国際協力機構
人間開発部

人間
JR
12-023

アジア太平洋障害者センター
プロジェクト（フェーズ2）
終了時評価報告書

平成24年3月
（2012年）

独立行政法人国際協力機構
人間開発部

序 文

WHO の推計によると、アジア太平洋地域ではおよそ全人口の 15% の障害者が存在すると言われており、その多くは必要なサービスを受けられず、教育や就労など社会参加の機会が制限されています。このような状況の改善のため、国連による「障害者の十年（1983-1992）」、UNESCAP を中心とする「アジア太平洋障害者の十年（1993-2002）」が実施されてきました。

現在、「第二次アジア太平洋障害者の十年（2003-2012）」が実施されている中で、その行動課題は「びわこミレニアム・フレームワーク」として決議されています。同取り組みにおいてわが国は指導的役割を果たしており、障害分野にかかわる国際協力においても相応の役割を果たすことが期待されています。

このような背景を受け、2002 年 8 月から 2007 年 7 月までの 5 年間、わが国とタイ王国の合同広域プロジェクトとしてタイ王国社会開発人間の安全保障省をカウンターパート(C/P)機関とし、タイ王国及びアジア太平洋地域 30 カ国以上の障害者のエンパワメントを通じ「障害者の社会参加と平等化の実現」をめざした「アジア太平洋障害者センター（APCD）プロジェクト」が実施され、無償資金協力によりセンター建物が 2004 年 11 月に竣工しました。

2006 年 9 月に実施した終了時評価においては、タイ王国のみならず、アジア太平洋の多くの国で APCD の活動が高く評価されていることが確認されました。一方で、センターの持続性に関しては、改善の余地があると確認され、2007 年 8 月から 2012 年 7 月までの 5 年間の計画により APCD プロジェクトフェーズ 2 が開始されました。現在、長期専門家 3 名（チーフアドバイザー、ネットワーク連携/人材育成、業務調整）が現地で活動中であり、各分野の技術移転については短期専門家派遣及び研修員受け入れを中心とした協力を展開しています。

今般、同プロジェクトの終了時評価を行うことを目的として、2012 年 2 月に調査団を派遣し、タイ王国政府及び APCD 財団との間で、プロジェクトの進捗の確認と今後の方向性に係る協議を行いました。

本報告書は、同調査結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの展開と、類似のプロジェクトに活用されることを願うものです。

ここに、本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる敬意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

平成 24 年 3 月

独立行政法人国際協力機構

人間開発部部长 萱島 信子

目 次

序 文

地 図

写 真

略語表

評価調査結果要約表

第1章 終了時評価調査団派遣の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
第2章 終了時評価の方法	4
2-1 評価用グリッドの作成	4
2-2 主な調査項目	4
2-3 情報・データの収集方法	4
2-4 調査・評価上の留意点	5
第3章 プロジェクトの実施体制と実績	6
3-1 プロジェクト実施体制	6
3-2 プロジェクトの実施プロセス	8
3-3 投入実績	13
3-4 成果達成状況	16
3-5 プロジェクト目標達成の見通し	21
3-6 上位目標達成の見込み	23
第4章 評価5項目に照らした評価結果	24
4-1 評価5項目による評価結果	24
4-2 結論	28
第5章 聞き取り調査	29
5-1 タイ	29
5-2 インドネシア	32
5-3 パプアニューギニア	34
5-4 バングラデシュ	36

第6章	提言と教訓	39
6-1	提言	39
6-2	教訓	39
第7章	団員所感	41
7-1	松井 亮輔団員（障害者ネットワーク）	41
7-2	中谷 由起子団員（障害者エンパワメント）	42
付属資料		
1.	署名ミニッツ文書	47
	Annex 1. List of Interviewees	76
	Annex 2. Project Design Matrix (PDM) Version3	80
	Annex 3. Dispatch of Japanese Experts	83
	Annex 4. Training of Counterpart Personnel in Japan	84
	Annex 5. Local Expenses borne by Japanese side	85
	Annex 6. List of Counterpart Personnel	86
	Annex 7. Local Expenses borne by Thai side	87
	Annex 8. Agreed Focal Points in Phase2	88
	Annex 9. Agreed Associate Organizations in Phase2	89
	Annex 10. List of Signed Action Plans	92
	Annex 11. List of Trainings, Workshops, and Seminars	95
	Annex 12. List of Published Materials	102
	Annex 13. Satisfaction Level of APCD Trainings Participants	103
	Annex 14. Impacts of the Project	104
	Annex 15. Evaluation Grid	109

地 図

(赤丸がプロジェクトサイトのある首都バンコク)



写



2012年2月22日 JCC

真



ミニッツ署名



PNGADP にて聞き取り
(PNG・POM 総合病院裏空き地)



2011年度 C/P 研修
(メインストリーム協会)



ミャンマー知的障害本人グループ
ユニティのコーヒーショップ



ダオルアン (知的障害当事者グループ)
のメンバー (タイ)



CBID 研修 (2010年5月)



CBID 指導者研修の様子 (タイ)

略 語 表

AO	Associate Organization	協力団体
APCD	Asia-Pacific Development Center on Disability	アジア太平洋障害者センター
ASEAN	Association of South - East Asian Nations	東南アジア諸国連合
BMF	Biwako Millennium Framework	びわこミレニアムフレームワーク
CBR	Community-based Rehabilitation	地域に根ざしたリハビリテーション
CBID	Community-based Inclusive Development	地域に根ざしたインクルーシブ開発
CDSHOD	Capacity Development of Self-help Organizations of Persons with Disabilities	障害者自助団体強化ワークショップ
DPO	Disabled People's Organization	障害当事者団体
C/P	Counterpart	カウンターパート
FP	Focal Point	政府調整・窓口機関
ID	Intellectual Disability	知的障害
KM	Knowledge Management	ナレッジマネジメント
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
MOU	Memorandum of Understanding	覚書
NEP	National Office for Empowerment of Person with Disabilities	障害者エンパワメント局
NHE	Non Handicapped Environment	バリアフリー環境
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PWDs	Persons with Disabilities	障害者
TICA	Thailand International Development Cooperation Agency Ministry of Foreign Affairs, Kingdom of Thailand	タイ外務省国際開発協力局
SbKM	Story-based Knowledge Management	ストーリーに基づく知識創造
SHO	Self-help Organization	自助団体
UNCRPD	United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities	国連障害者権利条約
UNESCAP	United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific	国連アジア太平洋経済社会委員会

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：タイ王国	案件名：アジア太平洋障害者センタープロジェクト (フェーズ2)
分野：障害者支援	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：人間開発部	協力金額(評価時点)：3億4,800万円
協力期間	2007年8月～ 2012年7月(5年間)
	相手国機関：アジア太平洋障害者センター(Asia-Pacific Development Center on Disability: APCD)、社会開発・人間の安全保障省障害者エンパワメント局(Ministry of Social Development and Human Security, National Office for Empowerment of Person with Disabilities: NEP)
他の関連協力：タイ外務省国際開発協力局(Thailand International Development Cooperation Agency Ministry of Foreign Affairs, Kingdom of Thailand: TICA)、障害者支援分野国内支援委員会、障害分野 NGO 等	
<p>1-1 協力の背景と経緯</p> <p>WHOの推計によると、アジア太平洋地域ではおよそ全人口の15%の障害者が存在すると言われているが、その多くは必要なサービスを受けられず、教育や就労など社会参加の機会が制限されている。このような状況の改善のため、国連による「障害者の十年(1983-1992)」、国連アジア太平洋経済社会委員会(United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific: UNESCAP)を中心とする「アジア太平洋障害者の十年(1993-2002)」が実施されてきた。現在、「第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012)」が実施されており、その行動課題は「びわこミレニアム・フレームワーク」として決議されている。同取り組みにおいて、わが国は指導的役割を果たしており、障害者支援分野にかかわる国際協力においても相応の役割を果たすことが期待されている。</p> <p>このような背景を受け、2002年8月から2007年7月までの5年間、わが国とタイ王国(以下、「タイ」と記す)の合同広域プロジェクトとしてタイ国社会開発人間の安全保障省をカウンターパート(Counterpart: C/P)機関とし、タイ及びアジア太平洋地域30カ国以上の障害者のエンパワメントを通じ「障害者の社会参加と平等化の実現」をめざした「アジア太平洋障害者センター(APCD)プロジェクト」が実施され、無償資金協力によりセンター建物が2004年11月に竣工した。</p> <p>2006年9月に実施した終了時評価において、おおむね想定していた成果は達成されていることが確認されたが、センターの持続性に関して改善の余地があると確認されたため、2007年8月から2012年7月までの5年間の計画によりフェーズ2が開始された。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <p><目標></p> <p>アジア太平洋地域において、次の点が促進される。</p> <p>①障害者のエンパワメント</p>	

②「障害者が権利を保障され非障害者とともに諸活動に参画できるバリアフリー社会」を促進するために、APCD の活動を通じて障害当事者／障害者支援組織の活動が強化される

<指標・目標値>

- 1) 障害当事者/障害者支援団体により、地域ネットワークや連携のメカニズムが導入・強化される。
- 2) フォーカルポイント（政府調整・窓口機関（Focal Point : FP））と協力団体（Associate Organization : AO）により①障害者のエンパワメントと、②「障害者が権利を保障され非障害者とともに諸活動に参画できるバリアフリー社会」が促進される。
- 3) FP や AO と作成した行動計画が増える。

(2) プロジェクト目標

<目標>

アジア太平洋地域において、①障害者のエンパワメント、②「障害者が権利を保障され非障害者とともに諸活動に参画できるバリアフリー社会」の促進に向けて、APCD が、障害当事者組織と各国政府を含む障害者支援組織の連携を促進する地域センターとして機能する。

<指標・目標値>

- 1) APCD に言及した公式文書や宣言の数
- 2) 草の根レベルの組織も含めた障害当事者組織と障害者支援組織により APCD が認知されている数

(3) 成果

<成果 1 >

APCD、政府調整・窓口機関（FP）、協力団体（AO）、及びその他の関連組織との間で、より効率的で持続的な連携が進展する。

<指標・目標値>

- 1) 2009 年 8 月までに 7 つのフォーカルポイント政府機関が役割について文書で合意する。
- 2) 2009 年 8 月までに 30 の協力団体が役割について文書で合意する。
- 3) 2009 年 8 月までに 30 の行動計画が作られ、そのうち 60%がフォーカルポイント政府機関と/または協力団体とともに実施される。
- 4) 地域に根ざしたリハビリテーション（Community-based Rehabilitation : CBR）、バリアフリー環境（Non Handicapped Environment : NHE）、ナレッジマネジメント（Knowledge Management : KM）などある特定分野における 3 つのリージョナルネットワークが構築・強化される。
- 5) ネットワーク連携をめざし 10 のリージョナルトレーニングと 10 のフォローアップ活動が行われる。
- 6) 2012 年までにサブリージョナルなネットワークと連携を促進するためにサブリージョナルワークショップが 5 回開催される。すべての成果とインパクトが記録され、文書化され、広く共有される。

- 7) FP や AO、ステークホルダーと連携し、グッドプラクティスや有益情報を取りまとめたドキュメントが 30 できる。
- 8) APCD の活動参加者の 60%がコミュニケーションのアクセシビリティに満足する。
- 9) 研修受講者の 80%が満足している。
- 10) 研修参加者の 70%が、学んだことを共有し、活動のイニシアティブをとり、または、活動を強化する。

<成果 2>

国際的な活動を継続するため APCD の運営管理能力が強化される。

<指標・目標値>

- 1) APCD マスタープランが APCD 財団によって承認される。
- 2) APCD マスタープランの進捗報告書が APCD 財団によって承認される。
- 3) APCD の活動成果を示す年報が毎年発出される。

(4) 投入（評価時点）

1) 日本側

専門家：長期専門家 9 名、短期専門家延べ 17 名

機材供与：なし

本邦研修：延べ 18 名

現地業務費：約 3,900 万バーツ（一般業務費、出張旅費、物品購入、通訳・翻訳費など）

2) 相手国側

カウンターパート人員の配置：13 名（終了時評価時）

施設及び資機材の提供：APCD 内事務用スペース及び備品

ローカルコスト：約 2,300 万バーツ（職員給与、施設管理費などの通常経費を除く）

2. 評価調査団の概要

調査団員	担当分野	氏名	所属
	総括/団長	近藤 貴之	JICA 人間開発部 社会保障課 課長
	障害者 ネットワーク	松井 亮輔	法政大学 名誉教授
	障害者 エンパワメント	中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテュート 代表
	協力企画	西村 愛志	JICA 人間開発部 社会保障課
	総括補佐	池田 直人	JICA 人間開発部 社会保障課
	評価分析	出口 武智郎	オフィス・ディー
	評価分析	西村 久美子	株式会社コーエイ総合研究所研究員
調査期間	2012 年 2 月 1 日～2 月 23 日		評価種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 投入

日本側、タイ側とも計画どおりの投入が行われた。

(2) 成果の達成状況

成果1：APCD、政府調整・窓口機関（FP）、協力団体（AO）、及びその他の関連組織との間で、より効率的で持続的な連携が進展する。

成果1はその目標をほぼ達成していると判断できる。

プロジェクト期間中、フェーズ1の成果に追加する形で12の政府調整・窓口機関（FP）と40の障害当事者/協力団体（AO）がAPCDとの覚書に署名しており、APCDの活動の広がりを示している。また、数多くの研修/ワークショップ/セミナーがAPCDのファシリテーションにより国際レベル、国レベル、草の根レベルと多岐にわたり実施された。さらに、4つのリージョナルネットワークが構築・強化されたことも、本プロジェクトの成果である。

加えて、APCDのナレッジマネジメント機能が強化され、「変革の担い手」としての障害当事者の活動成果をとりまとめた出版物やDVDが57種作成された。出版物作成にあたっては、ストーリーに基づく知識創造（Story-based Knowledge Management: SbKM）の手法が用いられ、障害当事者が作成のプロセスにかかわることに重きが置かれた。これら出版物は、障害当事者が持つユニークな知識・経験を行政官含む関係者と共有するツールとなっている。

成果2：国際的な活動を継続するためAPCDの運営管理能力が強化される。

成果2についても、その目標をほぼ達成していると判断できる。

中間レビュー時の提言に基づき、マスタープランが作成され、2011年5月3日にはAPCD財団運営委員会により承認された。また進捗報告書は終了時評価時点では提出されていないものの、作成中とのことであった。また、2011年度には年報が発行された。

(3) プロジェクト目標達成の見込み

APCDが障害関連組織間の連携を促進する地域センターとして機能していることを終了時評価調査において確認した。プロジェクト期間中に策定された13の公式文書/宣言においてAPCDが言及されており、APCDはその過程に主要メンバーとしてかかわっている。また、評価調査中の聞き取り調査によると、草の根レベルの組織も含めた障害当事者組織と障害者支援組織において、高い割合でAPCDが認知されていることが確認された。フェーズ2開始時に、プロジェクト目標の達成度の確認においては、連携が促進された実例及びそのインパクトを評価することとしていたが、APCDのファシリテーションにより連携が促進された具体事例が数多く確認されている。（連携が促進された事例詳細はミニッツのAnnex 14を参照）。

(4) 上位目標達成の見込み

APCDがネットワークを有する多様な関係機関との協働により、①障害者のエンパワメン

ト、②「障害者が権利を保障され非障害者とともに諸活動に参画できるバリアフリー社会」の実現を促進するためのネットワーク及び連携活動が既に数多く実施されている。また、障害当事者/支援組織によりニーズに基づいた地域連携活動が進められ、強化されており、これら活動は障害運動やインクルーシブ開発の促進に寄与している。加えて、APCD は国連機関や市民社会、民間セクターを含む多様な機関との連携も図っている。これらの実績により、APCD は上位目標達成に向け漸進していると判断できる。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性：高い

<政策>

2010 年実施の中間レビュー調査団が本プロジェクトはタイ政府の政策に合致していると評価した理由に挙げた“障害者の生活の質発展計画 No.3 2007-2011”などの障害問題に取り組む政府の姿勢は、現在でも維持されている。中間評価以降も、アジア太平洋地域諸国での国連障害者権利条約（United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities：UNCRPD）に署名又は批准する国は増加しており、同地域において、障害問題は今後も重要課題の1つである。また、本プロジェクトの目標は、南南協力を促進し、社会的弱者支援の強化という日本政府及び JICA の開発戦略に合致している。

<ニーズ>

APCD は、過去の研修参加者の活動をフォローするためのスタッフの能力と知識を必要としており、プロジェクトはスタッフの本邦研修を実施し、研修管理に関する短期専門家を派遣した。

APCD は、障害当事者とその家族及び支援者のニーズである“障害者組織及び同支援組織間のネットワークと協力関係の促進”を、その仲介者として、プロジェクトの活動を通じて実施している。

<アプローチの方法>

APCD が、アジア太平洋地域における障害に関する地域センターとして機能し続ける事への期待は大きい。フェーズ1の終了時評価の提言に対応し、本プロジェクトは、知的障害及び聴覚障害のインクルージョンを強調する活動から開始した。これら2種の分野でプロジェクトが経験を積んだ後に、プロジェクトはその活動分野をクロス・ディスアビリティへと発展させた。

(2) 有効性：高い

中間レビュー調査においては、プロジェクト目標及び成果1の達成度が期待される一方で、成果2の達成が懸案となっていた。今般の調査で、プロジェクト目標及び成果1の達成に加え、中間レビュー調査の結果、活動に加えられた APCD マスタープランの作成等が実施されていることが確認された。

(3) 効率性：高い

プロジェクトは障害者のニーズに合ったアプローチで障害者をインクルージョンしながら進行され、成果1と成果2の両方を達成している。前半では、フェーズ1終了時評価で提

言された知的障害と聴覚障害に重心を置いて専門家を投入し、後半では、職員及びリソースパーソンの技能を高めるための研修監理の専門家を投入し、メリハリのある効率的なプロジェクト運営がなされた。明確な条件に基づき人選された対象者がカウンターパート研修に参加し、研修参加者は習得した知識と技術を、広く所属組織内で共有した。また、プロジェクト運営費は適切な時期に投入され、プロジェクトの活動を効率的に支援した。

(4) インパクト：高い：多くの正のインパクトが確認されている。

APCD によるファシリテーションにより実施された諸活動を通じ、アジア太平洋地域において以下を含む数多くの正のインパクトの発現が確認された。

- ・ <研修の効果> APCD 研修に参加した多くの FP や AO が、習得した技術や知識を活用し新たな活動を始めている。
- ・ <ファシリテーションの効果 > パキスタンやパプアニューギニアにおいて、ミッション派遣や FP/AO と協働で実施したセミナーにより、UNCRPD に対する政府高官を含む関係者の意識が高まり、批准/署名が実現した。
- ・ <出版物の効果 > FP/AO を含む関係機関と協働し、「変革の担い手」としての障害当事者によるグッドプラクティスを数多くまとめ、出版した。ナレッジマネジメントの原則に基づき作成されたこれら出版物は、障害分野の関係機関だけではなく、ビジネスパートナーからも高い評価を受け、インクルーシブでバリアフリーな社会の促進に寄与している。
- ・ APCD は国連機関を含む国際レベルのパートナーと連携し、政策レベルの障害運動促進に貢献してきた。APCD は、アジア太平洋地域において障害者の権利保障を促進する重要な機関であることが国際機関の間で認知されており、APCD がかかわった数多くの公式文書がそれを示唆している。
- ・ OECD 及び世界銀行により「南南協力の好事例」として APCD が認められた。

(5) 持続性：ある程度の持続性が確保されている。

1) 政策面

「びわこミレニアム・フレームワーク」及び「びわこプラス・ファイブ」の中で、APCD はアジア太平洋地域の障害者のエンパワメントと社会のバリアフリー化促進を担うセンターとして公式に位置付けられており、APCD はその機能を強化してきた。第 1 の活動優先地域は大メコン地域、第 2 はアセアン諸国、第 3 は南アジア地域である。

2) 組織面

- ・ APCD 財団の監督の下、APCD は組織機能を強化してきた。
- ・ 情報共有やフォローアップ活動を通じ、AO とのパートナーシップ関係は保たれている。他方、多くの FP の代表者は他部署への異動が避けられず、FP との関係を保つのは困難な状況である。

3) 技術面

APCD 職員は十分な業務遂行能力を備えている。また、仕事に対し高い意欲とコミットメントを持っている。

4) 財政面

- ・ NEP からの拠出金は当面継続される見込みである。
- ・ 日本財団とプロジェクト契約を締結した他、他の NGO 等と資金協力につき交渉を行っている。

5) 関連組織との協力関係

APCD の役割は国連機関により認知されている。また、UNESCAP や WHO との協力関係を持っており、それらの関係はこれからも継続するものと推察される。

3-3 結論及び提言

(1) 結論

1) プロジェクト目標は達成された。

APCD はアジア太平洋地域における障害と開発の地域センターとして機能している。また APCD のファシリテーションにより、アジア太平洋 CBR ネットワーク、東南アジア諸国連合 (Association of South - East Asian Nations : ASEAN) 自閉症ネットワーク、エンパワメント・カフェ、そして南アジア障害フォーラムを含む様々なネットワーク基盤が設立された。

2) 顕著なインパクトの発現が確認された。

パプアニューギニアやパキスタンでの UNCRPD の署名/批准に代表されるように、顕著なインパクトが数多く発現している。

3) 継続したフォローアップが必要である。

プロジェクト期間中に培ったネットワーク基盤や人的・情報資源が有効に機能するためには、APCD からの継続的なフォローアップが必要である。

(2) 提言

1) 「新アジア太平洋障害者の 10 年(2013-2022)」における国際的連携の強化

APCD、社会開発・人間の安全保障省、JICA、APCD の FP 及び AO 間の国際的連携を、特に計画中の「新アジア太平洋障害者の 10 年」のフレームワークにおいて、UNESCAP とのパートナーシップの下、更に強化する事を提言する。

2) 地域に根ざしたインクルーシブな開発 (Community-based Inclusive Development : CBID) 活動の促進

プロジェクト・フェーズ 2 において力を入れて活動してきた CBR/CBID に係る活動に対し、JICA が引き続き APCD 及び社会開発・人間の安全保障省との連携を継続する事を提言する。

3) APCD の活動に対するタイのステークホルダーの協力の促進

社会開発・人間の安全保障省、タイの障害当事者及び産業界が APCD との連携に活発に参加する事を奨励するため、リソースパーソン、アドバイザー、プロジェクトパートナーとしてのそれらステークホルダーの協力を促進する事を提言する。しかしながら、APCD のマンデートである国際的立場には留意が必要である。

4) APCD 施設の活用

APCD のパートナーのニーズに合わせ、APCD の事務棟及び研修棟を更に活用すること

を提言する。APCD 建物の設立の目的に沿って、JICA の障害及び開発の国際研修を APCD の施設で実施する事も提言する。

5) より多様な障害者の参加

精神障害者などこれまで APCD 活動への参加が限定的であったグループが APCD の活動により多く参加できるようにすることを提言する。

3-4 教訓

- 1) JICA 専門家の派遣においては、カウンターパートの能力の向上に応じて、必要な専門性が考慮されるべきである。
- 2) フェーズ1及びフェーズ2を通して蓄積された人的・情報資源並びに構築されたネットワークは、APCD の重要な資産であり、今後の活動においてもさらに有効活用されるべきものである。
- 3) タイ、ミャンマー、及びカンボジアにおける自助グループのエンパワメントのため、知的障害当事者がリソースパーソンとして派遣され、活躍したことは画期的な事例である。
- 4) APCD のナレッジマネジメント活動としての記録作成により、効果的に知見を蓄積し、関係機関と共有することができた。また、フィリピンの SM スーパーモール（ショッピングモール）やマレーシアのエア・アジア、ASEAN TV を含む民間セクターとの連携により、APCD の認知度を広域に向上させることに成功した。
- 5) APCD のファシリテーションにより、障害当事者団体、政府、そして UNESCAP や WHO を含む国際機関の有機的な連携が促進され、その結果として各国の障害政策が策定された。

評価調査結果要約表（英文）

1. Outline of the Project		
Country:	Thailand	Project Name: Asia-Pacific Development Center on Disability (APCD) Project, Phase 2
Sector:	Support of Persons with Disabilities	Type of Cooperation: Technical Cooperation Project
Department in Charge:	Human Development Department	Amount (At the time of Evaluation): 348 million yen
Period of Cooperation	Aug. 2007 – Jul. 2012 (Five years)	Partner Country's Organization: Asia-Pacific Development Center on Disability(APCD), Ministry of Social Development and Human Security, National Office for Empowerment of Person with Disabilities(NEP)
Other Related Agencies / Organizations	Thailand International Development Cooperation Agency(TICA), JICA's Disability Issue Support Committee and Disability related NGOs	
<p>1-1 Background of the Project</p> <p>It is estimated that there are around 600 million persons with disabilities (approx. 15 % of total population) living in the Asia-Pacific region. Many of them have less access to services such as education and/or employment. To improve such situation to them, “UN Decade of Disabled Persons (1983-1992)” and UNESCAP “the Asian and Pacific Decade of Disabled Persons (1993 – 2002)” have been started accordingly. Currently “The 2nd Asian and Pacific Decade of Disabled Persons (2003 – 2012)” is rigorously observed to implement “the Biwako Millenium Framework (BMF) for Action Towards an Inclusive, Barrier-Free and Right-Based Society for Persons with Disabilities in Asia and the Pacific”. The Government of Japan took the initiative in BMF and has been expected to play a commensurate role in international cooperation in areas related to Persons with Disabilities.</p> <p>In this context, Japan-Thailand Regional Technical Cooperation Project for Asia-Pacific Development Center on Disability in Thailand (hereinafter referred to as “APCD Project”) had been implemented from August 2002 to July 2007. While The APCD Project aimed the realization of social participation and equal opportunities of Persons with Disabilities through the empowerment of Persons with Disabilities in more than thirty countries of Asia-Pacific region including Thailand, the APCD building was established on November 2004 by Grant Aid of the Government of Japan.</p> <p>In September 2006, Terminal Evaluation team has recognized the expected achievement of the APCD Project. However, it was recommended that the sustainability of APCD should be further strengthened. Based on the recommendations and the request from the Government of Thailand, the APCD Project Phase 2 has been initiated from August 2007 to July 2012 for 5 years.</p> <p>1-2 Summary of the Project</p> <p>(1) Overall Goal</p> <p>Following points are strengthened by the support of APCD Project;</p>		

- 1) Empowerment of Persons with Disabilities
- 2) Promotion of inclusive, barrier-free and rights-based society

-Indicators;

- 1) Regional networks and collaboration mechanisms are initiated/strengthened by organizations of/for Persons with Disabilities.
- 2) Activities to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities are initiated and conducted by Focal Points Organizations (FPs)/ Associate Organizations (AOs).
- 3) The number of Action Plans with FPs / AOs is increased.

(2) Project Purpose

APCD is able to function as a regional center to facilitate networking and collaboration among organizations of/for Persons with Disabilities towards an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region.

-Indicators;

- 1) The number of salient documents /declarations on disabilities to recognize APCD as a functional regional center.
- 2) The number of organizations of/for Persons with Disabilities (including grass-roots organizations) to recognize APCD as a functional regional center.

(3) Outputs

<Output 1 >

More effective and sustainable networking and collaboration are developed among APCD, FPs, AOs and other relevant organizations.

-Indicators;

- 1) 7 selected FPs agree to their roles in documents by Aug. 2009.
- 2) 30 AOs agree to their roles in documents by Aug. 2009.
- 3) 30 Action Plans are prepared by Aug.2009 and 60% of the Plans are conducted together with FPs and/or AOs by 2012.
- 4) 3 regional networks on specific areas are developed and strengthened (Community Based Rehabilitation [CBR], Non-Handicapped Environment [NHE], Knowledge Management [KM] etc).
- 5) 10 regional trainings and 10 networking collaboration follow-up activities are conducted to strengthen regional networks.
- 6) 5 sub-regional workshops are conducted to facilitate sub-regional networking and collaboration in the Asia-Pacific region by 2012. All outputs and impacts are documented and widely shared.
- 7) 30 documents on good practices and useful information are developed with FPs, AOs and stakeholders, and widely shared in collaboration.
- 8) 60% of participants of APCD's activities are satisfied with communication accessibility.
- 9) 80% of participants are satisfied with training courses.

10) 70% of ex-participants share their learning and initiate or strengthen their activities.

<Output 2>

The managerial and administrative capacity of APCD to sustain the internationalized activities is strengthened.

-Indicators:

- 1) The APCD Master Plan is approved by the APCD Foundation.
- 2) APCD's progress report on the Master plan is approved by the APCD Foundation.
- 3) An annual report to show the APCD's performance is published every year.

(4) Input (At the Time of Evaluation)

1) Japanese side

Expert: Long Term Experts 9 persons / Short Term Experts 17 persons (gross total)

Equipment: N/A

Training in Japan: 18 persons (gross total)

Local Operation Expenses: 39.2 million Bahts (general operating cost, travel cost, goods, translator/interpreter fee etc)

2) Thai side

Counterpart: 13 persons (at the Time of Evaluation)

Facility / equipment APCD Building and necessary equipment for the Project

Local Operation Expense: 23 million Bahts

2. Outline of the Terminal Evaluation Team

Team members	Title	Name	Position / Organization
	Team Leader	Takayuki Kondo	Division Leader, Social Security Division, Human Development Department JICA
	Network of Persons with Disabilities	Ryosuke Matsui	Emeritus Professor, Hosei University
	Empowerment of Persons with Disabilities	Yukiko Nakanishi	Representative, Asia Disability Institute
	Cooperation and Planning	Megushi Nishimura	Social Security Division, Human Development Department JICA
	Leader Assistant	Naoto Ikeda	Social Security Division, Human Development Department JICA
	Evaluation / Analysis	Fujio Deguchi	Office-D
	Evaluation / Analysis	Kumiko Nishimura	Koei Research Institute International Corp.
Period of the Evaluation	Feb. 1, 2012 – Feb. 23, 2012		Type of Evaluation: Terminal Evaluation

3. Summary of Evaluation

3-1 Performance

(1) Input

Planned inputs were made by Japanese and Thai side.

(2) Achievement of Outputs

1) Output 1: More effective and sustainable networking and collaboration are developed among APCD, FPs, AOs and other relevant organizations.

Output 1 was almost achieved: Twelve FPs and forty AOs signed the Memorandum of Understanding with APCD during the Project Phase 2. It shows the expansion of APCD's activities. Many trainings / Workshops / Seminars were conducted at international / national / grassroots level by APCD's facilitation. In addition to these activities, four regional networks were established and strengthened by APCD. As for capacity of APCD itself, the knowledge management skill was strengthened and fifty-seven documents and DVDs related to the activities of Persons with Disabilities as Agents of Changes were published. The method of Story-based Knowledge Management (SbKM) was adopted for making documentations, which focused on the participation of Persons with Disabilities in the documentation processes. These documents are utilized to share the unique knowledge and experience of Persons with Disabilities with other stakeholders including the government officials.

2) Output 2: The managerial and administrative capacity of APCD to sustain the internationalized activities strengthened.

Output 2 was almost achieved. Based on the recommendation of Mid-Term Review, a Master Plan was made and approved on May 3, 2011 by APCD Executive Committee. While APCD's annual report was published in the year 2011, the progress report of the Master Plan was not submitted yet, but is being prepared.

(3) Expectation of the achievement of Project Purpose

The Terminal Evaluation Team confirmed that APCD was functioning as a regional center to promote the network among disability related organizations. During the project period, thirteen salient documents and declaration were developed, which mentioned APCD. APCD participated in the developing process of these documentation and declaration as a key stakeholder. On the other hand, the result of interview with grassroots disability related organizations, showed the high recognition of APCD among them. The indicator of the project purpose was the actual cases and its impact related to the promotion of the networking. Through APCD's facilitation, many cases contributing the promotion of networking were found.

(4) Expectation of the Achievement of Overall Goal

Through the cooperation between APCD and the related organization in various fields, many network and collaboration activities had been conducted to promote 1) Empowerment of Persons with Disabilities

and 2) the realization of inclusive, barrier-free and rights-based society for Persons with Disabilities. Based on the needs of the organizations of/for Persons with Disabilities, community cooperation activities had been conducted and strengthened. These activities contribute to the promotion of disability movement and inclusive development. Moreover, APCD has been planning to make collaboration with various kinds of organizations including international agencies, civil society and private sectors etc. These facts show that APCD has been progressively to achieve the overall goal.

3-2 Outline of Evaluation

(1) Relevance: High

<Policy>

Joint Evaluation Team of the Mid-Term Review conducted on Feb. 2010 evaluated that the Project was consistent with the policy of the Government of the Kingdom of Thailand. The Government of the Kingdom of Thailand has emphasized the importance to address the disability issues by adopting such policies as “Plan for the Development of the Quality of Life of the Disabled No.3 2007-2011” and this direction has been and will be maintained. After the Mid-Term Review, UNCRRPD has been signed or ratified by the countries in Asia-Pacific region and these countries focus on the disability issue now and future. On the other hand, The Project purpose conforms to the development strategy of both the Government of Japan and JICA, which is to promote South-to-South cooperation and to strengthen support of the socially vulnerable. The Project, therefore, is consistent with the Japanese government policy.

<Needs>

To respond the needs to enhance the capability of the staff in following up the ex-participants’ activities, the Project has provided counterpart trainings in Japan and dispatched short-term experts (on Training Management). The Project is designed to act as a mediator to facilitate networking and collaboration among Disabled people’s organizations in respond to the needs from Persons with disabilities themselves and their family members.

<Project Approach>

The expectation is high for APCD to continuously function as a regional center on disability. In response to the recommendation from the terminal evaluation at Phase 1, the Project (Phase 2) has started its activities by putting emphasis on inclusion of people with Intellectual Disability and Hearing Impairment. After a certain period of time in which the Project accumulated experiences with these two categories, it has expanded it’s field of activities, i.e. Cross-Disability.

(2) Effectiveness: High

While the achievement of project purpose and output 1 were expected in the Mid-Term Review, the team was concerned the achievement of output 2. It was confirmed by terminal evaluation team that the Project achieved the output 2 such as creating a master plan, as well as the project purpose and output 1.

(3) Efficiency: High

The Project progresses by means of the approach to meet the needs of Persons with Disabilities, including persons with disabilities as agents of changes. This approach contributes to the outputs 1 and 2. In the first half of the project period, the Project focused on the intellectual disability and hearing impairment, and dispatched the experts in these fields. After the Mid-Term Review, the Project focused on the capacity development of staff and resource persons and dispatched the training / management experts. The Project maintained a good balance to follow the recommendation of Terminal Evaluation of the Project Phase 1 and Mid-Term Review of the Project (Phase 2).

The participants of the training in Japan were selected with clear criteria and they shared their knowledge and technique, acquired in the training, with other key stakeholders of APCD. The Project budget has been provided at the right time and supported the Project activities efficiently.

(4) Impact: High; Many impact-cases were reported.

Through the activities facilitated/organized by the Project, many positive impacts, including the followings, have been observed in Asia and Pacific countries and areas:

<Effect of the APCD trainings> Many of FPs and AOs, gained skills and knowledge via training courses conducted by APCD, applied these knowledge and experiences in their own activities.

<Effect of the APCD's facilitation> The APCD missions and the seminars in collaboration with FPs and AOs, contributed to the ratification / signing of UNCRPD in Pakistan / Papua New Guinea.

<Effect of the APCD's documentation> Good practices of persons with disabilities as "agents of change" have been documented and published in collaboration with FPs, AOs and other stakeholders. The documentations according to knowledge management principles have been shared to promote inclusive barrier-free society not only by disability stakeholders but also by the business partners. APCD has been promoting disability movement at the policy level in collaboration with the UN agencies and other partners. APCD has become one of the vital players to promote disability rights in the region. The declarations, recommendations and statements were the result of all efforts of vital players in the regions.

APCD was selected as one of case stories of "The South-South Opportunity" in OECD and World Bank

(5) Sustainability: Sustainability was secured to some extent

1) Policy aspect

APCD has been officially identified and strengthened its function as regional center to support empowerment to create barrier free, rights based society, written in the Biwako Millennium Framework (BMF) and Biwako Plus Five for Action towards an Inclusive, Barrier-free and Right-based Society in Asia and the Pacific 2003-2012. According to these documents, the first priority is given to the Greater Mekong region, the second is the ASEAN, and the third to South Asia sub-region.

2) Organization and System aspect

Under the supervision of the APCD Foundation, APCD has been developing an effective organization structure. The partnership between APCD and AOs is sustained through the information sharing and follow-up. On the other hand, most of the representatives of FPs are transferred to other departments. It sometimes results in difficulties to keep the partnership between APCD and FPs.

3) Technical aspect

APCD staffs have capacities to perform daily operations. Their high motivation and commitment contribute to APCD's activities.

4) Financial aspect

APCD has signed the contract with the Nippon Foundation on financial support and is negotiating with other organizations. Contribution from NEP is expected to continue for a while after the project ends.

5) Relation with other disability related organizations

The role of APCD was well recognized by the UN agencies. APCD also has good cooperation relationships with ESCAP and WHO. The relationship seems to be sustained even after the project ends.

3-3 Conclusion and Recommendation

(1) Conclusion

1) The project purpose has been achieved.

APCD is functioning as a regional center on disability and development in the Asia-Pacific region. APCD facilitated to establish various networking platforms in Asia-Pacific region such as CBR Asia-Pacific Network, ASEAN Autism Network, Empowerment Café and South Asian Disability Forum.

2) Outstanding impacts are observed

As exemplified by the UNCRPD ratification in Pakistan and signature in Papua New Guinea, remarkable impacts were observed.

3) Continuous follow-up is needed

For the effective functioning of established platform, trained personnel and accumulated information resources, it is necessary to follow up continued by APCD.

(2) Recommendation

1) To strengthen international collaboration in “the new Asian and Pacific Decade of Persons with Disabilities (2013-2022)”

It is recommended that international collaboration between APCD, JICA and APCD's FPs and AOs be strengthened further, particularly in the framework of the new Asian and Pacific Decade of Persons with Disabilities in partnership with the United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP).

2) To elaborate community-based inclusive development (CBID) activities

It is recommended that JICA continue to collaborate with APCD and the Ministry of Social Development and Human Security further in this context in line with the needs of CBR/CBID activities which have been expanded during the Project Phase 2.

3) To facilitate Thai stakeholders to cooperate with APCD's activities more proactively

It is recommended that cooperation of Thai stakeholders including the Ministry of Social Development and Human Security, Persons with Disabilities and the business sector in Thailand be more facilitated as resource persons, advisors or project partners in order to encourage their active participation to collaborate with APCD. However, special attention should be paid to the international perspective which is APCD's mandate.

4) To utilize the APCD facilities

It is recommended that the APCD's administration and training buildings be utilized more in accordance with the needs of APCD's partners. It is also recommended that JICA's international training on disability and development be conducted at APCD in accordance with the original objective of the grand aid provided by the Government of Japan.

5) To further promote cross-disability activities at the sub-regional and regional level

It is recommended that persons with psycho-social disability and other disability categories be included into APCD's activities.

3-4 Lesson Learned

- (1) The expertise of JICA experts should be matched in accordance with the enhanced capacity of counterparts.
- (2) Human and information resources, and regional and sub-regional networks developed in the project (both Phase 1 and Phase 2) have become important assets and are effectively utilized in the project activities.
- (3) It is epoch-making that persons with intellectual disabilities were recruited as resource persons for the empowerment of self-advocate groups in Thailand, Myanmar and Cambodia, which contributed to the outstanding achievement of the Project activities.
- (4) By documentation as APCD's knowledge management activities, knowledge and experiences have been effectively accumulated and disseminated among stakeholders. Good practices with the private sector such as SM Supermalls in the Philippines, Air Asia in Malaysia and ASEAN TV enhanced the recognition of APCD regionally.
- (5) APCD's facilitation has resulted in the development of national disability policies by linking with DPOs, governments and the international agencies including ESCAP, WHO, etc.

第1章 終了時評価調査団派遣の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

WHOの推計によると、アジア太平洋地域ではおよそ全人口の15%の障害者が存在すると言われているが、その多くは必要なサービスを受けられず、教育や就労など社会参加の機会が制限されている。このような状況の改善のため、国連による「障害者の十年（1983-1992）」、UNESCAPを中心とする「アジア太平洋障害者の十年（1993-2002）」が実施されてきた。現在、「第二次アジア太平洋障害者の十年（2003-2012）」が実施されており、その行動課題は「びわこミレニアムフレームワーク」として決議されている。同取り組みにおいて、わが国は指導的役割を果たしており、障害者支援分野にかかわる国際協力においても相応の役割を果たすことが期待されている。

このような背景を受け、2002年8月から2007年7月までの5年間、わが国とタイ王国（以下、「タイ」と記す）の合同広域プロジェクトとしてタイ国社会開発人間の安全保障省をカウンターパート（C/P）機関とし、タイ及びアジア太平洋地域30カ国以上の障害者のエンパワメントを通じ「障害者の社会参加と平等化の実現」をめざした「アジア太平洋障害者センター（APCD）プロジェクト」が実施され、無償資金協力によりセンター建物が2004年11月に竣工した。

2006年9月に実施した終了時評価において、おおむね想定していた成果は達成されていることが確認されたが、センターの持続性に関して改善の余地が残ると確認されたため、2007年8月から2012年7月までの5年間の計画によりフェーズ2が開始された。

フェーズ2においては、APCDセンターの運営能力強化、障害当事者のネットワーク作りと連携、情報支援、人材育成活動等を目的として実施されてきており、現在3名の長期専門家（チーフアドバイザー、ネットワーク連携/人材育成、業務調整）を派遣中である。

今回実施する終了時評価調査では、2012年7月のプロジェクト終了を迎え、プロジェクト活動の実績、成果を評価、確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似業務の実施にあたっての教訓を導くことを目的とする。

1-2 調査団の構成

表1-1 調査団メンバー表

担当業務	氏名	所属・役職
総括／団長	近藤 貴之	JICA 人間開発部 社会保障課 課長
障害者ネットワーク	松井 亮輔	法政大学 名誉教授
障害者エンパワメント	中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテュート 代表
協力企画	西村 愛志	JICA 人間開発部 社会保障課
総括補佐	池田 直人	JICA 人間開発部 社会保障課
評価分析	出口 武智郎	オフィス・ディー
評価分析	西村 久美子	株式会社コーエイ総合研究所 研究員

1-3 調査日程

表1-2 調査日程表

日付	近藤団長、松井・中西・西村(愛)各団員	池田団員	出口団員	西村(久)団員
2/1(水)			関空→バンコク	成田→バンコク
2/2(木)			午前：JICA タイ事務所 午後：APCD	
2/3(金)			インタビュー (APCD)	インタビュー (APCD)
2/4(土)			バンコク→ジャカルタ→ソロ インタビュー (ソロ)	バンコク→ダッカ
2/5(日)			ソロ→ジャカルタ	聞き取り調査 (ダッカ)
2/6(月)			聞き取り調査 (ジャカルタ)	聞き取り調査 (ダッカ)
2/7(火)			聞き取り調査 (ジャカルタ)	聞き取り調査 (ダッカ)
2/8(水)		東京→バンコク	ジャカルタ→シンガポール→ブリスベン	ダッカ→バンコク
2/9(木)		書類作成	ブリスベン→ポートモレスビー聞き取り調査 (パプアニューギニア)	聞き取り調査 (バンコク)
2/10(金)		書類作成	聞き取り調査 (パプアニューギニア)	聞き取り調査 (バンコク)
2/11(土)	東京→バンコク	書類作成	ポートモレスビー→シンガポール→バンコク	聞き取り調査 (バンコク)
2/12(日)	ミーティング、情報共有、書類作成			
2/13(月)	ミーティング (JICA タイ事務所)、書類作成			聞き取り調査 (バンコク)
2/14(火)	ミーティング (NEP、APCD)		書類作成	
2/15(水)	聞き取り調査 (バンコク)、Dr. Taj 表敬		聞き取り調査 (バンコク)	聞き取り調査 (バンコク)
2/16(木)	聞き取り調査 (バンコク)		書類作成	聞き取り調査 (バンコク)
2/17(金)	CBR 研修視察、ミーティング (ESCAP)		書類作成	
2/18(土)	書類作成		バンコク→関西	バンコク→成田
2/19(日)	書類作成			
2/20(月)	ミーティング (APCD 所長、NEP、TICA)			
2/21(火)	ミニッツ協議			
2/22(水)	ミニッツ署名/合同調整員会会議			
2/23(木)	バンコク→成田			

1 - 4 主要面談者

Annex 1. List of Interviewees を参照。

第2章 終了時評価の方法

2-1 評価用グリッドの作成

本終了時評価は「新 JICA 事業評価ガイドライン第1版（2010年6月）」に基づき、事業効果の達成状況を総合的に判断し持続性の見込みについて検証するため、プロジェクトのロジカル・フレームワークであるプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）第3版（2010年2月実施の中間レビュー調査において改訂された最新版）の内容に沿って評価デザイン（Annex 15. Evaluation Grid を参照）を作成した。

2-2 主な調査項目

2-2-1 評価5項目

主たる評価項目には、上記ガイドラインに基づき、経済協力開発機構開発援助委員会（OECD-DAC）が提唱する評価5項目を用いた。その概要を、表2-1に記す。

表2-1 評価5項目の概要

評価5項目	概要
妥当性	「プロジェクト目標」「上位目標」はターゲットグループのニーズ及びターゲットグループが存する国家の政策と合致しているか。
有効性	「プロジェクト目標」は達成される見込みか。「成果（アウトプット）」はその達成に十分貢献しているか。
効率性	「成果（アウトプット）」を得るための「投入」の質、量、手段、方法、時期は適切であったか。
インパクト	「上位目標」はプロジェクト終了後5年以内に達成される見込みか。プロジェクトの実施により生じた正及び負の影響は何か。
持続性	プロジェクト終了後もプロジェクトの実施による効果は持続されるか。

2-2-2 実施プロセスと実績

表2-2の観点に基づいて評価した。

表2-2 追加項目の概要

追加項目	概要
実施プロセス	プロジェクトは適切かつ有効に運営されたか。進捗状況は適時モニターされ、その後の活動にフィードバックされたか。
実績	「成果（アウトプット）」は達成されたか。「プロジェクト目標」「上位目標」は、どの程度まで達成されたか。

2-3 情報・データの収集方法

評価グリッドに基づき質問票を作成し、本終了時評価調査の開始に先立って、C/PであるAPCD、アジア太平洋諸国の政府関係者でAPCDにおける研修経験があるFP、同諸国の障害者支援NGO

等に所属し APCD での研修経験がある AO、及び日本側長期専門家に配布した。また、左記の研修経験者らには、研修内容に関する意見や習得した技術の活用に関する質問票を、別途配布した。これらの質問票に対する回答は本調査実施前に一部を入手し、残りの回答は、本調査実施時に現地での聞き取り調査で入手した。

2-4 調査・評価上の留意点

本プロジェクトは、アジア太平洋地域の障害当事者とその家族及び障害者支援組織をターゲットグループとする広域プロジェクトであり、プロジェクトによる効果がプロジェクトサイトの存するタイに留まらず、アジア太平洋地域に広く波及することを目的としたものであることから、調査対象を拡げ、評価の視点も、広域なターゲットエリアに継続的に裨益するものであるかに留意した。

第3章 プロジェクトの実施体制と実績

3-1 プロジェクト実施体制

3-1-1 体制の変遷

以下の表3-1に、本プロジェクトのフェーズ1（2002年8月開始）から今回のフェーズ2終了時評価時点までの実施体制の変遷を時系列にまとめた。

表3-1 実施体制の変遷

年月	内容	備考
2001年12月	第2回事前評価調査実施 (第1回は同年8月、第3回は翌2002年4月に実施)	タイ側より、APCDを「独立法人化」する案が提示された。
2002年8月	プロジェクト・フェーズ1開始	APCDは、タイ国社会開発人間の安全保障省に設置された公共福祉局（Office of Welfare Promotion, Protection and Empowerment of Vulnerable Groups : OPP）の一部門となり、OPPをC/Pとしてプロジェクトは開始された。
2004年7月	APCD基金設立	シリントン王女により寄付された5万米ドルが原資。
2004年11月	APCD施設建設竣工	日本政府の無償資金協力による。（E/N締結は2003年6月）
2004年11月	APCD基金の財団登録	APCD基金が財団登録され、APCDからは独立した組織として、財団内に運営委員会が設置された。
2005年5月	フェーズ1中間評価実施	提言で、「独立法人化」の議論が本格化しており、APCDに勤務する公務員のOPP職員は法人化後にAPCDを離れると予測される事を上げ、ノウハウの継承を含む人材確保対策を求めた。
2005年12月	APCD財団運営委員会において、APCDは早期に独立法人化すべきであるとの結論。	
2006年9月	フェーズ1終了時評価実施	提言で、プロジェクト終了時までに「独立法人化」のロードマップの作成と実施、法人化後の職員の勤務体系の構築を求めた。（同評価実施時点で、職員数は23名。うち、14名がOPP職員、タイ政府が臨時に雇用した職員が6名、APCDが独自に雇用した職員が3名）また、「独立法人化」後の運営を支援するため、フェーズ2の必要性を指摘した。

2007年4月	フェーズ2事前調査実施	「独立法人」化のロードマップを作成。ただし、通常の「独立法人」は国内の裨益を目的としており APCD の国際化理念とは完全には合致しないため、5年間の期限付きの「独立法人」とし、その後に国際化する方向であると報告書で述べている。
2007年7月	フェーズ1終了	
2007年8月	プロジェクト・フェーズ2開始	
2007年8月	タイ国内閣決議にて「独立法人化」は却下され、APCD 財団の運営下に置かれる事が決定。	却下の理由は、フェーズ2事前調査の欄を参照。5年間の期限付き「独立法人化」は実現せず。
2007年9月	組織改革により、社会開発人間の安全保障省内に障害者エンパワメント局 (NEP) が設置された。	左記に伴い、プロジェクトの C/P が OPP から NEP に移行した。
2009年1月	社会開発人間の安全保障省大臣が、APCD の運営を APCD 財団に委譲する書類に署名。10月に運営権が財団に完全移行する事が決定。	完全移行に向けて、APCD は独自に職員の新規採用を開始。 APCD の施設の所有権は NEP に留まるため、APCD 財団が NEP から土地と建物を借用する合意書に署名。
2009年7月	フェーズ1開始時からチーフアドバイザーを務めていた専門家が7年間 (フェーズ1で5年、フェーズ2で2年) の任期を終了。	同年12月に後任が着任するまでの4カ月間、チーフアドバイザー不在となる。
2009年10月	APCDセンターがAPCD財団の管轄下に完全移行。 元プロジェクトチーフアドバイザーがAPCD所長に就任。	APCDの職員採用規定から国籍条項を削除し、タイ国籍以外の人材も採用出来る事とした。
2009年12月	C/P変更合意に関するミニッツに、JICAタイ事務所とAPCD財団が署名。 チーフアドバイザー (後任) が着任。	APCD財団理事長とAPCD所長がチーフアドバイザーのC/Pとして明記された。
2010年1月	フェーズ2中間評価実施	
2011年5月	2008年5月から3年間ナレッジマネジメントを担当した長期専門家が任期終了。翌月から、APCDの職員として現在も勤務中。	
2012年2月	フェーズ2終了時評価実施	
2012年7月	フェーズ2終了 (予定)	

(出典：各種評価調査報告書及び日本人専門家による事業進捗報告書より抜粋)

プロジェクト実施体制の最大のテーマは、プロジェクト・フェーズ1の開始前から議論されていた APCD の「独立法人化」であるが、そもそも、当初から「独立法人化」をめざした理由は、以下の3点¹であった。

1. 人事面の柔軟性の確保（公務員の頻繁な人事異動を避け、タイ国外の人材や障害当事者の登用を含む専門人材を育成する事が可能となる）
2. 財政面での柔軟性の確保（多様な資金源の確保）
3. 国際化への基盤作り（タイの国際機関は、独立法人化後に国際化している）

2009年10月に APCD が APCD 財団の管轄下に完全に移行し同財団と一体化、財団法人となった事により、APCD の全職員は公務員ではなく民間組織の職員となり、同職員採用規定の改正も実施され、国籍に関係なく人材の登用が可能となった。また、障害当事者も積極的に採用されている。

財政面では、正式な手続きを経たうえで APCD 財団の基金を活用する事、及び、民間組織として寄付金を募る事が比較的容易となった。

APCD 財団は政府機関ではなく²、また独立行政法人でもないため国際的な活動を容易に推進可能な立場であり、理事会を構成するメンバーの人脈等も、それを後押しするものとなっている。

以上のように、結果として組織形態における独立法人とはならなかったものの「独立法人」をめざした理由は実現している。

3-2 プロジェクトの実施プロセス

3-2-1 コミュニケーション

(1) APCD 内のコミュニケーション

実働部隊である APCD では、毎週行われる各部門でのミーティング及び部門長によるミーティング、毎月の職員全員による全体ミーティングを通じて情報や意見の交換を行い、APCD 全体の意見集約に努めている。

(2) FP 及び AO とのコミュニケーション

APCD は、セミナー等で開催される実務者会合、ミッションの派遣、ホームページ・ニュースレター・E-Café（Empowerment Cafe）等を利用した情報発信を通じ、FP 及び AO とのコミュニケーションに努めているが、今般の終了時評価調査時点で、FP の数は12（組織又は団体）、AO の数は43（同左）であり、現在のマンパワーにとって、活発な双方向のコミュニケーションを行うには相当の努力が必要となっている。今般の調査では、バングラデシュ、パプアニューギニア、インドネシアの3カ国のFPを訪問しインタビューを実施したが、いずれのFPにおいても担当者が入れ替わって間がなく、前任者からの業務引き継ぎもなされていないため、APCD の活動に関する知識と関心が十分とは言えなかった。FP は障害者問題に対する政府機関の窓口で公務員である事から、人事異動によりこのよう

¹ 「フェーズ2事前評価調査報告書・2007年8月」より抜粋。

² 2007年4月16日付けで、タイ国王室の正式承認により、APCD 基金の正式名称は「シリントン王女の後援の下にある APCD 基金（Foundation of Asia-Pacific Development Center on Disability Under Patronage of Her Royal Highness Princess Maha Chakri Sirindhorn）」となった。

な状況が発生するのはやむを得ないとしても、担当者の変更に関する情報をいち早く入手しデータをアップデートする工夫が必要である。

過去に APCD で研修コースに参加した研修受講者がその際に作成したアクションプランを確実に実行しているかをフォローする事も、現在の APCD のマンパワーにとって相当の努力が必要となっている。アクションプランの達成状況に関するアンケート結果では、達成率の平均値が 97.7%と非常に高い数値（サンプル数 31 件）を示したが、結果だけでなく、その進捗においていかなる課題が発生しどのような対応あるいは工夫によって解決に至ったかとの情報は、他の AO が共有すべき貴重な財産である。2010 年 2 月に実施された中間レビュー調査以降より、研修終了 3 カ月後に E メールにてアクションプランの実行状況を調査する努力がなされており、状況の改善が期待される。

また、ネット上で情報交換を行う E-Café や Face book はフォローアップのための有効なツールではあるが、英語による表現力・理解力は FP・AO によりギャップがあり、活用出来る者は一部の者に限られている。この点はホームページ及びニュースレターも同様で、今後の課題である。

(3) キープレイヤーとのコミュニケーション

APCD は、regional 及び sub-regional な各種会合に主催、共催、あるいは参加者の形で加わり、国際機関、各国政府機関、国際 NGO 等とのコミュニケーションを図る事で相互間の連携に繋げる努力を続けている。表 3-2 に、代表的な会合を例示する。

表 3-2 APCD が参加した会合（抜粋）

会合名	年月	開催場所	参加者数	主な参加者
Presentation at Triangular and South-South Cooperation to be Focus of UN Forum	2008 年 10 月	タイ	50	UNDESA、UNESCAP
1st Asia-Pacific CBR Congress	2009 年 2 月	タイ	650	Over 650 participants from more than 50 countries
High-level Meeting on South-to-South Cooperation	2009 年 3 月	タイ	20	Senior government officials from the Asia-Pacific region (mainly the ASEAN region)
CBR Asia-Pacific Network Meeting	2009 年 12 月	タイ	18	18 country representatives of the CBR Asia-Pacific Network
Regional Leadership Conference in Pakistan	2010 年 7 月	パキスタン	150	Organized by STEP in collaboration with Government of Pakistan, APCD and others
Senior Officer's Meeting on South-to-South Cooperation on Disability	2010 年 8 月	タイ	30	20 representatives from Ministry of Social Welfare and 10 representatives from Ministry of Foreign Affairs from ASEAN countries

Asia-Pacific CBR Convention	2010年11月	マレーシア	553	Representatives of PWDs, CBR practitioners, domestic/international NGOs and government officials from 32 countries in the Asia-Pacific
2nd Asia-Pacific CBR Congress	2011年11月	フィリピン	600	More than 600 Delegates from 65 Countries
Make the Right Real Campaign in the Philippines	2011年12月	フィリピン	3,000	Collaborate with NCDA, SM and ESCAP

(出典：ANNEX11 List of Trainings, Workshops and Seminars)

また、「3-2-3 技術移転方法」で述べるタイ国内の障害当事者の研修参加をきっかけに、タイ、ミャンマー、カンボジアと順に広がった障害者組織の設立は、タイ国内のキープレイヤーとのコミュニケーションが最大限に活かされた例と言える。

なお理事会では、タイ外務省国際開発協力局 (TICA)、障害者エンパワメント局 (NEP) 関係者のみならず、国会上院議員、障害者団体代表、障害当事者等の障害課題に関するキープレイヤーがメンバーとなっている。

3-2-2 意思決定に至るプロセス

終了時評価調査時のプロジェクトの実施体制を、図3-1に示す。

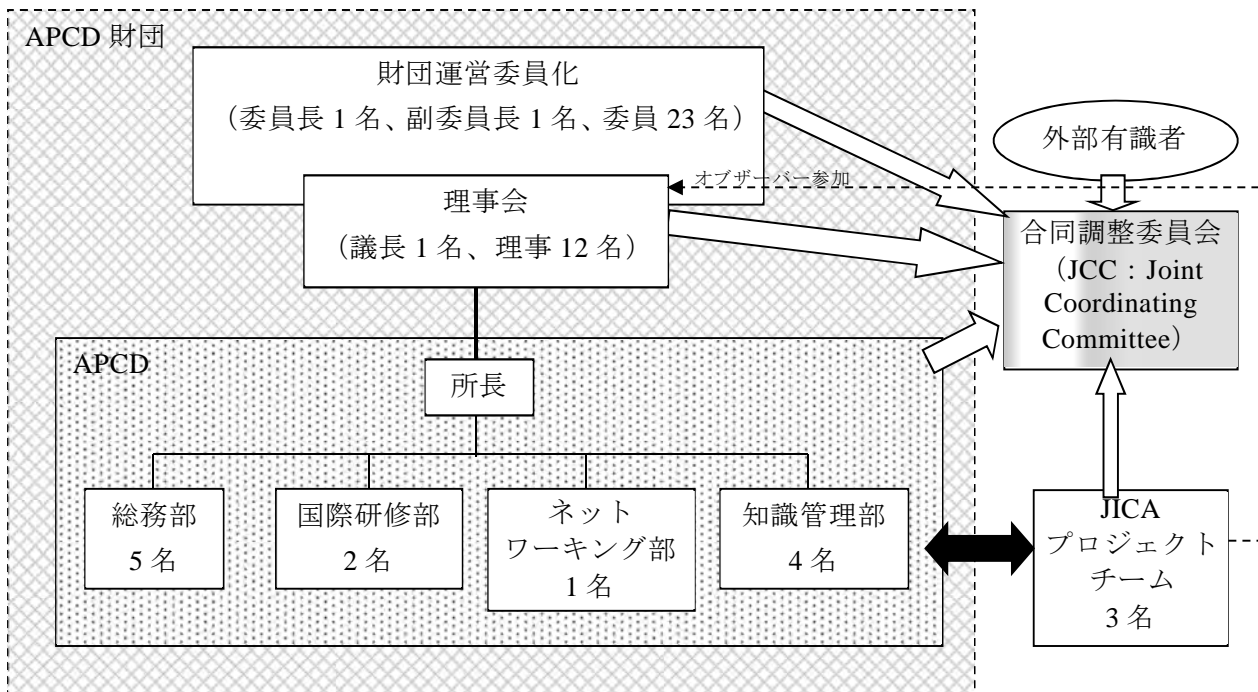


図3-1 プロジェクトの実施体制

(作図：終了時評価調査団)

APCD 財団は、APCD（所長以下 13 名）、理事会（議長は元外相のテート・ブナン氏、現 68 歳）、財団運営委員会（委員長は元首相のタニン・クライウィチェン氏、現 84 歳）により構成されている。活動・人事・予算等、APCD の運営に係る事項について APCD が案を理事会に諮り、最終意思決定機関である財団運営委員会で承認する流れとなる。理事の多くが、財団運営委員を兼任している。APCD の所長は理事の 1 名であるが、財団運営委員は兼任していない。両会合は 2 カ月に 1 度、理事会のおよそ 2 週間後に財団運営委員会という日程で開催されている。日本人専門家による JICA プロジェクトチームは、財団理事会にオブザーバーとして参加する事が認められている。

JCC（合同調整委員会）は半年に 1 度開催される、過去半年間の活動のレビューと今後半年間（長期計画が報告されるケースもある）の活動を発表する会合で、外部有識者が意見を述べる場ともなっている。外部有識者には、障害者団体の代表も含まれる。委員長は理事会議長であるテート・ブナン氏、副委員長は JICA タイ事務所次長が務めている。

APCD の終了時評価時点での人員配置は図 3-1 に示すとおりで、総務部 5 名のうち、1 名はハウスキーパー、1 名は運転手であり、所長及び他の部署を含む事務系職員の合計は 11 名となる。インタビューの結果、各職員の業務に対するモチベーションは高いことが確認されたが、現在の業務を遅滞なくこなすにはマンパワーの不足は否めず、現在、総務部と知識管理部の職員を各 1 名ずつ募集中である。

3-2-3 技術移転方法

(1) 長期専門家の派遣

合計 9 名の長期専門家が派遣された（内訳は「3-3 投入実績」のとおり）。

長期専門家は、主に APCD 職員の日常業務管理の技術向上を目的として、APCD 職員との協働作業による OJT、ノウハウ蓄積のための記録の習慣付け等の技術移転を行い、研修生向け CBID リソースブック、研修ロジスティックマニュアルを作成した。

(2) 短期専門家の派遣

合計 16 名の短期専門家が派遣され、プロジェクトの前半は、フェーズ 1 の終了時評価において課題とされた聴覚障害及び知的障害分野に重心を置いた技術移転を行ない、後半は、障害を限定しないアプローチ（クロス・ディスアビリティ）とした。

プロジェクトの活動を通して設立されたタイの知的障害者当事者団体の活動により、ミャンマーとカンボジアにおいて知的障害者組織が設立された事は、カウンターパート研修、短期専門家、現地活動が効果的に連携した好事例として挙げられる。第 4 段階と第 5 段階は、“南南協力”としての活動であり、各々が個々の国々で初めて設立された知的障害者組織となった。

表 3 - 3 知的障害者組織設立の手順

第 1 段階	タイの知的障害者のキーパーソンが本邦研修に参加。
第 2 段階	知的障害に関する短期専門家を日本から APCD に派遣。
第 3 段階	APCD (プロジェクトチーム) が上記本邦研修生を支援し、タイでの知的障害者組織 (ダオルアン) を設立。
第 4 段階	ダオルアンと APCD が揃ってミャンマーを訪問し、ミャンマー国内での類似の障害者組織設立を支援。
第 5 段階	APCD、ダオルアン、ミャンマーの障害者組織が揃ってカンボジアを訪問し、カンボジア国内での類似の障害者組織設立を支援。

(3) 日本及び第三国でのカウンターパート研修の実施

本邦研修は、APCD 財団理事、APCD 職員、障害当事者のリソースパーソンを含むカウンターパートの人材を対象に表 3 - 4 の内容で実施された。(研修員の詳細等は、Annex 4 Training of Counterpart Personnel in Japan を参照の事)

表 3 - 4 カウンターパート研修

研修内容	実施時期	日数 (移動日を含む)	人数
Promotion of self-help activities	2009 年 2 月	10 日間	7 名
Management of Self-Help Groups of Persons with Intellectual Disabilities / Autism	2009 年 8 月	7 日間	5 名
Knowledge Management	2009 年 11 月	9 日間	2 名
Administration (Training Facilities)	2011 年 1 月	8 日間	1 名
Information support technology and effective publicity technique	2011 年 1 月	8 日間	1 名
International Training (Training Management)	2011 年 12 月	14 日間	1 名
Information and Knowledge Management (Universal Design)	2011 年 12 月	14 日間	1 名
	合計 (延べ数)	70 日間	18 名

(出典 : Annex 4 Training of Counterpart Personnel in Japan)

研修参加者は明確な抽出条件によって選定され、研修プログラムは必要最小限の期間の中で効率的に組まれた。研修参加者は帰国後、研修での経験や新しく得た知識を、ワークショップやフォローアップ活動において、APCD の他の鍵となるステークホルダーと共有した。

3-2-4 モニタリング

APCD の年間行動計画（投入を含む）は、最終意思決定機関である APCD 財団運営委員会の承認を経て APCD 職員全員が共有している。

半年に 1 度開催される JCC（合同調整委員会）は、外部の有識者を交えて、過去半年間の活動のレビューを行い、課題や修正箇所を洗い出して、今後の活動に活かす重要な機会となっている。

年間行動計画に基づき調査団が派遣され、担当者が成果に関する報告書を作成し、APCD 職員全員で共有している。同報告書を基に、年間活動計画に遅れがないかがモニタリングされている。

3-2-5 その他

2009 年 10 月に APCD が APCD 財団の下に正式に移行した事を受け、それまで APCD で勤務していた NEP 職員全員が NEP に復帰したために新たに 14 名の人材が新規採用された。その後も、個々の事情により職員の退職、新規採用は発生している。

3-3 投入実績

3-3-1 日本側の投入

(1) 専門家派遣実績

表 3-5 派遣専門家一覧

長期	担当分野名	派遣人数	主たる業務内容
	チーフアドバイザー	延べ 2 名	・チーフアドバイザーとしてのプロジェクト運営総括 ・（特に）成果 2 にかかる APCD 組織強化・組織移行
	業務調整	延べ 3 名	プロジェクト運営にかかる調整業務全般
	ネットワーク連携/人材育成	延べ 3 名	成果 1 にかかる人材育成業務
	ネットワーク連携/ナレッジマネジメント	延べ 1 名	成果 1 にかかる情報・ナレッジマネジメント業務
短期	担当分野名*	派遣期間	主たる業務内容
	知的障害ワークショップ支援	2007.11.19 ～ 2007.12.15	知的障害関係団体との連携活動開始にかかるノウハウの共有・技術移転
	聴覚障害ワークショップ支援	2007.11.28 ～ 2008.12.15	聴覚障害関係団体との連携活動開始にかかるノウハウの共有・技術移転

知的障害ネットワーク連携	2008.1.20 ～ 2008.1.26	知的障害関係団体との連携活動のノウハウの共有
知的障害者エンパワメント	2008.1.20 ～ 2008.1.26	知的障害者自身による活動やその支援に焦点をあてた技術移転
ナレッジマネジメント	2008.1.28 ～ 2008.2.15	ナレッジマネジメントにかかる技術移転
セルフ・アドボカシー促進	2008.8.12 ～ 2008.8.23	自助団体の設立・運営の経験共有、及び団体の発展と活動促進に関する助言
自助グループ強化	2008.8.12 ～ 2008.8.23	
セルフ・アドボカシー促進	2009.3.16 ～ 2009.3.20	知的障害者による当事者活動の強化や自助グループ立ち上げの支援
自助グループ強化	2009.3.16 ～ 2009.3.20	知的障害者による自助グループ立ち上げ・支援にかかるノウハウ共有・技術移転
知的障害セルフ・アドボカシー	2010.2.14 ～ 2010.2.23	知的障害者/自閉症者本人が自己を表現し自信を養うとともに、当事者活動の意味を理解するための支援
セルフ・アドボカシー活動支援	2010.2.14 ～ 2010.2.23	家族及びサポーターの当事者支援、及び知的障害者/自閉症者の能力強化支援活動にかかるノウハウの共有・技術移転
知的障害者の家族代表	2010.2.14 ～ 2010.2.23	家族及びサポーターの当事者支援、及び知的障害者/自閉症者の能力強化支援活動にかかるノウハウの共有・技術移転
知的障害セルフ・アドボカシー	2010.2.18 ～ 2010.2.23	タイの知的障害者/自閉症者の当事者グループ強化のためのメンバー支援
知的障害者の家族代表	2010.2.18 ～ 2010.2.23	家族及びサポーターの当事者支援、及び知的障害者/自閉症者の能力強化支援活動にかかるノウハウの共有・技術移転
研修運営	①2010.8.17 ～ 2010.9.2 ②2011.2.21 ～ 2011.2.25	APCD 職員の研修運営管理能力の強化
障害当事者組織間のネットワーク連携	2010.12.12 ～ 2010.12.18	ASEAN 自閉症ネットワーク設立にあたり、組織設立にともなう規約・運営体制確立にかかる技術移転

* 担当分野名は英文標記からの和訳表記

(2) 本邦研修実績

本プロジェクト期間中には下表のとおり研修が、日本において実施された（研修参加者名等の詳細はミニッツの Annex 4 を参照）。

表 3-6 研修実績

コース名	コースの内容・ねらい	実施年	期間	研修人数	研修生の所属
自助グループ活動促進	日本における自助グループの活動を実見、意見交換等を行う	2009年 2月	10日間	7名	自助グループ、APCD
知覚障害及び自閉症にかかる自助グループのマネジメント	日本における知覚障害、自閉症にかかる自助グループの活動を実見、意見交換等を行う	2009年 7月-8月	8日間	5名	自助グループ
ナレッジマネジメント	ナレッジマネジメントにかかる理解及びプロジェクト活動への効果的な利用方法等にかかる理解・習得	2009年 11月	9日間	2名	APCD 理事会メンバー、APCD
総務（研修施設）	研修実施にともなうロジ業務及び研修施設の管理方法にかかる理解・習得	2011年 1月	8日間	1名	APCD
情報支援技術及び広報	情報支援技術及び効果的な広報活動にかかる理解・習得	2011年 1月	8日間	1名	APCD
研修運営	障害者分野の研修実施ノウハウ習得。日本の当事者リーダーの経験共有	2011年 12月	14日間	1名	APCD
情報・ナレッジマネジメント（ユニバーサル・デザイン）	アクセシブルな情報提供の方法	2011年 12月	14日間	1名	APCD

(3) 機材供与実績

本プロジェクトでは機材供与は行っていない。

(4) 日本側投入予算

プロジェクト開始（2007年8月）から2012年12月までに、日本側が負担した現地業務費の総額は125万ドルである。内訳は次表のとおり。

表3-7 現地業務費（日本側）

（単位：US\$）

	航空賃	旅費 (航空賃以外)	謝金報酬 (スタッフ以外)	会議費 (セミナー、研 修等開催費)	一般業務費 (事務用品、公 用車燃料費等)	合計
2007年度	50,593.93	24,100.73	40,947.89	3,387.88	70,248.02	189,278.47
2008年度	87,835.19	111,145.20	53,676.22	16,179.15	72,685.64	341,521.40
2009年度	73,635.35	66,536.96	52,394.27	16,778.08	123,598.42	332,943.07
2010年度	88,741.79	46,578.05	22,822.65	5,643.43	57,547.58	221,333.49
2011年度（12月まで）	74,589.96	28,275.55	11,975.91	2,225.46	47,788.03	164,854.90
Total	375,396.22	276,636.49	181,816.95	44,213.99	371,867.69	1,249,931.33
%	30.03%	22.13%	14.55%	3.54%	29.75%	100.00%

1US\$=31.32919 Baht（2012年1月時点のJICA統制レート）
出所：プロジェクト資料

3-3-2 タイ側の投入

(1) 人員配置

2012年2月時点でAPCD財団に雇用されているタイ側人員は計13名である。さらに、円滑な業務遂行を目的として、タイ政府よりそれぞれの日本人専門家に対してアシスタントが配置されている。

(2) タイ側投入予算

プロジェクト開始（2007年8月）から2011年7月までに、タイ側が負担した現地業務費の総額は140万ドルである。内訳は下表のとおり。

表3-8 現地業務費（タイ側）

（単位：US\$）

	給与	施設	清掃	警備	日本人秘書給 与、燃料費	運営管理費※	資機材、メン テナンス費	合計
2007年8月～2008年7月	70,073.63	27,544.22	15,959.56	20,428.23	7,874.13	99,437.28	0.00	241,317.05
2008年8月～2009年7月	61,398.97	28,484.56	11,686.06	14,805.36	8,249.65	145,692.42	7,738.31	278,055.33
2009年8月～2010年7月	132,980.01	32,094.51	11,686.06	17,236.32	11,061.89	99,041.85	138,411.16	442,511.81
2010年8月～2011年7月	171,460.42	32,208.50	12,193.65	18,567.99	12,059.68	181,884.04	10,493.36	438,887.64
Total	435,913.03	120,331.79	51,525.33	71,037.90	39,245.35	526,055.59	156,642.33	1,400,751.82
%	31.12%	8.59%	3.68%	5.07%	2.80%	37.56%	11.18%	100.00%

1US\$=（2012年1月時点のJICA統制レート）

※ 運営管理費=会議費、残業費、消耗品、交通費

出所：プロジェクト資料

(3) タイ側提供の土地、建物、事務所及び施設等

APCDの土地及び建物は、タイ政府が所有権を有しており、APCD財団に使用を認めるとともに、建物の管理を委託する形となっている。

プロジェクト専門家には、APCDの事務棟内に執務スペースが提供されている。

3-4 成果達成状況

成果1. 「APCD、政府調整・窓口機関（FP）、協力団体（AO）、及びその他の関連組織との間で、より効率的で持続的な連携が進展する」

以下に示すように、成果1はその目標をほぼ達成している。

指標1. 「2009年8月までに7つのフォーカルポイント政府機関が役割について文書で合意する。」

2011年7月までに、以下の12の政府機関がフォーカルポイントとして役割について合意している（詳細はミニッツのAnnex 8を参照）。

1. Ministry of Labor and Social Development, Kyrgyz Republic
2. Ministry of Labor and Social Protection of the Population, Tajikistan
3. National Council on Disability Affairs, Philippines
4. Ministry of Health, Bhutan
5. Ministry of Social Affairs, Veteran and Youth Rehabilitation, Cambodia
6. Ministry of Social Affairs, Indonesia
7. Ministry of Labor and Social Welfare, Lao PDR
8. Ministry of Women, Family and Community Development, Malaysia
9. Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement, Union of Myanmar
10. Ministry of Social Welfare and Special Education, Pakistan
11. National Coordinating Committee on Disability, Viet Nam
12. Brunei Darussalam

フェーズ1を含め、計49の政府機関がフォーカルポイントとしてAPCDとの覚書に署名している。

指標2. 「2009年8月までに30の協力団体が役割について文書で合意する。」

2011年7月までに、40団体が協力団体として役割について合意している（詳細はミニッツのAnnex 9を参照）。

フェーズ1を含め、計200の団体が協力団体としてAPCDとの覚書に署名している。

指標3. 「2009年8月までに30の行動計画が作られ、そのうち60%がフォーカルポイント政府機関と/または協力団体とともに実施される。」

プロジェクト期間中、30の行動計画が作成され、その計画に基づき平均97.7%の活動が実施された（行動計画の詳細とその達成率はミニッツのAnnex 10を参照）。

指標4. 「CBR、NHE、KMなどある特定分野における3つのリージョナルネットワークが構築・強化される。」

APCDのファシリテーションにより、以下4つのリージョナルネットワークが構築・強化され、現在も継続し活動が行われている。また、プロジェクト終了時までさらに1つのリージョナルネットワークが構築される予定である。

1. CBR-Asia Pacific Network (アジア太平洋 CBR ネットワーク)	・ 2009年2月に開催された第1回アジア太平洋 CBR 会議（於バンコク、WHO・UNESCAP・タイ社会開発省・APCDが共催）の成果として設立。 ・ メンバー国はアジア太平洋地域の24カ国。
--	---

<p>2. ASEAN Autism Network (アセアン自閉症ネットワーク)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年12月に開催されたAPCD主催の自閉症ワークショップ(於バンコク)の成果として設立。 ・ワークショップには9カ国(ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナム、マレーシア)から自閉症家族計27名が参加。
<p>3. Empowerment Café (エンパワメント・カフェ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年2月に、インターネット上の情報共有ネットワークとして設立。 ・アジア太平洋地域の障害分野に関する情報を随時提供している。 ・1カ月当たり平均800件の情報が掲載されている。また、約1,000名がFacebook等ソーシャルメディアを通じ同ネットワークにメンバー登録している。
<p>4. South Asia Disability Forum (南アジア障害フォーラム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年7月にパキスタンで開催されたRegional Leadership Conferenceの成果として設立。 ・2011年9月にバングラデシュで開催されたSADFワークショップにて、バングラデシュの女性障害者(視覚障害)が代表者として選出された。 ・メンバー国は南アジア地域の8カ国(アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ)。
<p>5. (予定) Asia-Pacific Federation of Hard of Hearing and Deafened</p>	<p>—</p>

指標 5. 「ネットワーク連携をめざし10のリージョナルトレーニングと10のフォローアップ活動が行われる。」

指標 6. 「2012年までにサブリージョナルなネットワークと連携を促進するためにサブリージョナルワークショップが5回開催される。すべての成果とインパクトが記録され、文書化され、広く共有される。」

プロジェクト期間中、以下の研修、ワークショップ、及びセミナーがAPCDのファシリテーションにより実施された³(詳細はミニッツのAnnex 11を参照)。これらは、国際レベル、国レベル、草の根レベルと多岐にわたり、FP/AO及び国際機関を主とした様々な関係機関/者を巻き込む形で実施された。また指標7の項目で詳細を記すとおり、成果や記録は文書化され、ホームページ等

³ これら研修/ワークショップ/セミナー実績は指標5と指標6に分類が困難なため、まとめて記載することとする。また、分かりやすいように実績を分類しているが、これは調査団によるものであり、中にはいくつかの分類にまたがってあてはまるものもある。

を通じ広く共有されている。

- APCD 研修
「CBR/CBID」、「Self-Help Group (SHG)」、「Gender and Development」をテーマとした研修を計 10 回実施し、延べ 183 名が受講。
- 知的障害者のエンパワメントとネットワーク強化
6 カ国（中国、カンボジア、ベトナム、ラオス、ミャンマー、タイ）で計 13 回ワークショップを実施し、延べ 475 名が参加。
- ろう者/難聴者のエンパワメントとネットワーク強化
4 カ国（カンボジア、ベトナム、ラオス、ミャンマー）で計 7 回ワークショップを実施し、延べ 242 名が参加。
- 視覚障害者のエンパワメントとネットワーク強化
5 カ国（インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、ベトナム）から当事者リーダーを招聘しワークショップを実施。
- 国レベルの障害当事者エンパワメントとネットワーク強化
各国のニーズに合ったワークショップや研修を、AO を含む関係団体と協働で実施。ウズベキスタンでの CBR 研修や、バングラデシュ、フィリピンでの「Make the Right Real」キャンペーン等。
- ハイレベル会合
WHO や UNESCAP を含む国際機関との会合に出席。
- CDSHOD (Capacity Development for Self-Help Organizations of Persons with Disabilities) ワークショップ
パプアニューギニア、キルギスタン、タイにて開催。各ワークショップには 50 名前後の当事者団体、政府関係者が出席。
- CBR-Asia Pacific (AP)
WHO と共催で、第 1 回アジア太平洋 CBR 会議 (2009 年、於タイ)、第 2 回同会議 (2011 年、於フィリピン) を開催。政府高官や CBR 実施者を含む 600 名以上が参加。
- アセアン自閉症ネットワーク
ネットワーク構築のため、アセアン自閉症ワークショップを開催。9 カ国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナム、マレーシア）から自閉症家族計 27 名が参加。
- サブリージョナル・ネットワーク
南アジア障害フォーラムやエンパワメント・カフェ等、サブリージョナル・ネットワーク構築・強化のためのワークショップを実施。

指標 7. 「FP や AO、ステークホルダーと連携し、グッドプラクティスや有益情報を取りまとめたドキュメントが 30 できる。」

モデル活動にかかる DVD やブックレット等が 57 種類作成・出版された。また、それら出版物は FP や AO、国際機関等に広く配布され、ブックレット等資料に関しては APCD のホームページでも入手可能である。インタビュー調査によると、DVD やブックレットは AO や元研修生により

現場での研修や活動に活用されている。

「変革の担い手」としての障害当事者の活動をまとめたこれら出版物作成にあたっては、ストーリーに基づく知識創造（Story-based Knowledge Management：SbKM）の手法が用いられ、障害当事者が作成のプロセスにかかわることに重きが置かれた。これら出版物は障害当事者が持つユニークな知識・経験を行政官含む関係者と共有する有益なツールとなっている。

出版物の内容は以下のとおり（詳細はミニッツの Annex12 を参照）。

- ・ブックレット：8 種
- ・DVD 及びニュースクリップ：18 種
- ・漫画及びフォトブック：3 種
- ・ワークショップレポート：10 種
- ・研修レポート：7 種
- ・リーフレット・その他：11 種

指標 8. 「APCD の活動に参加した者の 60%がコミュニケーションのアクセシビリティに満足する。」

評価調査中のインタビュー調査結果によると、回答者の 87%がコミュニケーションのアクセシビリティに満足している（総回答者数 15 名の回答内訳：「大変満足」8 名、「ある程度満足」5 名、「あまり満足ではない」2 名）。

情報のアクセシビリティに関するカウンターパート研修を受講した APCD 職員が、そこで学んだ知識を活用し出版物や研修資料のアクセシビリティ向上に努めている。また研修では、参加者に合った資料準備（例：知的障害者の研修では絵を多く使用）や手話通訳の手配を行っている。

他方、インタビュー調査の中では、手話通訳者の能力等、聴覚障害者のアクセシビリティに更に改善の余地があることが指摘されている。

指標 9. 「研修受講者の 80%が満足している。」

研修・ワークショップ参加者に対して実施したアンケート調査結果（計 17 回、研修終了後にプロジェクトが実施）によると、94%の参加者が研修に「満足している」/「非常に満足している」と回答しており、指標の求める 80%を達成している（アンケート調査結果はミニッツの Annex 13 を参照）。

指標 10. 「研修参加者の 70%が、学んだことを共有し、活動のイニシアティブをとり、または、活動を強化する。」

APCD 職員へのインタビュー調査によると、2011 年 5 月以降、研修参加者には研修 3 カ月後の活動報告を義務付けており、参加者の 3 分の 1 が活動レポートを送付、残りの半数からは写真を含む何らかの連絡をメールで受領している。また、APCD の活動のほとんどは元研修生により実施されているか、元研修生が参加している。これらから、研修参加者はある程度高い割合で学ん

だことを共有し、新たな活動を始めているものと推察される⁴。

成果 2. 「国際的な活動を継続するため APCD の運営管理能力が強化される。」

以下に示すとおり、成果 2 はその目標をほぼ達成している。

指標 1. 「APCD マスタープランが APCD 財団によって承認される。」

中間レビュー以降 APCD マスタープランが作成され、2011 年 5 月 3 日に APCD 財団運営委員会によって承認された。

指標 2. 「APCD マスタープランの進捗報告書が APCD 財団によって承認される。」

進捗報告書は作成された。

指標 3. 「APCD の活動成果を示す年報が毎年発出される」

2011 年度年報が発行され、NEP に提出された。

3-5 プロジェクト目標達成の見通し

プロジェクト目標：アジア太平洋地域において、障害者のエンパワメントと、「障害者が権利を保障され非障害者とともに諸活動に参画できる社会」の促進に向けて、APCD が、障害当事者組織と各国政府を含む障害者支援組織の連携を促進する地域センターとして機能する。

指標 1. 「APCD に言及した公式文書や宣言の数」

以下の 13 の公式文書及び宣言において APCD が言及されている。APCD は、これらの公式文書作成の過程に主要メンバーとしてかかわっており、障害当事者組織と各国政府を含む障害者支援組織の連携を促進する地域センターとしての役割を担ってきたと評価できる。

1. Bishkek Statement (2008 年 10 月)
2. Phuket Declaration on Disaster Preparedness for Persons with Disabilities (2009 年 5 月)
3. Bangkok Statement (2010 年 1 月)
4. South-South Cooperation Agreement (2009 年 3 月)
5. Islamabad Recommendations on Regional Networking and Collaboration in South Asia (2010 年 7 月)
6. Bangkok Statement on South-South Cooperation (2010 年 8 月)
7. Bangkok Statement at ESCAP Committee on Social Development (2010 年 10 月)
8. Kuala Lumpur Declaration (2010 年 11 月)

⁴ 本指標の計測は困難であり、中間レビュー調査報告書でも「FP/AO のフォローアップ体制の充実」が提言として指摘されている。だが、2,000 名に上る研修参加者や 200 以上の FP/AO をフォローすることは現実的ではない。

他方、APCD は限られた人員で、国際会議やミッション派遣時に公式・非公式の形で積極的なフォローアップを行い、メール等を通じたやり取りも活発である。また、2011 年 5 月以降の研修参加者には、研修終了後 3 カ月後に必ずフォローアップのメールを送ることになっている。

9. Bangkok Statement on Autism (2010年12月)
10. Islamabad Recommendation (2011年1月)
11. Port Moresby Recommendation (2011年3月)
12. Dhaka Recommendation (2011年9月)
13. Manila Recommendation (2011年12月)

指標 2. 「草の根レベルの組織も含めた障害当事者組織と障害者支援組織により APCD が認知されている数」

評価調査中に実施されたインタビュー調査によれば、18名中5名が「(出身国の) 障害当事者/障害者支援団体の80%以上が APCD を認知している」と回答した。

また、世界銀行が南南協力のベストプラクティスとして指定した6つの事例の1つに APCD が認められた。これにより、国際レベルにおける APCD の認知度はより高まったと推察される。

上記の指標達成状況から、APCD が障害関連組織間の連携を促進する地域センターとして機能していると計測できる。また、APCD のファシリテーションにより連携が促進された具体事例は数多く確認されており、本プロジェクト目標は達成されたと判断できる。連携が促進された事例は「4-1-4 インパクト」の項目にて記すが、以下に顕著な事例を挙げる。

(1) パプアニューギニアにおける障害当事者エンパワメントと UNCRPD の署名

2004年以來、APCD はパプアニューギニアの障害当事者エンパワメントに取り組んできた。2007年には Papua New Guinea Assembly of Disabled Persons (PNGADP) と共に CDSHOD ワークショップを開催した。そこには政府高官を含む多くの関係者が参加しており、関係機関/者間のネットワークが醸成された。これら障害当事者のエンパワメントの過程は、SbKM 手法を用いフォトブックにまとめられ、PNGADP の認知度向上に寄与した。2011年、UNCRPD の批准と実施を促進するための Make the Right Real キャンペーンを PNGADP、政府関係者、UNESCAP 等と APCD が協働で開催し、約80名が参集した。こうした一連の活動により、UNCRPD 署名に対する期待と認識が高まり、署名が実現し、政府高官は同条約の近い批准を公約した。

(2) パキスタンにおける UNCRPD の批准

2005年の CDSHOD ワークショップ以降、APCD は複数の AO と協働で数多くのセミナーやワークショップを実施してきた。これらのすべての活動には FP である社会福祉・特別教育省の特別教育局長の参加があった。このようなパキスタンにおける政府と当事者団体、及び APCD の協働のプロセスは APCD のナレッジマネジメント活動として記録され、活用されている。2011年1月末、それまでの活動の蓄積により構築された政府と当事者団体間の連携により Make the Right Real キャンペーンが開催され、同条約の批准に少なからず影響を与えた。

(3) 障害者の権利実現 (Make the Right Real) に向けた UNESCAP との連携

APCD と UNESCAP の連携活動として、UNCRPD の批准と実施促進を目的とする「Make the Right Real」報告書とホームページが作成された。

3-6 上位目標達成の見込み

上位目標：アジア太平洋地域において、①障害者のエンパワメントと、②「障害者が権利を保障され非障害者とともに諸活動に参画できるバリアフリー社会」を促進するために、APCD の活動を通じて障害当事者/障害者支援組織の活動が強化される。

指標 1. 障害当事者/障害者支援団体により、地域ネットワークや連携のメカニズムが導入・強化される。

指標 2. フォーカルポイント（政府調整・機関 FP）と協力団体（AO）により、①障害者のエンパワメントと、②「障害者が権利を保障され非障害者とともに諸活動に参画できるバリアフリー社会」が促進される。

指標 3. FP や AO と作成した行動計画が増える。

以下の理由により、APCD が上位目標達成に向け漸進していると判断できる。

- ・ APCD と多様な関係機関との協働により、①障害者のエンパワメントと、②「障害者が権利を保障され非障害者とともに諸活動に参画できるバリアフリー社会」を促進するための数多くのネットワーク及び連携活動が実施されている。
- ・ APCD によるファシリテーションの下、障害当事者/障害者支援組織によりニーズに基づいた地域連携/協働活動が進められ、強化されている。これらの活動は障害運動やインクルーシブ開発を促進するものである。
- ・ FP や AO との連携に加え、APCD は国連機関や市民社会、民間セクターを含む多様な機関との連携を図っている。

第4章 評価5項目に照らした評価結果

4-1 評価5項目による評価結果

4-1-1 妥当性

本プロジェクトは、以下の理由により妥当性は高いと評価出来る。

(1) 政策との合致

2010年2月5日、中間レビューにおけるタイ及び日本の合同評価チームは、本プロジェクトがタイ政府の政策に合致していると評価した。タイ政府は、“障害者の生活の質発展計画 No.3 2007-2011”などの政策を取り入れる事により障害問題に取り組む事の重要性を強調しており、この方向性はこれまでも維持されており、今後も維持され続けるであろう。よって本プロジェクトは、タイ政府の政策に合致していると評価出来る。

上記中間レビュー調査の終了時点で、ASEAN 地域における UNCRPD の批准国は、タイを含め3カ国であった。マレーシアが2010年7月に、インドネシアは2011年11月にそれぞれ批准しており、2012年2月22日現在、批准国数は5カ国と増えている。更に、ミャンマーは2011年12月に加入手続きを、パプアニューギニア（ASEAN オブザーバー）は2011年9月に署名手続きをそれぞれ行った。南アジア地域では、ネパール（2010年5月）とバングラデシュ（2011年7月）が批准しており、ブータンは2010年9月に署名手続きを行った。これらの事から、アジア太平洋地域において、障害問題がこれまでも、そして今後も重要課題の1つである事は明らかである。よって本プロジェクトは、アジア太平洋地域諸国の政策に合致していると評価出来る。

本プロジェクトの目標は、南南協力を促進し、社会的弱者支援の強化という日本政府及び JICA の開発戦略に合致している。よって本プロジェクトは、日本政府の政策に合致していると評価出来る。

(2) ニーズとの合致

<APCD のニーズ>

本プロジェクトは、人材、特にフェーズ1で実施した技術研修の参加者、及び情報を活用することによって、ネットワークと連携のさらなる促進をめざしてデザインされた。APCD は、それぞれの研修員の国において、活動を継続していくための技能と知識を必要としていた。こういったスタッフの技能強化というニーズに対応するため、プロジェクトはスタッフの本邦研修を実施するとともに、研修管理に関する複数の短期専門家を APCD に派遣した。

よって本プロジェクトは、APCD のニーズに合致していると評価出来る。

<障害当事者、その家族及び支援者のニーズ>

APCD はプロジェクトの活動を通じ、障害者組織及び同支援組織間のネットワークと協力関係を促進する仲介者としての経験を積み重ね続けており、この事は、特に草の根レベルの関係組織のニーズに合致している。

よって本プロジェクトは、障害当事者、その家族及び支援者のニーズに合致していると評価出来る。

(3) アプローチの方法

障害問題は、アジア太平洋地域における極めて重要な取り組みであり続けている。APCD が、引き続き障害に関する地域センターとして機能し続ける事への期待は大きい。

フェーズ1の終了時評価における提言に対応するため、本プロジェクトは、知的障害及び聴覚障害のインクルージョンに焦点をおいた活動から開始した。これら二種の分野でプロジェクトが経験を積んだ後に、その活動分野をクロス・ディスアビリティへと拡大させた。

よって本プロジェクトは、アプローチの方法において適切であったと評価出来る。

4-1-2 有効性

本プロジェクトは、以下の理由により有効性は高いと評価出来る。

(1) プロジェクト目標達成の見込みの視点

APCD は、インクルーシブでバリアフリーな人権に基づく社会に向けて、障害者組織及び同支援組織間のネットワークと協力関係及び障害者のエンパワメントを促進する、アジア太平洋地域における地域センターとして機能する事が出来る。「3-5 プロジェクト目標達成の見通し」に記したとおり、プロジェクト目標のほとんどが達成されている。

(2) プロジェクト目標と成果の因果関係の視点

「3-4 成果達成状況」に記したとおり、成果達成の指標のほとんどが達成されている。質の高い数多くのセミナーやワークショップの開催を通じ、APCD は機能的な地域センターとして認識されており、同時に、APCD 自体の能力、つまりは APCD 職員の技能も、機能的な地域センターとして業務を遂行するに十分な程度に改善されている。

4-1-3 効率性

本プロジェクトは、以下の理由により効率性は高いと評価出来る。

(1) 成果達成の見込みの視点

成果1及び成果2は、達成されている。プロジェクトの残りの期間で、更なる成果が期待出来る。

<成果に貢献した要因>

- ・ APCD 職員のコミットメント及び彼らの技能が、プロジェクトの円滑な運営に貢献している。
- ・ ①変革の仲介者としての障害当事者の参加、②障害当事者のニーズに合致したアプローチ、③多様な分野の組織の参加、④ネットワーキング、といった適切なアプローチが、プロジェクトに適用されている。

(2) 投入の視点

<日本人専門家の投入>

- ・ プロジェクトの初期段階においては、知的障害及び聴覚障害に重心を置き、両分野の強化のために専門家を投入しており、成果1の達成に貢献した。

- ・APCD は、APCD 職員、リソースパーソン、タイ国内の手話通訳者の技能改善を必要としており、そのニーズに基づき、研修管理の短期専門家を投入した。日々の業務は、長期専門家がフォローとモニターを行い、これらが、成果の達成に貢献した。

<日本からの機材投入>

機材の投入は行われていない。

<日本及び第三国でのカウンターパート研修>

本邦研修は、APCD 財団理事、APCD 職員、障害当事者のリソースパーソンを含むカウンターパートの人材を対象に実施した。研修参加者は明確な抽出条件によって選定され、研修プログラムは必要最小限の期間の中で効率的に組まれた。研修参加者は帰国後、研修での経験や新しく得た知識を、ワークショップやフォローアップ活動において、APCD の他の鍵となるステークホルダーと共有した。

<ローカルコスト>

- ・プロジェクト運営費は適切な時期に投入され、プロジェクトの活動を効率的に支援した。

<カウンターパートの職員>

- ・APCD に関する権限が NEP から APCD 財団に委譲した事により、APCD で勤務していたすべての NEP 職員は業務の引き継ぎを行った後、各々の元の政府部署に復帰した。

4-1-4 インパクト

本プロジェクトは、以下の理由によりインパクトは高いと評価出来る。

APCD によるファシリテーションにより実施された諸活動を通じ、アジア太平洋地域において以下を含む数多くのインパクトの発現が確認された。なお、マイナスインパクトは特に生じていない。

(1) 研修の効果

APCD 研修に参加した多くの FP や AO が、習得した技術や知識を活用し、新たな活動を始めている。

(2) ファシリテーションの効果

パキスタンやパプアニューギニアにおいて、ミッション派遣や FP/AO と協働で実施したセミナーにより、UNCRPD に対する政府高官含む関係者の意識が高まり、批准/署名が実現した。

(3) 出版物の効果

FP/AO を含む関係機関と協働し、「変革の担い手」としての障害当事者によるグッドプラクティスを数多くまとめ、出版した。ナレッジマネジメントの原則に基づき作成されたこれら出版物は、障害分野の関係機関だけではなく、ビジネスパートナーからも高い評価

を受け、インクルーシブでバリアフリーな社会の促進に寄与している。

(4) その他

- ・APCD は国連機関を含む国際レベルのパートナーと連携し、政策レベルの障害運動促進に貢献してきた。APCD は、アジア太平洋地域において障害者の権利保障を促進する重要な機関であることが国際機関の間で認知されており、APCD がかかわった数多くの公式文書がそれを示唆している。
- ・OECD 及び世界銀行により「南南協力の好事例」として APCD が選ばれた。

インパクトの詳細また他のインパクトについてはミニッツの Annex 14 を参照のこと。

4-1-5 持続性

(1) 政策面

アジア太平洋障害者のための、インクルーシブでバリアフリーな、権利に基づく社会に向けた行動（2003 年から 2012 年）のための「びわこミレニアム・フレームワーク」及び「びわこプラス・ファイブ」は、あらゆる活動への障害当事者の効果的な参加保障を求めている。APCD は上記フレームワークの中で、アジア太平洋地域における障害者のエンパワメントと社会のバリアフリー化促進を担うセンターとして公式に位置付けられており、APCD はその機能を強化してきた。第 1 の活動優先地域は大メコン地域、第 2 はアセアン諸国、第 3 は南アジア地域である。

(2) 組織面

- ・APCD 財団の監督の下、APCD は組織機能を強化してきた。
- ・情報共有やフォローアップ活動を通じ、APCD と AO のパートナーシップ関係は継続されている。他方、多くの FP の代表者は他部署への異動が避けられず、FP との関係継続のは困難な状況である。

(3) 技術面

APCD 職員は十分な日々の業務遂行能力を備えている。また、仕事に対し高い意欲とコミットメントを持っており、APCD が達成してきた成果は彼らの働きに因るところが大きい。

(4) 財政面

日本財団とプロジェクト契約を締結した。また他機関とも資金提供につき交渉を行っている。

(5) その他

APCD の役割は国連機関により十分認知されている。また、UNESCAP や WHO と協力関係があり、同関係はこれからも継続するものと推察される。

4-2 結論

(1) 本プロジェクト目標は達成された。

APCD はアジア太平洋地域における障害と開発の地域センターとして機能している。また APCD のファシリテーションにより、アジア太平洋 CBR ネットワーク、ASEAN 自閉症ネットワーク、エンパワメント・カフェ、そして南アジア障害フォーラムを含む様々なネットワーク基盤が設立された。

(2) 顕著なインパクトの発現が確認された。

パプアニューギニアやパキスタンでの UNCRPD の署名/批准に代表されるように、顕著なインパクトが数多く発現している。

(3) 継続したフォローアップが必要である。

プロジェクト期間中に培ったネットワーク基盤や人的・情報資源が有効に機能するため、APCD からの継続的なフォローアップが必要である。

第5章 聞き取り調査

5-1 タイ

障害問題の担当局は、社会開発・人間の安全保障省（Ministry of Social Development and Human Security）内の障害者エンパワメント局（NEP）。NEP は、タイ政府の組織改革により、それまで担当局であった公共福祉局（Office of Welfare Promotion, Protection and Empowerment of Vulnerable Groups: OPP）に代わり、2007年9月に設立された。障害者に関する法律は、それまでの“Legislation on Rehabilitation of Disabled Persons Act”を修正して2011年9月18日に公布された“Persons with Disabilities Empowerment Act”が最新のものである。タイは、2008年7月に UNCRPD の批准国となった。

2007年の統計⁵では、6,556万の人口に対し、国民の約2.9%にあたる187万人が障害者との結果が出ている。187万人のうち、男性は86万人（46%）、女性は101万人（54%）。他方、2012年2月末現在、NEPのWebページには、2月1日現在の障害者数141万人（人口の約2.1%）、そのうち、男性78万人（55%）、女性63万人（45%）と表示されており、2007年の統計と比較すると障害者数が減少し、かつ、男女比が逆転している。

5-1-1 関連団体

(1) ダオルアン（知的障害者本人の会）

同会のメンバー2名（両名とも知的障害者）と支援グループの代表にインタビューを行った。2009年に発足したダオルアンは、JICA 短期専門家や APCD 主催のワークショップ等によりエンパワメントされた知的障害当事者が中心となり活動を展開している。当事者メンバーは15名、各自がそれぞれの責任と役割を持つ。主な活動は、①アドボカシー（知的障害者に対する理解促進、知的障害者の声を社会に表出させる）、②食器洗剤（オーガニック）の製造・販売、③ボランティア活動、④余暇活動。

APCD がダオルアンのメンバーに寄り添い、キャパシティ・ビルディングを行ってきた。メンバーの1人は「APCDのおかげで自分たちの声を社会に届けることができるようになった。APCD は家族のようである」と述べた。CBID 研修での講義や、第2回アジア太平洋 CBR 会議での発表（唯一の知的障害者の発表者）等の成果を上げている。

(2) ノンタブリ自立生活センター／タイ自立生活センター協議会

代表へのインタビューを実施。

設立時より APCD にかかわっており、過去（フェーズ1）には研修のタスクフォース・メンバーとして研修デザインや評価に参加。また、JICA 短期専門家による「研修運営」研修に参加し、そこでの学びは自身の団体活動に具体的に活かしているとのことである。

今後 APCD と連携し、ASEAN 諸国の自立生活ネットワーク設立に取り組みたいとのことである。また、APCD の建物はアクセシブルである故、彼の団体活動に使用したいが、宿泊棟含め使用料が高いので考慮願いたいとの希望が挙げられた。

⁵ 出典：The 2007 Disability Survey, National Statistical Office, Ministry of Information and Communication Technology

(3) ASEAN TV

地上ではメコン地域の 3~4 カ国、衛星テレビでは 100 カ国以上で放映されているテレビ局。APCD の活動取材してきた記者にインタビューを行った。ASEAN TV では、これまでに APCD 活動にかかる 2 分程度のニュースが 20 回強、4~5 分程度のプログラムがタイ語で 2 本、英語で 6 本程度報道された。

APCD について、「タイだけではなくアジア諸国においては、障害者支援というとチャリティが一般的だが、APCD は障害者のエンパワメントや社会にアプローチしているという点においてユニークである」との意見であった。

(4) The Association of Thai Deaf Children & Women's Network Federation (TDCWNF)⁶

創設者は、NADT の元職員。女性の意見をより主張したいと 2008 年 6 月 TDCWNF を設立し、女性聴覚障害者及び聴覚障害児の人権、家庭内暴力の女性被害者の保護救済を主な目的として活動中。2008 年 4 月の CBR 研修に参加。Action Plan として、CLMV (カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム) の聴覚障害者団体との交流ミッションを企画。2009 年 5 月、法人として認可された。

同研修への聴覚障害者の参加は、30~40 名の受講者中、1 割未満。特定の障害者に質疑応答が集中する等の偏りはなかったが、講義内容は難しく、手話通訳は苦勞していたとのこと。上記ミッション終了後の個々の団体との交流は、言語と予算の制約により途絶えており、アクションプラン後のフォローアップの課題が浮き彫りとなった。

(5) National Association of the Deaf in Thailand

代表へのインタビューを実施。JCC メンバー。

現在 APCD とは具体的な連携活動を行っていないが、聴覚障害者が障害者の権利に関し学ぶ活動を、タイ及びタイ周辺国で APCD と連携し行いたいとのこと。具体的なアクションプランを作成したい旨希望が挙げられた。また、会議や研修等での聴覚障害者の情報アクセシビリティをさらに確保するため、準備段階から聴覚障害者が参加する必要があるとの意見が出された。

(6) Council of Persons with Disabilities of Thailand

すべての障害種別をカバーしている協会。フェーズ 1 から APCD と協力関係にあったが、フェーズ 2 では知的障害及び自閉症の分野を中心に連携。同団体の代表にインタビューを実施。同氏はアセアン自閉症ネットワークの代表を兼務している。

知的障害及び自閉症の分野では、短期専門家やカウンターパート研修を通じ多くの学びを得たとのこと。特に、知的障害者の就労、保護者のボランティア活動、知的障害者の権利擁護活動はタイでは一般ではなく、有益であったとの回答を得た。

タイ国内における APCD の役割が明確ではないため、今後の具体的な活動に関しアクションプランを作成し、国内の団体強化等に連携し取り組みたい旨希望が挙げられた。

⁶ インタビューは、タイ語通訳とタイ式手話通訳の計 2 名を介して行った。

5-1-2 CBID 指導者研修 研修生

評価調査中に実施された「Training of Trainers for Community-based Inclusive Development (CBID 指導者研修)」(2012年2月6日～17日)の研修生6名に対し聞き取り調査を行った。参加者15名のうち、女性は5名、男性は10名、自費参加者は9名であった。聴覚障害者はおらず、1名の視覚障害者以外は全員が肢体不自由者で、講義は性別・障害種による偏りもなく、平等に行われているとの感想を耳にした。研修前にEメールで全テキストを配布し、前もって目を通す機会を与えていた事も好評であった。視覚障害者の研修生は、音声ソフトを用いて読んだとのことである。

研修内容に関する感想は、極めて高評価であった。特に、CBRが登場した80年前後から、21世紀に入った直後にWHOが開催したガイドライン開発会議で作成されたCBRマトリックス、そして、今研修におけるCBIDへと刻々と進化する流れに着いて行くためには、今回のような研修への参加は不可欠との意見が多く聞かれた。また、聞き取り対象者の多くが、今回の研修で学んだことを活かし、政府レベルでのCBR/CBID研修の実施や、自助グループの立ち上げ等、新たな活動を始める具体的な計画を持っていた。

APCDの認知度は、研修生の所属団体・国によって異なった。カンボジアでは過去にAPCDが現地でワークショップ等開催したことがあり、都市部での認知度は8割以上との回答であった。他方、ウズベキスタンでは30%程度、パキスタンでは2割未満という回答を得た。パキスタンからの参加者2名によれば、知名度が低い理由は、国土が広く、一部の地域でのAPCDの活動は、他の地域では耳にしないうためとのことであった。

5-1-3 リソースパーソン

リソースパーソンとして活躍する4名に対しインタビューを行った。

APCDは研修実施や情報提供以外に、国際レベルで組織と組織、人と人を繋げ、障害運動をファシリテートする機関であり、そのように他機関からも期待されているとの回答が多くあった。また今後のAPCDの役割として、世界レベルでの活動展開や、研究機能の強化が求められているとの意見があった。

5-1-4 APCD 職員

APCD職員7名に対しヒアリングを行った。

APCDの職員間におけるコミュニケーションは、総じて良好という回答であった。上部への進言は必ず自分が所属する部門の長を通じてなされ、上部からの返答も所属長を通じて本人に伝えられるというシステムとなっているが、その状況に関し、大きな不満は聞かれなかった。

多くの職員が、APCDは上位目標の達成に向け漸進していると回答した。その要因として、職員がAPCDのミッションを理解し、共有していること、また一人ひとりが高い意欲とコミットメントを持って仕事に従事していることが挙げられた。

カウンターパート研修では、ユニバーサル・デザインや研修運営について学んだことを具体的に業務に取り入れ活かしているとのことであった。

5-1-5 APCD 理事

APCD理事6名(うち4名は障害当事者)に対しヒアリングを行った。

ヒアリングは個別に行ったが、共通して ASEAN 諸国を対象とした活動等について NEP と更に連携を強化するべきであるとの指摘があった。また、APCD 建物（事務棟及び研修棟）の改修及び活用についても NEP と緊密な連携が必要との指摘があった。この点については、調査中に開催された理事会でも議論された。

5-2 インドネシア

障害問題の担当局は、社会省（Ministry of Social Affairs）内の社会サービス・リハビリテーション部（Department of Social Services & Rehabilitation）障害者局（People with Disabilities Division）。インドネシアは、2011 年 11 月に UNCRPD の批准国となった。

2010 年に実施されたセンサスには障害に関する質問事項があるが、「障害を持つ家族がいるか?」、「その障害は、見る事、聞く事、運動する事、思考する事のどれに該当するか?」といった、極めて大雑把な内容となっている。同センサスの最終結果報告はいまだ公開に至っていないが、統計局が第一次集計結果を、オフィシャルに使用すべき数値ではないとの注釈付きで、担当部局に以下のように報告している。障害者局も、WHO や世界銀行の推測値から大きく下回っているこのデータを鵜呑みにはしておらず、障害のより詳細な定義に基づいた調査が必要であるとしている。

*視覚障害	3.05%
*聴覚障害	1.58%
*運動機能障害	1.62%
*知的障害	1.44%

5-2-1 関連団体

(1) CBR-DTC (Development and Training Center)

首都ジャカルタがあるジャワ島のほぼ中央（ジャカルタは西端）に位置するソロ（正式名称はスラカルタ）にある、1978 年設立の NGO。CBR 関係者の中で知らない人はいないほど有名かつ古い組織。現職員数 53 名。同組織は AO に登録されている。インタビューを行った Mr. Sunarman Sukanto は、同組織代表（1999 年に就職）で障害当事者。2009 年、APCD の CBR と自助団体のインクルージョン促進研修に参加。以後、リソースパーソンとして APCD における研修で講義している。インパクトに関するインタビューでは、以下の話が聞かれた。

- ・医療リハを軸とした CBR から平等な権利の主張へと、CBR-DTC が行う障害者（Persons with Disabilities : PWDs）や障害当事者団体（Disabled People's Organization : DPO）を対象とした研修内容が変わった。
- ・国際障害者デーの行進の際、前年までは儀式のように黙って行列の後をついて回るだけであったが、CBR-DTC の研修を受けた PWDs は、障害者の権利を声を張り上げて主張しながら行進した。

(2) CBR Alliance Secretariat

CBR Alliance を組織したきっかけは 2006 年 5 月の大地震。家も財産もなくした身体障害者（脊損、重度の骨折等）が一気に増加。DPO の連携と CBR の拡充の必要性が増し、CBR

Alliance のアイデアが自然に生まれた。CBM (Christian Blind Mission) のファンドによりジャワ島内の NGO が参加し、VSO (Voluntary Services Overseas) の技術協力を得て、2007 年に 2 回 (7 月、11 月) 2008 年に 1 回 (4 月) のワークショップを経て、25 の組織による Alliance が誕生。インタビューを行った Ms. Huldaria Bako は、APCD の CBR 研修に参加 (2010 年)。インパクトに関するインタビューでは、以下の話が聞かれた。

- ・南スラウェシ州のトランジャ族の村に、18 歳になる両下肢不随+右腕不随 (原因は不明。血族婚姻が多いための可能性もあり) の娘がいて、CBR Volunteer が説得しても、母親が一步も娘を外に出さず、娘も出ず。娘の髪を梳くのも母親。2011 年 4 月、Ms. Bako が同地域を視察し、偶然に訪問。APCD で学んだ Empowerment の話を母親に。1 月後、CBR Volunteer から、娘が自分で髪を梳くようになり、母親は、少しずつ何かを自分でさせるつもりだと話したと電話で報告。

(3) Sehjira Deaf Organization

寄付を募り、貧困層の聴覚障害児者に教育・就労に関する正確な情報を提供する事を目的に、聴覚障害ボランティアが 2001 年 12 月に設立。現在の活動は、聴覚障害者がいる家族を対象としたセミナー、聴覚障害者の就労に関する情報提供、聴覚障害児の就学のためのファンドライジング、メディアに対する手話啓発など。同組織は AO に登録している。インタビューを行った Ms Angkie Yudistia (重度難聴者) は 2010 年 3 月に DET (Disability Equality Training) を、Mr. Ahmed Fachri Siredz (失聴者) は同年 6 月に CBR 研修を、APCD で受講している。インパクトに関するインタビューでは、以下の話が聞かれた。

<Ms Angkie Yudistia>

- ・研修修了後、帰国して Thisable Enterprise を設立。インドネシアの法律に基づいて企業内に障害者支援基金を持っている特定企業 (オイル、天然ガスなどの分野) を対象に、その基金使用方法及び基金を元にした障害者雇用のコンサルティングを開始した。事業は始めたばかりなので具体的成果ははまだ出ていないが、企業からの問い合わせは増えている。
- ・2011 年 12 月、自伝「A DEAF WOMAN WITHOUT LIMITS」を出版。インドネシア語版 3,000 部 (単価 49,000 ルピー)、英語版 1,000 部 (単価 US\$15.00) 値段は出版社が決める、各本屋に配布して販売促進中。販売開始後いまだ 1 カ月で販売部数の集計は出ていないが、読者からの E メールが 150 通、Facebook は 2,000 人、twitter は 1,500 人のフォロワーが出来た。

<Mr. Ahmed Fachri Siredz>

- ・研修を受けてからは、情報の Accessibility を Deaf に対して如何に保持するかという視点を得た。今はリソースパーソンとして、他の Deaf の SHO や DPO において、Deaf が Agent of the Right になるための教育を実施しており、DPO 内の手話をいまだ習得していない人達を書き言葉を多用するように変化している。
- ・特別支援学校を訪問して講義を行う事を始めた。子供達に、Deaf でも可能性が沢山ある事、その可能性を自分で見付ける努力をする事を話し続けている。Ms Angkie の本 (インドネシア語版) はその際に非常に良いサンプルとなっていて、子供達の態度が一変する。

(4) Yayasan Autisma Indonesia

設立は 1997 年 3 月。自閉症児者を持つ家族や対応する教育関係者に、自閉症を理解し如何に対応すべきかについての情報を提供している非営利組織。会員（本人、家族、医療及び教育関係者など）数は約 1,000 名。ASEAN9 カ国の自閉症（Autism）関係団体が集まって会議を行うための仲介を APCD が行った。インパクトに関するインタビューでは、以下の話が聞かれた。

- ・ APCD が仲介して 2010 年 12 月に開催した 9 カ国会議の結果、2011 年 4 月に ASEAN Autisma Network (AAN) という 9 カ国間のネットワークが出来上がった。ANN のホームページ設置は、APCD の Mr. サムチャイ (International Training Manager) が協力。APCD の仲介がなければ AAN は出来ておらず、非常に大きな貢献。2012 年も、AAN は 4 月に会合を行う予定。(4 月 2 日は国際 Autism デー)

5-2-2 FP : フォーカルポイント (政府機関)

社会省 (Ministry of Social Affairs) 社会サービス・リハビリテーション部 (Department of Social Services & Rehabilitation)

2009 年 3 月に FP の署名を行った社会サービス・リハビリテーション部の長 (Director General : DG) は、その月末に、前任者である Dr. Makmur Sunusi と交代。更に、その Dr. Makmur に代わり、Mr. Samsudi が 1 月 27 日に DG に就任。前任者からの引き継ぎはなく、APCD の名称も活動内容も理解されていなかった。

障害に係る実際の業務は、社会サービス・リハビリテーション部内の障害者局 (People with Disabilities Division) で、現在の長 (Director) は Ms. Justina Dwi Noviantari。ただし同女史は、来週、Secretary DG (DG のすぐ下のポスト) に就任の予定。それにより、障害者局の長も新任が就任する。

5-3 パプアニューギニア

障害問題の担当局は、コミュニティ開発省 (Department of Community Development) 障害局 (Division of Disability)。同国は 2011 年 6 月、UNCRDP に署名したが、障害者数を大まかにでも把握出来ておらず (センサスに障害に関する項目が存在しない)、世界銀行による「世界のおよそ 15% の人口が何らかの障害を持っている」(出典不明) との推計値を使用しているに過ぎない。

5-3-1 関連団体

(1) CBR PNG Network

The 2nd CBR AP Congress (Nov. 2011, Manila) に PNG から 10 名参加。この集まりを機に、PNG の PWDs 関係の NGO の横の繋がりを強化するため、CBR PNG Network を編成。PNG 内の 32 団体が参加。ボードメンバー 5 名中、政府関係者は、総合病院の PT 2 名。活動は、参加団体に様々な情報を提供 (CBR 資料、セミナー開催情報、補助器具の入手方法など)。インタビューを行った Mr. Rjesh Nanda は、POM (ポートモレスビー) 総合病院内の義肢装具ワークショップの所長。以下の各会合終了後に引き続いて APCD が実施した CBR 1 日研修に参加。(① The 1st CBR AP Congress, Feb. 2009, Bangkok ② The 1st AP Convention on CBR, Nov. 2010, Malaysia ③ The 2nd CBR AP Congress, Nov. 2011, Manila) インパクトに関するイ

インタビューでは、以下の話が聞かれた。

- ・ APCD 主催の The 1st Pacific Sub-Regional Training Seminar on Capacity-Building for Self-help Organizations of Persons with Disabilities (CBSHOD) を 2007 年 2 月にポートモレスビー (ホリデイ・イン) で開催。13 カ国 (30 名~40 名) が参加。コミュニティ開発省が開催の挨拶。コミュニティ開発省は、同セミナーを機に National Policy on Disability の策定に着手した。また、Dept. of Community Development に障害者対策予算を付けた。
- ・ 2002 年から連携のあった PNG の NGO が、上記セミナー後に Papua New Guinea Assembly of Disabled Persons (PNGADP) を組織化し、2008 年、PNG における初の障害関連 NGO として政府に登録された。
- ・ コミュニティ開発省による National Policy on Disability の策定着手を受け、NBDP (National Board for Disability Persons の略。設立は 1979 年。設立目的は、リハ・補助具を含む医療の充実) もコミュニティ開発省と保健省の協力を受けて National Strategic Plan 2008 - 2012 を策定。CBR を取り入れた。
- ・ 保健省 (Dept. of Health) が、十カ年計画 (2011~2020) の中に CBR 活動における医療サービスを初めて盛り込んだ。それまでの計画には、CBR の文言はない。

(2) PNGADP (Papua New Guinea Assembly of Disabled Persons)

2002 年 8 月、PNG で初めての National Disability Conference が開催。32 の NGO (障害者支援団体) が参加し、結果として、後に PNGADP となる組織間の連携が出来上がった。APCD 主催の The 1st Pacific Sub-Regional Training Seminar on Capacity-Building for Self-help Organizations of Persons with Disabilities (CBSHOD) が 2007 年 2 月にポートモレスビーで開催された後、それまでの連携を組織化し、2008 年、PNG における初の障害関連 NGO として、PNGADP は政府に登録された。

同組織は AO (2009 年 3 月に署名) に登録している。インタビューを行った代表の Ms. Ipul Powaseul (両下肢不随) は、2011 年 2 月、2 日間の E-Café 研修に参加。インパクトに関するインタビューでは、以下の話が聞かれた。

- ・ 2006 年 3 月、APCD が PNG に調査団を派遣。PNG の障害者団体との連携の可能性を調査。その際、自助団体 (Self-Help Organization : SHO) というコンセプトが初めて PNG に持ち込まれ、調査団が訪問した漁村で初めての SHO が誕生した。APCD はその後、7 月と 12 月にも PNG に調査団を派遣。PNG における Regional Workshop for the Capacity Development of Self-Help Organizations of Persons with Disabilities (CDSHOD) の開催をコミュニティ開発省に提案、合意に至る。この合計 3 度の調査団 (車椅子の障害者がリーダー) による PNG の視察を受けた各地の障害者と支援組織は、障害者の可能性とバリアーについて学ぶ機会を得て、ある村は教会へのアクセシビリティを改善するため、独自で車椅子用のスロープを木材で作成した。
- ・ 2007 年 2 月、CDSHOD のワークショップが APCD 主催で開催された。同ワークショップでスピーチしたコミュニティ開発省は障害に関する National Policy に触れ、2009 年に National Policy on Disability を PNG で初めて策定した。
- ・ CRPD の推進活動として APCD が派遣したミッションが Make the Right Real キャンペーンを 2011 年 3 月末に PNG で行った結果、コミュニティ開発省と外務省を動かし、2011

年6月3日、PNG政府はCRPDに署名を行った。

5-3-2 FP：フォーカルポイント（政府機関）

コミュニティ開発省（Department of Community Development）障害局（Division of Disability）UNCRPDに関し、コミュニティ開発省は、既に批准に向けた申請書を外務省に提出。外務省も国会に提出しているが、そこで止まっている。国会で承認されれば、外務省が国連に申請を出す事になるが、それがいつになるかは分からない。

2012年（本年）10月に、PNGがホストとなって、Pacific Islands Disability Ministers' Meetingの開催が予定されている。その会合が、批准の1つのきっかけになると期待されているが、その前の6月に総選挙があり、コミュニティ開発省のMinisterが誰になるかによっても、状況が変わる可能性がある。

FP署名を行った前Secretaryが本年（2012年）1月末に突然の交代となり、それを不満として、前Secretary（既に新Secretaryが着任）は訴訟準備を行っている。

5-4 バングラデシュ

障害福祉の担当部局は社会福祉省（Ministry of Social Welfare）下にある社会サービス局（Department of Social Service）である。障害者の権利や差別の禁止を網羅的に定めた「バングラデシュ障害者福祉法」が2001年に制定された。同国は2007年11月にUNCRPDを批准、また2008年には同条約の選択的議定書も批准しており、国内の関係法規の整備が求められている。

5-4-1 関連団体

(1) Bangladesh Protibandhi Kallyan Somity（BPKS）

AOであるBPKSは1985年に設立された障害当事者団体であり、その活動を率いてきた代表にインタビューを行った。APCDとはAPCD設立時より関りがあり、フェーズ1時にはリソースパーソンとして研修に従事。同氏は国際レベルでも当事者リーダーとして活躍している。

APCDの強みは、認知度が高く、障害当事者/団体からの信頼が厚いことであり、APCDは草の根の当事者団体と政府レベルをつなげる役割を担っているとの意見であった。また、APCDは今の大きな障害運動の一部であり、政策レベルに与える影響は大きいとのこと。

APCDへの提言として、今後更に政策レベルにおいてダイナミックに活動展開するには、支所を作る等分権化を進める必要がある旨述べられた。政策レベルでの活動を更に促進させるためには、各国の障害に関する政策や当事者団体の動向を把握し、フォローアップを行う必要があるが、バンコクの事務所でその機能をすべて担うのは難しい故とのことである。

(2) DPO代表者によるグループディスカッション

BPKS傘下のDPO代表者7名及びBPKS職員1名によるグループディスカッション。うち、APCD研修参加者は2名、ミッション派遣時にAPCDが団体視察を行ったのは4団体。

APCDに対する認識に関しては、「草の根レベルで障害者の権利を推進している団体」、「DPOの代弁者」、「アジア太平洋地域においてDPIやUNESCAPと連携し障害運動を推進

している団体」等の意見が出され、APCD の地域センターとしての機能・役割は十分認知されているようであった。

APCD が与えた 1 番大きなインパクトとして、当事者自身の障害に対する見方が「医療モデル」から「社会モデル」へ、そして「権利に基づくアプローチ」へと変革されたことが挙げられた。障害に対する認識の変化は彼らの活動に具体的に反映され、団体の名称ならびに活動アプローチの変更や、当事者としての積極的な政策会議への参加等、障害運動が促進されている。

(3) Young Power in Social Action (YPSA)

YPSA は 1985 年に設立された NGO であり、保健、教育分野を中心に地域に根ざした活動を展開している（障害者支援に特化している団体ではない）。ボランティアを含めスタッフ数は 2,200 名。障害者をターゲットとした活動の他に、プログラムにおける障害のメインストリームにも取り組んでおり、現在障害を持つフルタイムスタッフが 15 名働いている。インタビューは団体代表、APCD 研修参加者 3 名（視覚障害者 2 名、身体障害者 1 名）、障害当事者スタッフ 1 名（視覚障害者）に対し行われた。

APCD 研修で学んだ DET や UNCRPD に関する知識を活用し、研修を実施する等、障害当事者のエンパワメント活動を行っている。結果 47 の自助グループの立ち上げに成功し、そのうちの 2 つは女性障害者グループであるとのこと。また、APCD の ICT 研修（フェーズ 1 時）で学んだ技術を活かし、YPSA 事務所内に ICT センターを設立し、これまでに 228 名の視覚障害者が研修を受講している。

インタビュー後、彼らがかかわっている女性障害者の自宅を訪問させていただいた。1 軒目は父親、娘 3 人とも下肢に障害を持つ家族、2 軒目は 4 姉妹が視覚障害を持つ家族。APCD で研修を受けた YPSA 職員がそれぞれの家族を定期的に訪問し、障害を持つ彼女たちが徐々にエンパワメントされた話を聞くことができた。彼女たちは今、NGO の地域ワーカーとして働いたり、大学に通い始める等活躍している。APCD の元研修生がロールモデルとなり、草の根レベルで障害当事者のエンパワメントを促進している好事例である。

(4) Women with Disabilities Development Foundation (WDDF)

同団体の副代表であり、また南アジア障害者フォーラム (SADF) の代表を務める女性当事者リーダー（視覚障害）に対しインタビューを行った。

APCD の強みは障害当事者による高い認知度と信頼であるとのこと。APCD は DPO を支援する団体であり、彼女自身アドバイスや情報が必要な時にはコンサルテーションを求められることができるとの意見であった。また、ホームページや Empowerment Cafe で入手できる他国や知的障害者の活動を含む情報は大変有益とのことであった。

SADF について、「SADF は南アジアにおける唯一の障害当事者ネットワークであり重要である。障害者の権利保障を獲得していくために一体となり、政策提言を行っていくことが期待されており、代表として頑張っていきたい」と述べた。

5-4-2 フォーカルポイント（政府機関）

社会福祉省 (Ministry of Social Welfare) の局長 (Joint Secretary [援助機関担当]) である Meshkat

Ahmed Chowdhury 氏にインタビューを行った。同氏が所属する行政官房は障害分野を含む社会福祉（貧困者、孤児、マイノリティー等）全般の政策業務を担っている。他方、APCD の FP は政策実施機関である部局（Social Service）であるが、今回の調査期間中には先方の都合によりインタビューを行うことはできなかった。

APCD が部局を FP としていることに関し、政策業務を担っているのは行政官房である故、行政官房を FP とするか、または両者を FP とし連携活動行う方が有益である旨提案がなされた。また、今後 APCD に期待する連携分野は①政策業務（行政官のキャパビルや政策へのインプット）、②障害児教育やセラピー、専門機器などテクニカルな支援とのことである。

第6章 提言と教訓

6-1 提言

(1) 「新アジア太平洋障害者の10年(2013-2022)」における国際的連携の強化

社会開発・人間の安全保障省と JICA を通じたタイと日本両政府の協力の下、APCD は、「アジア太平洋障害者の10年(2003-2012)」の促進のための地域の拠点として、非常に大きなインパクトを残した。APCD、社会開発・人間の安全保障省、JICA、APCD の FP 及び AO 間の国際的連携を、特に計画中の「新アジア太平洋障害者の10年(2013-2022)」のフレームワークにおいて、UNESCAP とのパートナーシップの下、更に強化する事を提言する。

(2) 地域に根ざしたインクルーシブな開発(CBID)活動の促進

APCD は、CBR 太平洋アジアネットワークの事務局として WHO に認知されており、更には、世界規模での CBR/CBID センターとなる事が期待されている。JICA が引き続き APCD 及び社会開発・人間の安全保障省との連携を継続する事を提言する。

(3) APCD の活動に対するタイのステークホルダーの協力の促進

APCD との連携に前向きに参加するように、リソースパーソン、アドバイザー、プロジェクトパートナーとしての、社会開発・人間の安全保障省、タイの障害当事者及び産業界を含むタイのステークホルダーの協力が、より促進されることを推奨する。しかしながら、APCD のマンデートである国際的立場には特別な配慮が必要である。

(4) APCD 施設の活用

APCD のパートナーのニーズに合わせ、APCD の事務棟及び研修棟をより多く活用する事を提言する。特にタイ国内や他のアジア太平洋諸国の障害者が使用することに対して、料金割引システムなどのインセンティブが考えられる。更に、日本政府による無償援助の目的に沿って、JICA の障害と開発の国際研修を APCD のアクセシブルな施設で実施する事も提言する。

(5) より多様な障害者の参加

フェーズ2において、知的障害者とその家族及び聴覚障害者の自助グループの育成に非常に大きな進展があった。しかしながら、精神障害者には、実際に焦点は置かれなかった。これらのグループが APCD の活動により多く参加し、将来的にはリージョナル及びサブリージョナルな地域の連携においてメインストリームする事を推奨する。

6-2 教訓

(1) JICA 専門家の派遣においては、カウンターパートの能力にかんがみて、必要な専門性が考慮されるべきである。

(2) フェーズ1及びフェーズ2を通して蓄積された人的・情報資源並びに構築されたネットワークは、APCD の重要な資産であり、今後の活動においてもさらに有効活用されるべきもの

である。

- (3) タイ、ミャンマー、及びカンボジアにおける自助グループのエンパワメントのため、知的障害当事者がリソースパーソンとして派遣され、活躍したことは画期的な事例であり、プロジェクトの顕著な成果に貢献するものである。
- (4) APCD のナレッジマネジメント活動としての記録作成により、効果的に知見を蓄積し、関係機関と共有することができた。また、フィリピンの SM スーパーモール（ショッピングモール）やマレーシアのエア・アジア（航空会社）、ASEAN TV（マスメディア）を含む民間セクターとの連携により、APCD の認知度を広域に向上させることに成功した。
- (5) APCD のファシリテーションにより、障害当事者団体、各国政府、そして UNESCAP や WHO を含む国際機関の有機的な連携が促進され、その結果として各国の障害政策が策定された。

第7章 団員所感

7-1 松井 亮輔団員（障害者ネットワーク）

今回、アジア太平洋障害者センター（APCD）プロジェクト（フェーズ2）終了時評価調査団に参加してあらためて実感させられたのは、APCDがフェーズ1及び2を通じて、そのプロジェクト目標である、アジア太平洋地域において(1)障害者のエンパワメントの強化に資する各種研修の実施及び(2)障害当事者組織と各国政府を含む、障害者支援組織の連携を促進する地域センターとして、十二分に機能し、当初の予想以上の成果をあげていること、またそのことがアジア太平洋地域だけでなく、国際的にも高く評価されているということである。

その意味では、APCDは、日本のODAによる国際協力のモデルケースのひとつといえる。とくにタイにおいては日本以外には、障害分野でODAによる協力を実施している国はないだけに、日本の存在感を高めることにも大きく寄与しているといえる。それは、これまでこのプロジェクトの企画・実施にかかわってきた日・タイ両国の政府関係機関、障害当事者団体を含む、関係団体、並びにJICA専門家及びタイ・カウンターパートなどの関係者の献身的な努力の賜物であり、大いに評価されてよい。

このように、APCDは予想以上に大きな成果を上げる一方、将来展望についてはつぎのような懸念材料もあることも留意する必要がある。

APCDはフェーズ2の途中で、タイ政府の決定により、その運営主体がタイ国社会開発・人間安全保障省国家障害者エンパワメント事務局(NEP)からAPCD財団にかわったことに伴い、APCD職員が所長も含め、すべて財団プロパーの職員に入れ替わった。つまり、タイのカウンターパートが、政府機関であるNEPから、実質的には、NGOであるAPCDにかわるということは、APCDプロジェクトにとっては予想外の展開といえる。

APCD財団は、タイ政府(NEP)から相当額の補助(水光熱費を含め、年間約800万バーツ)を受けているとはいえ、フェーズ2後にマスタープランで予定されているAPCDの活動を継続的に実施するには、それ以外の収入の安定確保が不可欠であり、そのためAPCDでは、WHOや日本財団などとの共同プロジェクトなども具体化している。

しかし、少なからずAPCD財団の理事が指摘しているように、APCDの今後の方向性やそれを具現化した中・長期計画、及び政府機関、とくにNEPとの関係のあり方について、理事会でコンセンサスを形成するための、十分な検討がなされていないことが懸念される。もっとも理事会の運営のあり方については、JICAサイドが口出しすべきではなく、あくまで理事をはじめ、APCD財団のマネジメントにかかわる関係者間で調整すべき事柄とはいえ、フェーズ2の成果の1つとして「国際化に向けてAPCDの運営・管理能力が強化される」ことが挙げられているだけに、所長などマネジメント実務担当責任者などに対して、必要に応じて助言などをすることも求められよう。もっとも、そうした助言が前向き、かつ、真摯に受け止められるには、JICA専門家とタイ・カウンターパートとの良好なパートナーシップの構築がその前提条件になる。

わたしたち調査団のメンバーもオブザーバーとして出席した、2月22日の理事会では、NEPとの関係のあり方などについて「従来になく」活発な議論が行われ、理事会議長であるテート氏も含め、理事間でそれらの課題についての共通理解が深まり、課題解決に向けて前進がはかれる可能性がでてきたことは、喜ばしいことといえる。

JICA としては、フェーズ 2 終了後は、APCD に対してこれまでと同レベルの投入はできないにしても、APCD が今後も障害者のエンパワメントにかかる研修及びネットワークのための地域センターとしての役割を効果的に果たしうよう支援するため、何らかの投入を引き続いて行うことが求められよう。その投入の選択肢としては、たとえば、現在国内で実施されている障害分野での課題別研修のいくつかを見直すことにより、APCD で第三国研修として実施することも考えられよう。

なお、ESCAP では、第 2 次アジア太平洋障害者の十年（2003 年～2012 年）に続いて、「アジア太平洋障害者の権利実現の十年、2013 年～2022 年」（the Asian and Pacific Make the Right Real Decade of Persons with Disabilities, 2013 - 2022）の実施を予定している。そして同十年が目標とする「アジア太平洋地域における障害者の権利の実現」を推進するための「インチョン戦略案」（この案は、今年 10 月 29 日から 11 月 2 日にかけて韓国・インチョンで開催されるハイレベル政府間会合で採択される。）では、「APCD は、障害者が使いやすい製品、サービス、雇用機会及び起業を促進する、障害インクルーシブなビジネスに携わる民間セクターの奨励にとくに配慮した、障害者の能力構築と多分野連携を継続する」よう要請されている。これは、実際には APCD サイドからの働きかけで、同戦略案にとり入れられたものではあるが、フェーズ 2 終了後の APCD への JICA の協力のあり方を検討するにあたっては、こうした取り組みも選択肢の 1 つとして考慮する必要があるだろう。

7-2 中西 由起子団員（障害者エンパワメント）

折しも国連では障害者の権利をめぐる討議がさかんとなり、アジア太平洋では域内初の障害者の十年が成功裏のうちに第 2 次十年へと引き継がれようとしていた 2002 年に開始されたアジア太平洋障害開発センタープロジェクトは、多くの関心を集めて開始された。1 期、2 期、それぞれの期間で画期的な活動を実施してきたことは周知の事実である。開発の分野に関心を寄せる者であれば誰しもバンコクを訪れた際には必ず立ち寄る名所扱いもされてきた。

今回終了時評価を終えた 2 期目は、1 期目とどう異なるのか。

- ① 障害当事者の中でも今まで脚光を浴びることのなかった知的障害の人たちに対する活動が開始された。
- ② 団体や活動での様々なネットワーク化をすすめたことで、特に AO の数が増加し個々の対応が難しくなった状況に対処することができた。
- ③ 域外の機関や団体、大学を巻き組むことで単なるアジア太平洋の NGO という立場を越え、世界レベルの団体として認知されるようになってきた。
- ④ JICA 専門家の期間途中での交代が何回か繰り返され、JICA 側の一貫した関与が難しくなった反面、長期に APCD にかかわっていた職員の中に知識や技能が蓄積され、自信をもって業務を遂行できるようになってきた。

APCD が世界にも知られるようになったことは嬉しいことである。しかし世界人口の 60% という広大なアジア太平洋をカバーしていくには、さらに域内の FP や AO との関係を強化せねばならない。そのために、APCD の今後の活動に対して以下のような期待をよせている。

まずは自助団体の育成である。草の根レベルの自助グループが APCD の自助団体育成や CBR のコースで育成、強化され、従来の一般的自助団体の活動である啓発、所得創出、仲間づくりなどを実施している。APCD はフォローアップを行い、これらの団体の発展を支援することが求められている。彼らにいかに関わりたいか自分たちも社会のかけがえのない一員であると自信をもたせ、権利条約で言われているような権利があることを理解させるには、いろいろな方法がある。JICA が支援した第三国研修は、効果的方法として是非今後も採用されるべきであろう。主催を託された障害当事者団体は自国政府が関与するので政府との関係が強化され、また国際会議を開催したという実績により国内での評価を高めることができる。また自分たちのメンバー以外の自助団体を招待することで、国内でのクロス・ディスアビリティ活動の育成につながり、強力な権利擁護運動が展開できるようになる。招かれた自助団体も初めて国際会議の場に出ることで、モデルとなる障害者リーダーや障害者団体と出会うことができる。

次には、1 期目に大きな成果をおさめた自立生活運動のフォローアップでの活用である。フォローアップの中でも特に力を入れていかねばならないと思われるのは、知的障害者の自助団体である。親や関係者が従来どおり支援を継続していただくだけでは、彼らの意思決定が尊重される団体に育つのは難しい。日本では自立生活センターで当事者主権のあり方を学んだ当事者自身や介助者が知的障害者支援の中心となり、当事者の会が増えていった背景がある。サポーターとしての彼らは、時間をかけて当事者が意見を述べられる環境を提供してきた。今後は知的障害者の自助組織の支援者を教育していくようなシステムの構築が、APCD に求められる。2 期目には関与があまりなかった自立生活分野の障害者が蓄積してきた技能は是非とも活用されるべきである。自立生活センターの障害者はすでに CBID のコースの講師となっているが、CBID のみでなく知的分野でもプログラムづくりからかわり、どうやって当事者主体の自助活動ができるのか提言を行っていくべきである。

最後に障害者主体の活動を重視している CBID の推進である。CBR ではなく、CBID を推進したいという APCD の姿勢は評価したい。しかし 30 年余の歴史をもつ CBR の定義は幅広く解釈され、特に昨年決定されたマトリックスでは障害に関する医療モデルから社会モデルまでの広範な活動を網羅している現状から、APCD の活動では CBR/CBID と連名の表記を使用している。CBID と CBR の相違点の説明は繰り返し行ってほしいし、時期を見て両者の住み分けも行ってほしい。アクセシビリティとユニバーサル・デザインが効果的に住み分けを行うことで、障害者の生活しやすい環境がもたらされるように、CBID と CBR がうまく共存することで障害者の権利の推進がすすむ。

APCD は世界にも例がない誇るべき活動である。そのユニークさを維持し続けるには、JICA の支援とそして当事者団体の協力が必要なことは言うまでもない。

付 属 資 料

1. 署名ミニッツ文書

- Annex 1. List of Interviewees
- Annex 2. Project Design Matrix (PDM) Version3
- Annex 3. Dispatch of Japanese Experts
- Annex 4. Training of Counterpart Personnel in Japan
- Annex 5. Local Expenses borne by Japanese side
- Annex 6. List of Counterpart Personnel
- Annex 7. Local Expenses borne by Thai side
- Annex 8. Agreed Focal Points in Phase2
- Annex 9. Agreed Associate Organizations in Phase2
- Annex 10. List of Signed Action Plans
- Annex 11. List of Trainings, Workshops, and Seminars
- Annex 12. List of Published Materials
- Annex 13. Satisfaction Level of APCD Trainings Participants
- Annex 14. Impacts of the Project
- Annex 15. Evaluation Grid

1. 署名ミニッツ文書

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE TERMINAL EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED IN THE KINGDOM OF THAILAND
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR THE PROJECT
ON
ASIA-PACIFIC DEVELOPMENT CENTER ON DISABILITY (APCD) PROJECT PHASE 2

The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Japanese Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Takayuki Kondo, visited the Kingdom of Thailand and the surrounding countries from February 1 to February 23, 2012.

During its stay in the Kingdom of Thailand, the Japanese Team had a series of discussions with the Thai authorities concerned, jointly evaluated the achievement of the Japanese Technical Cooperation, i.e., "Asia-Pacific Development Center on Disability (APCD) Project Phase 2" (hereinafter referred to as "the Project") and exchanged views of the Project.

As a result of the discussions, the Japanese Team and the Thai authorities concerned agreed on the matters referred in the document attached hereto.

Bangkok, February 22, 2012



Mr. Takayuki Kondo
Team Leader,
Japanese Terminal
Evaluation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
Japan



Dr. Tej Bunnag
Chairman,
APCD Executive Board,
Foundation of the Asia-
Pacific Development
Center on Disability,
The Kingdom of Thailand



Mr. Seree Vachirathavornchai
Deputy Secretary General,
National Office for Empowerment of
Persons with Disabilities, Ministry of
Social Development and Human
Security,
The Royal Thai Government



ATTACHED DOCUMENT

THE TERMINAL EVALUATION REPORT

THE TECHNICAL COOPERATION

ON

“ASIA-PACIFIC DEVELOPMENT CENTER ON DISABILITY (APCD) PROJECT
PHASE 2”

February 22, 2012

JOINT EVALUATION TEAM

*See
our
ch*

Table of Contents

<u>1. Introduction</u>	
1-1. Background	
1-2. Objectives of the study	
1-3. Evaluators: Joint Evaluation Team	
1-3-1. Japanese side	
1-3-2. Thai side	
1-4. Major activities of the evaluation	
<u>2. Project Outline</u>	
2-1. Overall Goal	
2-2. Project Purpose	
2-3. Outputs	
<u>3. Findings</u>	
3-1 Implementation Process	
3-1-1. Communication	
3-1-2. Decision Making Process	
3-1-3. Technical Assistance / Transfer	
3-1-4. Monitoring System	
3-2-5. Others	
3-2. Achievement	
3-2-1. Inputs	
3-2-2. Outputs	
3-2-3. Project Purpose	
<u>4. Evaluation</u>	
4-1. Relevance	
4-1-1. Policy	
4-1-2. Project Needs	
4-1-3. Project Approach	
4-2. Effectiveness	
4-2-1. Causal Relationship between the Project Purpose and Outputs	
4-2-2. Achievement Forecasts for the Project Purpose	
4-3. Efficiency	
4-3-1. Achievement Forecast for the Project Outputs	
4-3-2. Inputs	

See
on
↓

4-4. Impacts

4-4-1. Achievement Forecast for the Overall Goal

4-4-2. Ripple Effects

4-5. Sustainability

4-5-1. Policy Aspect

4-5-2. Organization and System Aspect

4-5-3. Technical Aspect

4-5-4. Financial Aspect

4-5-5. Others

4-6. Conclusion

5. Recommendations and Lessons Learned.....

List of ANNEX

- ANNEX 1 List of Interviewees
- ANNEX 2 Project Design Matrix (PDM) Version 3
- ANNEX 3 Dispatches of Japanese Experts
- ANNEX 4 Training of Counterpart Personnel in Japan
- ANNEX 5 Local Expenses borne by Japanese Side
- ANNEX 6 List of Staff (APCD)
- ANNEX 7 Local Expenses borne by Thai Side
- ANNEX 8 Agreed Focal Points in Phase 2
- ANNEX 9 Agreed Associate Organizations in Phase 2
- ANNEX 10 List of Signed Action Plans
- ANNEX 11 List of Trainings, Workshops and Seminars
- ANNEX 12 List of Published Materials
- ANNEX 13 Satisfaction Level of APCD Training Participants
- ANNEX 14 Impacts of the Project
- ANNEX 15 Evaluation Grid

Serve
on
↓

1. Introduction

1-1. Background

It is estimated that there are around 600 million persons with disabilities living in the Asia-Pacific region. Many of them lack access to education, employment and, other social and economic opportunities.

The Government of Japan took the initiative, in an effort to achieve the full participation and equality of persons with disabilities, to declare the Asian and Pacific Decade of Disabled Persons from 1993 to 2002 by the United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (ESCAP). Currently, the second Asian and Pacific Decade of Disabled Persons (2003-2012) is rigorously observed to implement “the Biwako Millennium Framework (BMF) for Action Towards an Inclusive, Barrier-Free and Rights-Based Society for Persons with Disabilities in Asia and the Pacific”, which was declared in Otsu city, Japan in October 2002.

In this context, in October 2000, the Government of the Kingdom of Thailand officially requested the Government of Japan to support the establishment of the Asia-Pacific Development Center on Disability (APCD). The Government of Japan responded to this request and the APCD Project was commenced in 2002.

In September 2006, the terminal evaluation of the APCD Project, conducted by both Japanese and Thai sides, recognized the high level of achievement and a number of impacts of APCD's activities. It was recommended that: (a) the sustainability of APCD be strengthened; (b) the needs of specific groups of disabilities be considered; and (c) the inclusion of self-advocates, their families, and other significant stakeholders be further promoted.

Based on this background, the Government of the Kingdom of Thailand officially requested further cooperation for APCD from the Government of Japan. In response to the request, the APCD project Phase 2 started in August 2007.

1-2. Objectives of the study

The objectives of the study are as follows:

- (1) To grasp the inputs of the Thai and Japanese sides and summarize the achievements of the project activities.
- (2) To conduct a comprehensive evaluation of the Project from the viewpoints of five evaluation criteria (explained later in this document).
- (3) To recommend activities for the remaining period of the Project and after the

See
↓

completion of the Project, and also to note the lessons learned from the Project.

1-3. Evaluators: Joint Evaluation Team

The evaluation of the Project was conducted by both Japanese and Thai sides. The main findings were documented in this Report, which was formulated by the joint evaluation team. The team members are as follows:

1-3-1. Japanese side

Mr. Takayuki Kondo	Team Leader, JICA
Mr. Ryosuke Matsui	Networking, Hosei University
Ms. Yukiko Nakanishi	Empowerment of PWDs, Asia Disability Institute
Mr. Megushi Nishimura	Cooperation Planning, JICA
Mr. Naoto Ikeda	Sub Team Leader, JICA
Mr. Fujio Deguchi	Evaluation Analysis, Office-D
Ms. Kumiko Nishimura	Evaluation Analysis, Koei Research Institute

1-3-2. Thai side

Dr. Tej Bunnang	Chairman, APCD Executive Board
Mr. Akiie Ninomiya	Executive Director, APCD
Mrs. Napa Setthakorn	Secretary General, National Office for Empowerment of Persons with Disabilities, Ministry of Social Development and Human Security
Ms. Vijita Rachatanantikul	Director, Bureau of Policy and Technical Support, National Office for Empowerment of Persons with Disabilities, Ministry of Social Development and Human Security
Ms. Attaya Memanvit	Representative, Planning and Monitoring Partnership Branch, Thailand International Development Cooperation Agency, Ministry of Foreign Affairs

1-4. Major Activities of the Evaluation

Date	Schedule			
	Mr. Kondo Mr. Matsui Ms. Nakanishi Mr. Nishimura	Mr. Ikeda	Mr. Deguchi	Ms. Nishimura
1 Feb. (Wed)			Flight to Bangkok	Flight to Bangkok
2 Feb. (Thu)			Meeting at JICA Thai Office	
3 Feb. (Fri)			Interview (Bangkok)	Interview (Bangkok)

Sere
an

4 Feb. (Sat)			Flight to Indonesia Interview (Solo)	Flight to Dhaka
5 Feb. (Sun)			Flight to Jakarta	Interview (Dhaka)
6 Feb. (Mon)			Interview (Jakarta)	Interview (Dhaka)
7 Feb. (Tue)			Interview (Jakarta)	Interview (Dhaka)
8 Feb. (Wed)		Flight to Bangkok	Interview (Jakarta) Flight to Brisbane	Flight to Bangkok
9 Feb. (Thu)		Preparing Documents	Brisbane⇒PNG Interview (PNG)	Interview (Bangkok, CBR Trainees)
10 Feb. (Fri)		Preparing Documents	Interview (PNG)	Interview (Bangkok, CBR Trainees)
11 Feb. (Sat)	Flight to Bangkok	Preparing Documents	Flight to Bangkok	Interview (Bangkok)
12 Feb. (Sun)	Preparing Documents			
13 Feb. (Mon)	Meeting at JICA Thai Office			
14 Feb. (Tue)	Meeting with NEP Meeting with APCD		Interview (Bangkok)	Interview (Bangkok)
15 Feb. (Wed)	Interview (Bangkok) CC to Dr. Taj		Interview (Bangkok)	Interview (Bangkok)
16 Feb. (Thu)	Interview (Bangkok)		Preparing Documents	Interview (Bangkok)
17 Feb. (Fri)	Observing CBR Training Meeting with ESCAP	Preparing Documents		
18 Feb. (Sat)	Preparing Documents		Flight to Japan	Flight to Japan
19 Feb. (Sun)	Preparing Documents			
20 Feb. (Mon)	Meeting with Mr. Ninomiya Meeting with TICA			
21 Feb. (Tue)	Discussion on Minutes of Meeting			
22 Feb. (Wed)	JCC meeting			
23 Feb. (Thu)	Flight to Japan			

Note: The list of interviewees is attached as Annex 1.

Sere
an
↓

2. Project Outline

The summary of the Project is described in Project Design Matrix (PDM). This evaluation is conducted based on the PDM Version 3 (See Annex 2 for details).

2-1. Overall Goal

In order to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region, organizations of/for Persons with Disabilities are strengthened through APCD's activities.

2-2. Project Purpose

APCD is able to function as a regional center to facilitate networking and collaboration among organizations of/for Persons with Disabilities towards an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region.

2-3. Outputs

1. More effective and sustainable networking and collaboration are developed among APCD, Focal Point Organizations (FPs), Associate Organizations (AOs) and other relevant organizations.
2. The managerial and administrative capacity of APCD to sustain the internationalized activities is strengthened.

San
Am
↓

3. Findings

3-1. Implementation Process

3-1-1. Communication

a. Communication within APCD

An appropriate communication mechanism exists such as weekly Managers meeting, weekly Sectional meeting, and monthly all staff meeting, to share information and ideas, and to reach consensus. Moreover there were team building events such as staff retreats and birthday celebrations which contributed to better fellowship among the staff. Staff retreat was held in Samut Songkram Province on 25 and 26 March 2010, and in Ratchaburi Province on 24 and 25 March 2011. All APCD staffs and some JICA Experts and Secretaries participated in such retreat. Its primary purpose was to improve their knowledge on disability issues, and its secondary purpose was to foster team spirit of APCD.

b. Communication with FPs and AOs

- APCD communicates with FPs/AOs by means of 1) Senior Official's Meeting, 2) Mission to FPs/AOs, and 3) E-mail correspondents. APCD actively disseminates information related to their activities and updates on disability movements to FPs/AOs through emails, newsletters, APCD website, CBR Asia-Pacific Network website, ASEAN Autism Network website, Empowerment Cafe, Facebook, etc.
- It has been a challenge to have active two-way communication with all the FPs/AOs and to follow up their activities and/or achievements due to the limited manpower.
- It has also been a challenge to follow-up ex-participants' activities based on the Action Plans that the ex-participants made during training. After the mid-term evaluation, attempts at improvement have been made through sending out follow-up emails to all the ex-participants three months after their trainings.
- Although there is a language barrier, Empowerment Cafe and Facebook can be effective tools to encourage communication with/among FPs/AOs and ex-participants, especially considering the limited manpower.

c. Communication with key players (Executive Board)

- The meetings of Executive Board which includes members of the Thailand Development International Cooperation Agency (TICA) and the National Office for Empowerment of Persons with Disabilities (NEP) of the Ministry of Social

Sere
an

Development and Human Security are held every two month. A meeting minute is produced for each meeting.

3-1-2. Decision Making Process

Final decisions are made at the Executive Board meeting. Changes or new ideas related to activities are discussed at the Managers meeting among APCD staff before proposing to the Executive Board meeting.

3-1-3. Technical Assistance/Transfer

a. Long-term Experts

- Long-term Japanese experts have worked with APCD staff side by side.
- Long-term Japanese experts and Thai counterparts shared their knowledge and experiences with each other.

b. Short-term Experts

- Short-term experts (experts on training management, intellectual disability, etc) were effectively provided to maximize the Project outcomes at the right time and with innovative approach.

(Example) Groups of Persons with Intellectual Disabilities in Myanmar and Cambodia were formed by APCD in collaboration with Dao Ruang (a similar group in Thailand) in the following steps:

1st step	Key persons with intellectual disabilities were dispatched for training in Japan
2nd step	A Japanese expert with intellectual disabilities was dispatched to Thailand
3rd step	The Project supported the trainees (in 1st step) to form a group in Thailand (Dao Ruang)
4th step	Dao Ruang and APCD together visited Myanmar to support the establishment of the group in the country
5th step	Together with APCD, Dao Ruang and the group in Myanmar visited Cambodia to support the establishment of a group in the country.

*Note: 4th and 5th steps above are the activities related to "South to South Cooperation"

*Note: These three groups are the first established ones of Persons with Intellectual Disabilities in each country.

Same


3-1-4. Monitoring System

- Annual implementation plan of the Project is developed and shared with all the staff members after approval of APCD Executive Board.
- The Project progress is reported to Joint Coordination Committee (JCC) every 6 months and a plan of activities for next 6 months discussed in the meeting. JCC's functions are to monitor the project implementation progress and to modify or improve the project activities.
- Documentations are prepared by APCD staff responsible for the plan of operations and its achievements, which are disseminated among all staff.

3-1-5. Others

Officials / staff of APCD are assigned for the Project as follows:

- 14 staff is assigned for the Project.
- Though some officials / staff were transferred, their works were smoothly taken over by the new officials/staff.

3-2. Achievements

3-2-1. Inputs

a. Inputs by Japanese side

a-1). Dispatch of Japanese Experts (Detail: see Annex 3)

- Long Term Experts

Table -1: List of Long Term Experts

Field of Assignment	Name	Period of Assignment
Chief Adviser	Mr. Katsuji Onoda	Dec. 5, 2009 -
Chief Adviser	Mr. Akiie Ninomiya	Aug. 1, 2007 - Jul. 31, 2009
Networking and Collaboration / Knowledge Management	Mr. Ryuhei Sano	May. 2, 2008 - May. 1, 2011
Networking and Collaboration / Human Resource Development	Ms. Yoko Isobe	Jan. 12, 2010 -
Networking and Collaboration / Human Resource Development	Ms. Emi Aizawa	Mar. 6, 2008 - Mar. 5. 2010
Department of Training for Persons with Disabilities	Ms. Naoko Ito	Aug. 1, 2007 - Feb. 5, 2008
Project Coordinator	Mr. Hiroyuki Kageyama	Dec. 26 2010 -

Sano
em

Project Coordinator	Mr. Takafumi Miki	Oct. 31, 2007 - Oct. 30, 2010
Project Coordinator	Mr. Toshiyuki Okui	Aug. 1, 2007 - Nov. 7, 2007

- Short Term Experts

In total, short-term experts have been dispatched 17 times (16 persons) to ensure smooth implementation of the Project.

a-2) Training of Counterpart Personnel in Japan

In total, 18 counterparts were trained in Japan. (Detail: see Annex 4)

a-3) Provision of Equipment

No equipment was provided.

a-4) Local Operation Expenses

The operational expense from August 2007 to December 2011 covered by the Japanese side amount to 39.2 million Baht. (Detail: see Annex 5)

b. Inputs by Thai side

b-1) Assignment of Counterpart Personnel

Currently 14 staff is assigned (as of February 2012). (Detail: see Annex 6)

b-2) Allocation of Budget

The budget allocated by the Thai side is 43.9 million Baht. (Detail: see Annex 7)

3-2-2. Outputs

Output 1.

More effective and sustainable networking and collaboration are developed among APCD, Focal Point Organizations (FPs), Associate Organizations (AOs) and other relevant organizations.

- Objectively verifiable indicator:

1. 7 selected FPs agree to their roles in documents by Aug. 2009.
2. 30 AOs agree to their roles in documents by Aug. 2009.

See
OK

3. 30 Action Plans are prepared by Aug.2009 and 60% of the Plans are conducted together with FPs and/or AOs by 2012.
4. 3 regional networks on specific areas are developed and strengthened (Community Based Rehabilitation [CBR], Non-Handicapped Environment [NHE], Knowledge Management [KM] etc).
5. 10 regional trainings and 10 networking collaboration follow-up activities are conducted to strengthen regional networks.
6. 5 sub-regional workshops are conducted to facilitate sub-regional networking and collaboration in the Asia-Pacific region by 2012. All outputs and impacts are documented and widely shared.
7. 30 documents on good practices and useful information are developed with FPs, AOs and stakeholders, and widely shared in collaboration.
8. 60% of participants of APCD's activities are satisfied with communication accessibility.
9. 80% of participants are satisfied with training courses.
10. 70% of ex-participants share their learning and initiate or strengthen their activities.

1. 7 selected FPs agree to their roles in documents by Aug. 2009.

12 FPs sign a focal point agreement by July 2011 (11 FPs signed by August 2009).

(Detail: see Annex 8)

	Name (country) of FPs
FPs signed the focal point agreement	1. Ministry of Labor and Social Development, Kyrgyz Republic 2. National Council on Disability Affairs, Philippines 3. Ministry of Labor and Social Protection of the Population, Tajikistan 4. Ministry of Health, Bhutan 5. Ministry of Social Affairs, Veteran and Youth Rehabilitation, Cambodia 6. Ministry of Social Affairs, Indonesia 7. Ministry of Labor and Social Welfare, Lao PDR 8. Ministry of Women, Family and Community Development, Malaysia 9. Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement, Union of Myanmar 10. Ministry of Social Welfare and Special Education, Pakistan 11. National Coordinating Committee on Disability, Viet Nam 12. Ministry of Culture, Youth and Sports, Brunei Darussalam

APCD has achieved to sign 49 Focal Points agreements during the Phase 1 and 2.

2. 30 AOs agree to their roles in documents by Aug. 2009.

43 AOs sign an associate organization by July 2011 (30 AOs signed by October 2009).

(Detail: see Annex 9)

Serve

Including the Phase 1, APCD has succeeded to have agreements with a total number of 200 Associate Organizations.

3. *30 Action Plans are prepared by Aug.2009 and 60% of the Plans are conducted together with FPs and/or AOs by 2012.*

31 Action Plans are developed by April 2010, and 97.7% of the Plans have been successfully implemented as of February 2012. (Detail: see Annex 10)

4. *3 regional networks on specific areas are developed and strengthened.*

The following 4 regional networks were developed and strengthened with APCD's support. 1 regional network is expected to be established through the workshop scheduled from 29 February to 2 March 2012.

- 1) CBR-Asia Pacific Network
- 2) ASEAN Autism Network
- 3) Empowerment Café (Information and Knowledge Management Mechanism)
- 4) South Asian Disability Forum
- 5) Asia-Pacific Federation of Hard of Hearing and Deafened (to be confirmed)

5. *10 regional trainings and 10 networking collaboration follow-up activities are conducted to strengthen regional networks.*

6. *5 sub-regional workshops are conducted to facilitate sub-regional networking and collaboration in the Asia-Pacific region by 2012. All outputs and impacts are documented and widely disseminated.*

APCD facilitated trainings, workshops, and seminars with various stakeholders at grassroots, national, and international levels. APCD played an active role to facilitate linking people and organizations, which generated collective power to move toward an inclusive, barrier-free and rights-based society for all.

(Detail: see Annex 11)

(1) *Training at APCD:* 10 trainings were conducted on CBR / Community Based Inclusive Development (CBID), Self-Help Group (SHG), Gender and Development with 183 participants in total.

(2) *Empowerment and strengthening network of persons with intellectual disabilities:* 13 workshops were conducted in 6 countries, namely China, Cambodia, Vietnam, Lao,

Sera
am

PDR, Myanmar, and Thailand. 475 people participated in the workshops in total.

(3) *Empowerment and strengthening network of persons with hearing impairment*: 7 workshops were conducted in 4 countries, namely Cambodia, Vietnam, Laos, and Myanmar. 242 people participated in the workshop in total.

(4) *Empowerment and strengthening network of persons with visual impairment*: Workshop for leaders' dialogue was conducted with 5 participants from Indonesia, Malaysia, Myanmar, the Philippines and Viet Nam.

(5) *Empowerment and strengthening network of persons with disabilities at national level*:

Trainings, meetings, and campaigns were conducted by joint collaboration of AOs and APCD.

(6) *High level official meetings*: APCD initiated / participated 8 high level official meetings.

(7) *Capacity Building for Self-Help Organizations of Persons with Disabilities (CBSHOD)*: Workshops on CDSHOD were held in 3 countries: Papua New Guinea, Kyrgyz Republic and Thailand.

(8) *CBR-Asia Pacific (AP)*: With an initiative of APCD along with the World Health Organization (WHO), CBR-AP Congresses in Thailand (2009) and the Philippines (2011) as well as CBR-AP Convention (2010) in Malaysia were successfully held. As many as 600 people participated in these events.

(9) *ASEAN Autism Network (Name to be confirmed)*: On 13-15 December 2010, 27 family members of autism from 9 countries including Brunei Darussalam, Cambodia, Indonesia, Lao PDR, Myanmar, Philippines, Thailand and Vietnam participated in the ASEAN Autism workshop at APCD and formed the ASEAN Autism Network.

(10) *Sub-regional network*: Workshops and a forum were held to strengthen sub-regional networks such as a sub-regional workshop on Intellectual Disability, an Empowerment Café Workshop, and South Asian Disability Forum.

7. *30 documents on good practices and useful information are developed with FPs, AOs and stakeholders, and widely shared in collaboration.*

- 57 good practices and information were documented with accessible format and widely disseminated in collaboration with FPs/AOs and other stakeholders. (Detail: see Annex 12)
- Story-based Knowledge Management (SbKM) was introduced as a method to document and share good practices of Persons with Disabilities as an agent of

See
↓
am

change. In the SbKM, persons with disabilities actively participated in the process to bring out their own experiences and knowledge which had not been expressed or properly understood before.

- 8 Booklets (CBR & Inclusive Development in Asia and the Pacific, Inclusive Community Development, Community-based Inclusive Development: Principles & Practice, Community-based Inclusive Development: Principles & Practice/Future Direction, Summary of Activities: CBR & CBID, Wheelchair Support for Flood Victims in Pakistan, APCD's Annual Report, Trainees' Resource Book)
- 18 DVDs & Newsclips (Nakhon Pathom Independent Living Center in Thailand, CBR Initiative in Jodongkae in Thailand, Together We Can Make Changes in Lao PDR, Yes, You Can! in Vietnam, Community for All in Vietnam, From Why to How through ICT in the Philippines, Beyond the Voice of Our Own in Pakistan, A Blind Architect in the Philippines, The Heart of SM in the Philippines, Rights Base for the Disabled, Wheelchair Support to Flood Victims in Pakistan, International Day of Persons with Disabilities in Thailand, First ASEAN Autism Workshop, Empowerment Café, ASEAN Highlights, ASEAN Autism Walk, Community-based Inclusive Development Workshop, Genashtim: ICT and Disabilities in the Philippines)
- 3 Cartoons & Photobooks (House of Wisdom in Pakistan, UN-APCD Collaboration Photo Book, Empowerment Starts within Oneself in PNG)
- 10 Workshop Reports (Senior Officials' Meeting 2009, Senior Officials' Meeting 2010, "Make the Right Real" in Thailand, "Make the Right Real in Pakistan, "Make the Right Real" in Papua New Guinea, "Make the Right Real" in Bangladesh, South Asian Disability Forum Workshop, Autism Workshop, "Make the Right Real" in the Philippines, ID Workshop)
- 7 Training Reports (CDSHOD, DGD, CBR Training for Asia-Pacific, CBID Training, CBR Post Convention, JICA Syria, , WHO-APCD CBR Training)
- 11 Leaflets and Others (APCD Introduction Leaflet, Inclusive Business Brochure, CBR AP Network Leaflet, International Training Leaflet, Business Magazine "Informa", Differently Able Notebook, APCD Intro Roll-up, Regional Collaboration Roll-up, Accessible Information Roll-up, Make the Right Real Roll-up, Autism Poster)

8. *60% of participants of APCD's activities are satisfied with communication accessibility.*

- 87% of the interviewees during the evaluation responded that they are satisfied

Same

↓ on

with the communication accessibility (Total respondents: 15, "Yes, very much": 8, "Yes, at certain level": 5, "Not so much": 2).

- APCD Staff, who participated in counterpart trainings, made efforts for their information to be accessible. For instance, preparing accessible information materials for workshops (Workshop for Persons with Intellectual Disability in Myanmar (Feb 2010), provision of sign language interpreters at trainings (Training on Disability, Gender and Development (DGD), etc.
- On the other hand, ex-participant with hearing impairment pointed out that sometimes it was difficult to understand the lecture/discussion due to fast speaking.

9. *80% of participants are satisfied with training courses.*

- 94% of the participation APCD trainings (16 training in the Phase 2) are satisfied with their contents. (Detail: see Annex 13)

10. *70% of ex-participants share their learning and initiate or strengthen their activities.*

According to Staff's observation, more than 70% of the ex-participants reported that they shared their updates or initiatives*. Also, most of the activities conducted by APCD are initiated by ex-participants.

- * Since May 2011, APCD has sent emails to all the ex-participants for follow-ups after three months of training. It should be noted here that follow-up efforts have been made by the APCD staff though it is a challenge to follow-up as many as 2,000 ex-participants.

Output 2.

The managerial and administrative capacity of APCD to sustain the internationalized activities is strengthened.

-Objectively Verifiable Indicator:

1. The APCD Master Plan is approved by the APCD Foundation.
2. APCD's progress report on the Master plan is approved by the APCD Foundation.
3. An annual report to show the APCD's performance is published every year.

1. *The APCD Master Plan is approved by the APCD Foundation.*

Same
on

The APCD Master Plan was approved on May 23, 2011.

2. APCD's progress report on the Master Plan is approved by the APCD Foundation.

A Progress Report is being developed.

3. An annual report on the APCD's performance is published every year.

Annual Report 2010 was published by APCD and submitted to the National Office for Empowerment of Persons with Disabilities, the Ministry of Social Development and Human Security.

3-2-3. Project Purpose

APCD is able to function as a regional center to facilitate networking and collaboration among organizations offor Persons with Disabilities towards an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region.

- Objectively verifiable indicators

1. *The number of salient documents /declarations on disabilities to recognize APCD as a functional regional center for promoting an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region.*

The following salient documents / declarations on disabilities were developed as a result of activities facilitated by APCD.

1. Bishkek Statement, Oct. 2008
2. Phuket Declaration on Disaster Preparedness for Persons with Disabilities May 2009
3. Bangkok Statement, Jan. 2010
4. South-South Cooperation Agreement, Mar. 2009
5. Islamabad Recommendations on Regional Networking & Collaboration in South Asia, Jul. 2010
6. Bangkok Statement on South-South Cooperation, Aug. 2010
7. Bangkok Statement at ESCAP Committee on Social Development, Oct. 2010
8. Kuala Lumpur Declaration, Nov. 2010
9. Bangkok Statement on Autism, Dec. 2010

Save
on

10. Islamabad Recommendations to Make the Right Real, Jan. 2011
11. Port Moresby Recommendations to Make the Right Real, Mar. 2011
12. Dhaka Recommendations to Make the Right Real, Sep. 2011
13. Manila Recommendations, Dec. 2011

2. *The number of organizations offfor Persons with Disabilities (including grass-roots organizations) to recognize APCD as a functional regional center for promoting an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region.*

According to the interviews conducted during the evaluation, five (5) out of eighteen (18) representatives of organizations remarked that more than 80 % of organizations offfor Persons with Disabilities in their countries recognize APCD as a functional regional center for promoting an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region.

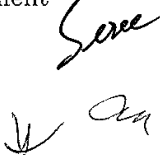
Furthermore, APCD has been identified as one of the top best practices in the field of social development by the World Bank.

Additional measure: Actual cases that APCD facilitated networking and collaboration among organizations offfor Persons with Disabilities

It is recognized that APCD has been playing a vital role to facilitate and strengthen network and collaboration among organizations offfor Persons with Disabilities at various levels. Distinguished outcomes are;

- 1) UNCRPD (the United Nations Convention of the Rights of Persons with Disabilities) in Papua New Guinea:

After a series of consultations with persons with disabilities in the country since 2004, CDSHOD was successfully held in 2007 by joint collaboration of Papua New Guinea Assembly of Disabled Persons (PNGADP) and APCD. The Minister and Secretary of the Department of Community Development participated positively. Such empowerment process was documented as a photo book according to the Story-based Knowledge Management approach, which enhanced the recognition of PNGADP at the national level. Then APCD mission was dispatched for "Make the Right Real Campaign" to promote the ratification and implementation of the UNCRPD in 2011 in which various stakeholders joined and shared the vision. As a consequence, the Government

See


of Papua New Guinea signed the UNCRPD.

2) UNCRPD in Pakistan

APCD has organized a number of seminars and workshops in collaboration with AOs in Pakistan since CDSHOD, 2005. The Director General of Special Education, Ministry of Social Welfare and Special Education, APCD's focal point in Pakistan, was involved in all activities. Such collaboration process with AOs has been documented by knowledge management activities by APCD which has become the evidence of regional collaboration between the Government of Pakistan, AOs in Pakistan and APCD. After the "Make the Right Real Campaign", which was held in Pakistan at the end of Jan. 2011, the Government of Pakistan ratified the UNCRPD on Jul. 2011.

3) Collaboration with ESCAP to "Make the Right Real"

"Make the Right Real" reports and website have been developed in collaboration with ESCAP and APCD to promote the ratification and implementation of the UNCRPD.

More cases are under "Impact".

Soree
↓ *21*

4. Evaluation

4-1. Relevance

Project relevance is evaluated high for the following reasons.

4-1-1. Policy

- On February 5, 2010, Joint Review Team of the Mid-Term Review composed of Thai side and Japan side confirmed that the Project is consistent with the policy of the Government of the Kingdom of Thailand. The Government of the Kingdom of Thailand has emphasized the importance to address the disability issues by adopting such policies as “Plan for the Development of the Quality of Life of the Disabled No.3 2007-2011” and this direction has been and will be maintained.

The Project, therefore, is consistent with the government policies of Asia-Pacific Region.

- The Project purpose conforms to the development strategy of both the Government of Japan and JICA, which is to promote South-to-South cooperation and to strengthen support of the socially vulnerable.

The Project, therefore, is consistent with the Japanese government policy.

4-1-2. Project Needs

(Needs of APCD)

- The Project was designed aiming at further promotion of networking and collaboration by utilizing human and information resources, in particular, ex-participants of the trainings conducted in the Project Phase 1. APCD needed skills and knowledge, in order to continue such activities in the ex-participants' respective countries.
- To respond the needs to enhance the capability of the staff, the Project has provided counterpart trainings in Japan and dispatch short-term experts (on Training Management).

(Needs of Persons with Disabilities, their families and supporters)

- APCD is accumulating experiences of middle management through the Project to facilitate networking and collaboration among the organizations of/for PWDs, which conforms to the needs of them especially in the grass-root level.

4-1-3. Project Approach

Sara
om

- The disability issues remain as crucial challenges in the Asia-Pacific region. The expectation is high for APCD to continuously function as a regional center on disability.
- In response to the recommendation from the terminal evaluation at Phase 1, the Project (Phase 2) has started its activities by putting emphasis on inclusion of Intellectual Disability and Hearing Impairment. After a certain period of time in which the Project accumulated experiences with these two categories, it has expanded its filed of activities, i.e. Cross-Disability.

4-2. Effectiveness

Project effectiveness is evaluated high for the following reasons.

4-2-1. Achievement Forecast for the Project Purpose

APCD can function as a regional center to facilitate networking and collaboration among organization offor Persons with Disabilities towards an inclusive, barrier-free and right-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region. Most of the Project purposes have been achieved as referred in 3-2 Achievement:

4-2-2. Causal Relationship between the Project Purpose and Outputs

As shown in 3-2-2 Outputs, most of all the Objectively Verifiable Indicators have been achieved. Through a lot of high quality seminars and workshops, APCD has been recognized as a functional regional center, and at the same time, capacity of APCD itself, i.e., skills of the APCD staff, have been improved enough to carry out the work as a functional regional center.

4-3. Efficiency

Project efficiency is evaluated high for the following reasons.

4-3-1. Achievement Forecast for the Project Outputs

- Output 1 and 2 have been achieved. More outcomes are expected in the rest of project period.

(Factors: influence to achieve the outputs)

See
↓ *on*

- Commitment of APCD staff and their technical skills contribute to run the project smoothly
- The appropriate approach was adopted in the Project such as 1) Participation of Persons with Disabilities as an agent of changes, 2) Needs based approach for Persons with Disabilities, 3) Involvement of organizations in various fields and 4) Networking.

4-3-2. Inputs

(Input by Japanese Experts)

- The Project focused on the intellectual disability and hearing impairment at the initial stage. The Japanese experts with intellectual and hearing disabilities were dispatched to strengthen these areas. It contributed to achieve the project output 1.
- APCD needed to develop the capacity of APCD staff, resource persons and sign language interpreters in Thailand. Based on these needs, Japanese expert on Training and Management was dispatched. Daily work were followed and monitored by the long-term experts. It contributed to achieve the project output.

(Equipment from Japan side)

- The equipment was not provided.

(Counterpart Training in Japan or in other countries)

- Training opportunities in Japan were provided to APCD counterpart personnel, including APCD Foundation Executive Board members, APCD staff and resource persons with disabilities. The participants were selected with clear criteria and the training program was efficiently organized within the minimum training duration. The participants of training, upon their return to Thailand, shared their experiences and newly gained knowledge with other key stakeholders of APCD through workshops and follow-up activities.

(Local Expenditure)

- The Project budget has been provided at the right time and supported the Project activities efficiently.

(Counterpart Staff)

- With the transfer of authority of APCD from NEP to APCD Foundation, all NEP

Same
am
↓

staff working in APCD went back to their own department.

4-4. Impacts

Project impact is evaluated high for the following reasons.

4-4-1. Achievement Forecast for the Overall Goal

Overall goal:

In order to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region, organizations offor Persons with Disabilities are strengthened through APCD's activities.

- Objectively Verifiable Indicators

1. Regional networks and collaboration mechanisms are initiated / strengthened by organizations offor Persons with Disabilities.
 2. Activities to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities are initiated and conducted by FPs/AOs.
 3. The number of Action Plans with FPs / AOs is increased.
- A significant number of activities for networking and collaboration to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities have been conducted by APCD in collaboration with various stakeholders.
 - Regional networks and collaboration are initiated and strengthened by organizations offor Persons with Disabilities based on their needs. It has been promoting the disability movement and inclusive development.
 - In addition to FPs and AOs, APCD has been working with other stakeholders such as the UN agencies, civil society organizations and private sector.

4-4-2. Ripple Effects

Through the activities facilitated/organized by the Project, many impacts, including the followings, have been observed in targeted countries / areas:

See
an

- Effect of the APCD trainings: FPs and AOs gained skills and knowledge via training courses conducted by APCD. Many of them applied newly acquired knowledge and experiences in their own activities.
- Effect of the APCD's facilitation: The APCD missions and the seminars in collaboration with FPs and AOs, contributed to the ratification / signing of UNCRPD in Pakistan / Papua New Guinea.
- Effect of the APCD's documentation: Good practices of persons with disabilities have been documented in collaboration with FPs, AOs and other stakeholders. The documentations according to knowledge management principles have been shared to promote inclusive barrier-free society not only by disability stakeholders but also by the business partners.
- APCD has been promoting disability movement at the policy level in collaboration with the UN agencies and other partners. APCD has become one of the vital players to promote disability rights in the region. The declarations, recommendations and statements were the result of all efforts of vital players in the regions.
- APCD was selected as one of case stories in OECD's "The South-South Opportunity"
- APCD was featured in the Magazine of the World Bank as one of six good practices of South-South Cooperation.
- The other impacts are shown in Annex 14.
- There are no negative impacts.

4-5. Sustainability

4-5-1. Policy aspect

- It was noted that the Biwako Millennium Framework (BMF) and Biwako Plus Five for Action towards an Inclusive, Barrier-free and Right-based Society in Asia and the Pacific 2003-2012 should ensure effective participation of persons with disabilities in all relevant activities. APCD has been identified by the United Nations ESCAP as a regional cooperative base, so APCD has been developing sub-regional mechanisms. The first priority is given to the Greater Mekong River countries, the second to the ASEAN countries, and the third to South Asia sub-region.

Sere
OM

4-5-2. Organization and System aspect

- Under the supervision of the APCD Foundation, APCD has been developing an effective organization structure.
- The partnership between APCD and AOs is sustained through the information sharing and follow-up. On the other hand, most of the representatives of FPs are transferred to other departments. It sometimes results in difficulties to keep the partnership between APCD and FPs.

4-5-3. Technical aspect

- All staff is competent to perform daily operation. Their high motivation and commitment contribute greatly to the APCD's achievement of the organizational duties.

4-5-4. Financial aspect

- APCD has signed the contract with the Nippon Foundation and is negotiating with other organizations.

4-5-5. Others

- The role of APCD was well recognized by the UN agencies. APCD has the collaboration and cooperation relationship with ESCAP and WHO. The relationship between APCD and the UN agencies is expected to be sustained.

4-6 Conclusion

- 1) The Project purpose has been achieved: APCD is functioning as a regional center on disability and development in the Asia-Pacific region. APCD facilitated to establish various networking platforms in Asia-Pacific region such as CBR Asia-Pacific Network, ASEAN Autism Network, Empowerment Café and South Asian Disability Forum.
- 2) Outstanding impacts are observed, such as the ratification of UNCRPD in Pakistan and signing of UNCRPD in Papua New Guinea. The background is the evidence-based documents which APCD developed through knowledge management activities in collaboration with the key stakeholders.

*See
am*

- 3) Continuous follow-up is needed so that the established platform shall function more effectively, particularly from the viewpoint of sub-regional collaboration.

Sere
↓ an

5. Recommendations and Lessons Learned

5-1. Recommendations for APCD:

- 1) To strengthen international collaboration in the new Asian and Pacific Decade of Persons with Disabilities (2013-2022)

In cooperation with the Government of Thailand through the Ministry of Social Development and Human Security and the Government of Japan through JICA, APCD has demonstrated great impacts as a regional base for the promotion of the Asian and Pacific Decade of Disabled Persons (2003-2012). It is recommended that international collaboration between APCD, the Ministry of Social Development and Human Security, JICA and APCD's FPs and AOs be strengthened further, particularly in the framework of the proposed new Asian and Pacific Decade of Persons with Disabilities in partnership with the United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP).

- 2) To elaborate community-based inclusive development (CBID) activities

APCD has been recognized by the World Health Organization (WHO) as the Secretariat of CBR Asia-Pacific Network. Furthermore, it is expected that APCD be the CBR/CBID Center at the global level. It is recommended that JICA continue to collaborate with APCD and the Ministry of Social Development and Human Security further in this context in line with the needs of CBR/CBID activities which have been expanded during the Project Phase 2.

- 3) To facilitate Thai stakeholders to cooperate with APCD's activities more proactively

It is recommended that cooperation of Thai stakeholders including the Ministry of Social Development and Human Security, PWDs and the business sector in Thailand be more facilitated as resource persons, advisors or project partners in order to encourage their active participation to collaborate with APCD. However, special attention should be paid to the international perspective which is APCD's mandate.

- 4) To utilize the APCD facilities

It is recommended that the APCD's administration and training buildings be utilized more in accordance with the needs of APCD's partners. Any incentives such as a discount system may be considered especially for persons with disabilities in Thailand and other Asia-Pacific countries to use facilities according to the original objective of

Source
↓ om

the buildings. In this connection, it is also recommended that JICA's international training on disability and development be conducted at APCD's accessible facilities in accordance with the original objective of the grand aid provided by the Government of Japan.

5) To further promote cross-disability activities at the sub-regional and regional level

During the Project Phase 2, significant progress has been made in the development of self-help groups of persons with intellectual disabilities and their families, and persons with hearing impairment. However, persons with psycho-social disabilities were not practically focused. It is recommended that these groups be included into APCD's activities further to mainstream them in sub-regional and regional collaboration in the future.

5-2. Lessons Learned

- 1) The expertise of JICA experts should be matched in accordance with the enhanced capacity of counterparts.
- 2) Human and information resources, and regional and sub-regional networks developed in the project (both Phase 1 and Phase 2) have become important assets and are effectively utilized in the project activities.
- 3) It is epoch-making that persons with intellectual disabilities were recruited as resource persons for the empowerment of self-advocate groups in Thailand, Myanmar and Cambodia, which contributed to the outstanding achievement of the Project activities.
- 4) By documentation as APCD's knowledge management activities, knowledge and experiences have been effectively accumulated and disseminated among stakeholders. Good practices with the private sector such as SM Supermalls in the Philippines, Air Asia in Malaysia and ASEAN TV enhanced the recognition of APCD regionally.
- 5) APCD's collaboration has resulted in the development of national disability policies by linking with DPOs, governments and the United Nations agencies (ESCAP, WHO, etc).

Sere
am
↓

Annex 1: List of Interviewees

Thailand

No.	Interview schedule		Name	Organization
1	15 Feb at 10:30 at Dr. Tej's office	APCD	Dr. Tej Bunnag	Chairman APCD Executive Board
2	16 Feb at 9:00 at his office	APCD	Professor / Mr. Wiriya Namsiriphongphan	APCD Executive Board
3	14 Feb at 14:00 at his office	APCD	Senator Mr. Monthian Buntan	APCD Executive Board
4	19 Feb at 14:00 at his office	APCD	Mr. Suporntham Mongkolsawasdi	APCD Executive Board
5	15 Feb at 14:00 at APCD 3F	APCD	Ms. Rubina Suwanpong	APCD Executive Board
6	15 Feb at 10:00 at APCD 3F	APCD	Dr. Benja Chonlatanon	APCD Executive Board
7	16 Feb at 16:00 at APCD	APCD	Mr. Akiie Ninomiya	Executive Director
8	9 Feb at 14:00 at APCD	APCD	Ms. Nongluck Kisorawong	Administrative Manager
9	10 Feb at 09:00 at APCD	APCD	Mr. Somchai Rungsilp	International Training Manager
10	10 Feb at 10:00 at APCD	APCD	Mr. Jasper Rom	Networking Manager
11	16 Feb at 10:00 at APCD	APCD	Mr. Ryuhei Sano	Information and Knowledge Management Manager
12	9 Feb at 16:00 at APCD	APCD	Ms. Natagamon Roongtim	Advisor to APCD Executive Director
13	3 Feb at 14:00 at APCD	APCD	Ms. Duangnarumol Dokruk	Information and Knowledge Management Chief
14	3 Feb at 13:00 at APCD	APCD	Ms. Lalin Chonlatanon	Information and Knowledge Management Officer
15	3 Feb at 10:00 at APCD	APCD	Mr. Watcharapol Chuengcharoen	International Training Officer
16	16 Feb at 13:15 At NEP	Thai Government	Ms. Napa Setthakorn	Secretary General, NEP, Ministry of Social Development and Human Security
17	16 Feb at 10:30 at NEP	Thai Government	Ms. Vijita Rachatanantikul	Director, Bureau of Policy and Technical Support, NEP, Ministry of Social Development and Human Security
18	17 Feb at 15:00 at UNESCAP	International Organization	Ms. Aiko Akiyama	UNESCAP
19	16 Feb at 11:30 at his office		Mr. Chusak Janthayanond	ASEAN Autism Network
20	11 Feb at 10:30 at APCD		Ms. Araya Chanapolchai	Dao Ruang
			Ms. Pacharin Sujaritwattanasak	Dao Ruang
			Ms. Paranart Sookcharearn	Dao Ruang
21	15 Feb at 10:45 at her office	AO	Ms. Panomwan Boontem	the president of the association of Thai Deaf Children and Womens Network Federation
22	15 Feb at 13:00 at APCD		Mr. Yongyut Borrisut	the president of National Association of the Deaf in Thailand (NADT)

See

21

23	13 Feb. at 16.00 at Bangkrang		Mr. Narin Juntim	Disabled Bangkrang Group
24	13 Feb at 13.30 at IL Nonthaburi		Mr. Theerayudth Sukonthavi	Nonthaburi IL Center
25	9 Feb at 10:30 at Amari Watergate hotel		Ms. Saowalak Thongkuay	DPI-AP
26	15 Feb at 10:30 at APCD		Mr. Panu Wong Cha-um	News Reporter, ASEAN TV
27	9 Feb at 13:00 at APCD	APCD/JICA	Mr. Katsuji Onoda	JICA Chief advisor
		APCD/JICA	Ms. Yoko Isobe	JICA Expert
		APCD/JICA	Mr. Hiroyuki Kageyama	JICA Coordinator

Thailand (CBR training)

No.			Name	Organization
28	9 Feb at 15:00 at APCD	Resource Person	Dr. Maya Thomas	Resource Person
29	10 Feb at 15:00 at APCD	Resource Person	Mr. Ghulam Navi Nizamani	Resource Person
30	15 Feb at 09:30 at APCD	Resource Person	Mr. Nay Lin Soe	Resource Person
31	10 Feb at 16:30 at APCD	Resource Person	Dr. Chamnan	Resource Person
32	10 Feb at 16:00 at APCD	Participant	Mr. Abdul Khaliq Zazai	Executive Director, Accessibility Organization for Afghan Disabled (AOAD)
33	15 Feb at 16:00 at APCD	Participant	Mr. Nhem Sareth	Staff, Department of Welfare for Persons with Disabilities, Ministry of Social Affairs, Veterans, and Youth Rehabilitation, Cambodia
34	15 Feb at 16:30 at APCD	Participant	Mr. Muhammad Baqir	Social Organizer, Civil Society Human and Institutional Development Programme (CHIP), Pakistan
35	15 Feb at 16:00 at APCD	Participant	Mr. Asim Zafar	President, SAAYA Association of PWD, Pakistan
36	15 Feb at 16:30 at APCD	Participant	Ms. Muyassar Mansurova	Member, SELF-HELP GROUP OF DISABLED PEOPLE "ISTIQBOL", Uzbekistan
		Participant	Ms. Mukhabbat Rakhimova	Leading Member, SELF-HELP GROUP OF DISABLED PEOPLE "ISTIQBOL", Uzbekistan

Thailand (Preparing work of HoH Workshop)

No			Name	Organization
37	15 Feb at 11:30 at APCD		Mr. Muhammad Akram	Danishkadah, Pakistan

Same

↓

Bangladesh

No			Name	Organization
38	5 Feb at 13:00	Ex-participant	Ms. Sadia Tajin	Associate Program Officer Young Power in Social Action (YPSA)
		Ex-participant	Mr. Mohd. Ahsan Ullah Sarkar	Field Officer Young Power in Social Action (YPSA)
39	7 Feb at 15:00	FP	Mr. Meshkat Ahmed Chowdhury	Joint Secretary Ministry of Social Welfare of Bangladesh
40	7 Feb at 18:00	AO	Mr. Abdus Sattar Dulal	Executive Director Bangladesh Protibandhi Kallyan Somity (BPKS)
41	4 Feb at 16:00	Group Discussions with directors of 7 DPOs under (BPKS)		
42	7 Feb at 19:30	AO	Ms. Shirin Akhter	Chairperson, South Asia Disability Forum (SADF)

Indonesia

No			Name	Organization
43	07 Feb at 09:00	FP	Mr. Samsudi (New Director)	Director General Social Services and Rehabilitation Ministry of Social Affairs
			Ms. Justina Dwi Noviantari	Director, PWDs Dept., Social Services and Rehabilitation Ministry of Social Affairs
44	07 Feb at 15:20	Invited by APCD for ASEAN meeting	Ms. Dyah Puspita	Secretary Yayasan Autisma Indonesia
45	04 Feb at 19:30	AO Resource Person	Mr. Sunarman Sukamto	Director, CBR Development and Training Center Solo
46	06 Feb at 18:30	AO	Ms. Angkie Yudistia	Sehjira Deaf Organization
			Mr. Ahmad Fachri Siradz	Sehjira Deaf Organization
			Ms. Frenia Nababan	(Sign-language interpreter)
47	6 Feb at 10:30	AO	Ms. Huldaria Bako	CBR consultant CBR Alliance Secretariat

Papua New Guinea

No			Name	Organization
48	10 Feb at 17:50	In the Dept. of FP	Ms. Konio Doko	Assistant Secretary, Division of Disability Department for Community Development
49	09 Feb at 16:30	Seminar attendant	Mr. Rajesh Nanda	POM General Hospital, P&O Services, Prosthetics & Orthotics (CBR Coordinator for CBR Papua New Guinea Network)

Seve


50	10 Feb at 15:15	AO	Ms. Ipul Powaseul	Chairperson, Papua New Guinea Assembly of Disabled Persons (PNGADP)
			Ms. Anna Hitovea	Committee member (PNGADF)
			Mr. Hekoi Igo	Executive committee member (PNGADF)
			Mr. Tole Wia	Secretary & Advocating Officer (PNGADF)
			Mr. Ross Tito	Program Manager (PNGADF)

Serec


ANNEX 2 Project Design Matrix (PDM) Version 3

Project Title: Asia-Pacific Development Center on Disability (APCD) Project Phase 2
 Duration: 5 years (2007/ August/1 ~ 2012 / July/31)
 Target Group: Persons with Disabilities (PWDs), their families and supporters of developing countries in the Asia-Pacific region

*Center; Asia-Pacific Development Center on Disability

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal: In order to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region, organizations of/for PWDs are strengthened through APCD's activities.</p>	<p>1. Regional networks and collaboration mechanisms are initiated / strengthened by organizations of/for PWDs. 2. Activities to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs are initiated and conducted by FPs/AOs. 3. The number of Action Plans with FPs / AOs is increased.</p>	<p>•Center's Records •FPs and AOs Reports •External-evaluation</p>	
<p>Project Purpose: APCD is able to function as a regional center to facilitate networking and collaboration among organizations of/for PWDs towards an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region.</p>	<p>1. The number of salient documents /declarations on disabilities to recognize APCD as a functional regional center for promoting an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region. 2. The number of organizations of/for PWDs (including grass-roots organizations) to recognize APCD as a functional regional center for promoting an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region</p>	<p>•Center's Records •FPs and AOs Reports External-evaluation</p>	<p>•The Governments continue to commit to "the Second Asian and Pacific Decade of Disabled Persons". •Thai Government continues to support APCD.</p>
<p>Outputs: 1. More effective and sustainable networking and collaboration are developed among APCD, Focal Point Organizations (FPs), Associate Organizations (AOs) and other relevant organizations.</p>	<p>1. 7 selected FPs agree to their roles in documents by Aug. 2009. 2. 30 AOs agree to their roles in documents by Aug. 2009. 3. 30 Action Plans are prepared by Aug.2009 and 60% of the Plans are conducted together with FPs and/or AOs by 2012. 4. 3 regional networks on specific areas are developed and strengthened (CBR, NHE, KM etc). 5. 10 regional trainings and 10 networking collaboration follow-up activities are conducted to strengthen regional networks. 6. 5 sub-regional workshops are conducted to facilitate sub-regional networking and collaboration in the Asia-Pacific region by 2012. All outputs and impacts are documented and widely shared. 7. 30 documents on good practices and useful information are developed with FPs, AOs and stakeholders, and widely shared in collaboration. 8. 60% of participants of APCD's activities are satisfied with communication accessibility. 9. 80% of participants are satisfied with training courses. 10. 70% of ex-participants share their learning and initiate or strengthen their activities.</p>	<p>•Center's Records •FPs and AOs Reports •Reports of Sub-regional Workshop •Documentation of good practices</p>	<p>•Associate Organizations continue their activities. •Government organizations and Non-government Organizations (NGOs) support APCD financially, technically and/or other appropriate ways. •Government organizations and NGOs continue to be Focal Point Organizations and Associate Organizations. •Ex-participants of the APCD training courses continue and extend their activities in and outside their organizations. •Thai Government</p>

Some

<p>2. The managerial and administrative capacity of APCD to sustain the internationalized activities is strengthened.</p>	<p>1. The APCD Master Plan is approved by the APCD Foundation. 2. APCD's progress report on the Master plan is approved by the APCD Foundation. 3. An annual report to show the APCD's performance is published every year.</p>	<p>•Center's Records •External Evaluation •FPs and AOs Reports</p>	<p>approves APCD to come under a Foundation.. •FPs and AOs participate in APCD activities.</p>
<p>Activities: 1.1 to ensure proactive participation of FPs and AOs. 1.1.1 to discuss the expected roles of FPs and AOs in APCD. 1.1.2 to exchange opinions with FPs and AOs about their expected roles. 1.1.3 to confirm mutual agreements with selected FPs and AOs on their respective roles. 1.2 to ensure communication accessibilities* in all APCD activities. * "Communication" includes languages, display of text, Braille, tactile communication, large print, accessible multimedia as well as written, audio, plain-local language, human-reader, sign language interpretation and augmentative and alternative modes, means and formats of communication, including accessible information and communication technology. "Language" includes spoken and signed language and other forms of non spoken language. 1.3 to develop Action Plans (human resource development, information support) together with high-profile FPs and AOs for effective and sustainable networking and collaboration with APCD. 1.3.1 to conduct preparatory activities for developing Action Plans. 1.3.2 to discuss activities 1)to develop human resources 2) to</p>		<p>Inputs: <u>Inputs from the Japanese Side:</u> 1. Experts 1.1 Long-term experts - Chief advisor - Coordinator - Expert (Networking and Collaboration/Training) - Expert (Networking and Collaboration/Information) 1.2 Short-term experts As for the dispatch of short-term experts, the Project makes plan and the JCC endorses it. 2. Counterpart (C/P) and resource persons Training in Japan and other countries JICA invites the Thai C/P and resource persons to relevant training courses in Japan and other countries for their capacity building necessary for the APCD Project. 3. Equipment: Equipment which is approved of its necessity in the JCC 4. Expenses: A part of expenses for the project implementation</p>	



 ↖

 DM

 Lerner

<p>promote information support to be organized in collaboration with FPs and AOs in their countries, and plan in details.</p> <p>1.4 to promote human resource development according to the Action Plans.</p> <p>1.4.1 to prepare, implement and evaluate human resource development activities (eg. training courses in APCD, local/regional seminars etc.) in collaboration with high-profile FPs and AOs.</p> <p>1.4.2 to follow-up ex-participants of the training courses in APCD in collaboration with high-profile FPs and AOs.</p> <p>1.5 to promote information support according to the Action Plans.</p> <p>1.5.1 to regularly exchange information with FPs and AOs, and accumulate useful information and conduct necessary referral in collaboration with FPs and AOs.</p> <p>1.5.2 to regularly receive and reflect comments from FPs and AOs on the APCD' s newsletters and web-site to meet their needs.</p> <p>1.5.3 to strengthen capacity of FPs and AOs to collect and disseminate information, and facilitate them to share relevant information.</p> <p>1.6 to monitor the Action Plans.</p> <p>1.7 to accumulate good practices of FPs and AOs and share them with existing and potential stakeholders of APCD.</p> <p>1.8 to conduct sub-regional workshops to facilitate sub-regional networking and collaboration in view of bringing social impacts in the Asia-Pacific region.</p> <p>2.1 To develop a master plan for APCD: APCD Master Plan (2011-2015)</p> <p>2.1.1 Strategy</p> <p>2.1.2 Management system</p> <p>2.1.3 Financial plan</p> <p>2.1.4 Human resource development plan</p> <p>2.1.5 Annual plan of operations</p> <p>2.2 To implement the APCD Master Plan.</p> <p>2.3 To review the progress of implementation of the APCD Master Plan and modify as needed.</p> <p>2.4 To publish an annual report.</p>	<p><u>Inputs from APCD Foundation:</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. APCD Foundation staff required2. Project support staff3. Project office and facility4. A part of expenses for the project implementation <p><u>Inputs from Thai Associate/Relevant Organizations of/for PWDs:</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. A part of expenses for the project implementation2. A part of cost of employing staff3. An arrangement of counterparts as resource persons and cooperation in activities <p>* The inputs above are contributed by cash or in kind according to each organization' s capacity.</p>	<p><u>Pre-conditions:</u></p> <p>Staff required is employed sufficiently.</p>
---	---	---

Handwritten notes:
✓
Sover

ANNEX 3 Dispatch of Japanese Experts

Annual Japanese Fiscal Year				1st Year			2nd Year			3rd Year			4th Year			5th Year			6th Year																					
Calendar Year				2007			2008			2009			2010			2011			2012																					
Outcome Name	Field	Period of Assignment																																						
		From	To	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
Long term experts																																								
Outcome1-2	Mr.Akie NINOMIYA	Chief Advisor	Aug.1,2007	Jul.31,2009																																				
Outcome1-2	Mr.Katsuji ONODA	Chief Advisor	Dec.5,2009	Jul.31,2012																																				
Outcome1	Ms.Naoko ITO	Department of Training for PWDs	Aug.1,2007	Feb.5,2008																																				
Outcome1	Ms.Emi AIZAWA	Networking & Collaboration /Human Resource	Mar.6,2008	Mar.5,2010																																				
Outcome1	Ms.Yoko ISOBE	Networking & Collaboration /Human Resource	Jan.12,2010	Jul.31,2012																																				
Outcome1	Mr.Ryuhei SANO	Networking & Collaboration /Knowledge Management	May.2,2008	May.1,2011																																				
Outcome1	Mr.Toshiyuki OKUJ	Coordinator	Aug.1,2007	Nov.7,2007																																				
Outcome1	Mr.Takatumi MIKI	Coordinator	Oct.31,2007	Oct.30,2010																																				
Outcome1	Mr.Hiroyuki KAGEYAM	Coordinator	Dec.26,2010	Jul.31,2012																																				

Short term experts																																							
Outcome1-4	Mr.Osamu Nagase	Preparation for workshop on Intellectual Disability	Nov.19,2007	Dec.15,2007																																			
Outcome1-4	Mr.Akio Suemori	Preparation for workshop on hearing impairment	Nov.28,2007	Dec.15,2007																																			
Outcome1-4	Mr.Osamu Nagase	Networking Collaboration on Intellectual Disabilities	Jan.20,2008	Jan.26,2008																																			
Outcome1-4	Ms.Mayumi Narazaki	Empowerment of Persons with Intellectual Disabilities	Jan.20,2008	Jan.26,2008																																			
Outcome1-7	Mr.Yoshio Niizeki	Knowledge Management	Jan.28,2008	Feb.15,2008																																			
Outcome1-4	Mr.Tetsuya Sugisawa	Promotion of Self-Advocacy	Aug.12,2008	Aug.23,2008																																			
Outcome1-4	Ms.Keiko Sodeyama	Strengthening of Self-Help Groups	Aug.12,2008	Aug.23,2008																																			
Outcome1-4	Mr.Osamu Yamamoto	Promotino of Self Advocacy	Mar.16,2009	Mar.20,2009																																			
Outcome1-4	Mr.Hiroshi Kabasawa	Strengthening Self-Help Organization	Mar.16,2009	Mar.20,2009																																			
	Mr.Tetsuya Sugisawa	Self-Advocacy on Intellectual Disability	Feb.14,2010	Feb.23,2010																																			
	Mr.Kou Hatano	Support for Self-Advocacy Activities	Feb.14,2010	Feb.23,2010																																			
	Ms.Keiko Sodeyama	Family Representative of Intellectual Disability	Feb.14,2010	Feb.23,2010																																			
Outcome1-4	Ms.Hanae Sasaki	Self-Advocacy on Intellectual Disability	Feb.18,2010	Feb.23,2010																																			
	Ms.Misago Uematsu	Family Representative of Intellectual Disability	Feb.18,2010	Feb.23,2010																																			
Outcome1-4	Ms.Kazuko Yoshine	Training and Management	Aug.17,2010	Sep.2,2010																																			
Outcome1-4	Ms.Teruko Ujita	Networking and Collaboration among DPOs	Feb.21,2011	Feb.25,2011																																			
Outcome1-4	Ms.Teruko Ujita	Networking and Collaboration among DPOs	Dec.12,2010	Dec.18,2010																																			

See

ANNEX 4 Training of Counterpart Personnel in Japan

Title	Duration	Place	Participants Name	Affiliation/Position
Promotion of self-help activities	Feb 11 2009 - Feb 20 2009	Yokohama Tokyo	Ms.Chatpirat BARNSUNTHIA	Committee Member/Association of Parents of Thai Persons with Autism
			Ms.Pradubwong THADATRITHARNTIP	Member/Association for Persons with Intellectual Disabilities of Thailand
			Ms.Nalinee RUANGRITTISAK	Human Resource Development officer/National Office for Empowerment of Persons with Disabilities, APCD
			Ms.Payanart SOOKCHAREARN	Member/Association for Persons with Intellectual Disabilities of Thailand
			Ms.Praparat SASEAN	Seller/Friend Shop, Rajanukul Institute
			Ms.Daranee THANABHUMI	President/Association for Persons with Intellectual Disabilities of Thailand(AU-Thai)
			Mr.Chusak Janthayanond	President / Teacher , Association of parents for Thai person with Autism
Management of Self-Help Groups of Persons with Intellectual Disabilities / Autism	Jul 31 2009 - Aug 7 2009	Hokkaido	Mr.WIWATANA Sirisak	Secretary of Teacher/Training Sector, Thai Autism Vocational Center
			Ms.ATCHARIYADECHAKUL Kitiya	Student/Association for Persons with Intellectual Disability of Thailand
			Ms.SUJARITWATANASAK Phacharin	General Assistant/Association for Persons with Intellectual Disability of Thailand
			Ms.CHANAPOLCHAI Araya	Teacher/Head of Training Center, Association for Persons with Intellectual Disability of Thailand
			Mr. Somchai Rungsilp	HRD Program Adviser/APCD
Knowledge Management	Nov 20 2009 - Nov 28 2009	Tokyo	Mr. Supornum Mongkolsawadi	APCD Executive Board member
			Mr. Somchai Rungsilp	Manager/Networking & Collaboration Department, APCD
Administration(Training Facilities)	Jan 15 2011 - Jan 22 2011	Yokohama	Mrs. Nongluck Kisorawong	Administrative Manager, APCD
Information support technology and effective publicity technique	Jan 15 2011 - Jan 22 2011	Yokohama	Ms. Duangnarumol Dokruk	Information Support Chief, APCD
International Training (Training Management)	Dec 11 2011 - Dec 24 2011	Tokyo, Nagoya Nishinomiya	Mr. Watcharapol Chuengcharoen	International Training Officer, APCD
Information and Knowledge Management (Universal Design)	Dec 11 2011 - Dec 24 2011	Tokyo Nagoya	Ms. Lalin Chonlatanon	Information and Knowledge Management Officer, APCD

Handwritten signature and initials.

ANNEX 5 Local Expenses borne by Japanese Side

(THB)

	Air fare	Traveling cost (Except Airfare)	Contract for consultant service (Local Consultant)	Allowance / compensation (Except for APCD staff)	Meeting cost (Holding seminar and training)	Daily expense (Desk equipment, car fuel etc.)	Total
Aug 2007 - Sep 2007	224,190.00	65,830.00	0.00	256,973.00	0.00	309,659.52	856,652.52
Oct 2007 - Dec 2007	422,352.00	549,490.00	0.00	517,179.85	98,849.19	612,988.90	2,200,869.94
Jan 2008 - Mar 2008	938,525.00	139,736.50	0.00	508,711.40	7,290.50	1,278,155.27	2,872,418.67
Apr 2008 - Jun 2008	257,211.00	547,232.80	0.00	320,470.75	19,114.00	243,957.13	1,387,985.68
Jul 2008 - Sep 2008	374,157.00	430,464.66	0.00	317,899.59	85,224.13	446,333.67	1,654,079.05
Oct 2008 - Dec 2008	515,799.00	469,932.14	0.00	473,808.50	41,619.81	622,207.85	2,123,367.30
Jan 2009 - Mar 2009	1,604,638.50	2,034,459.51	0.00	569,453.75	360,921.72	964,683.44	5,534,156.92
Apr 2009 - Jun 2009	504,291.75	870,738.25	0.00	351,088.25	106,887.25	662,802.42	2,495,807.92
Jul 2009 - Sep 2009	106,120.00	293,042.50	0.00	416,194.00	40,982.75	705,249.88	1,561,589.23
Oct 2009 - Dec 2009	318,084.00	320,383.50	0.00	325,101.30	22,255.00	539,627.47	1,525,451.27
Jan 2010 - Mar 2010	1,378,440.00	600,384.75	0.00	549,086.50	355,518.50	1,964,558.43	4,847,988.18
Apr 2010 - Jun 2010	495,643.00	310,622.00	0.00	250,882.75	59,207.25	354,991.90	1,471,346.90
Jul 2010 - Sep 2010	597,930.75	369,672.00	0.00	119,790.50	45,477.50	445,737.21	1,578,607.96
Oct 2010 - Dec 2010	845,958.50	665,251.00	0.00	168,025.50	9,173.50	575,158.75	2,263,567.25
Jan 2011 - Mar 2011	840,676.00	113,707.50	0.00	176,316.50	62,945.75	427,031.25	1,620,677.00
Apr 2011 - Jun 2011	299,740.00	106,418.25	0.00	140,661.50	8,055.00	119,876.00	674,750.75
Jul 2011 - Sep 2011	583,312.00	288,989.25	0.00	76,754.50	40,509.00	342,721.00	1,332,285.75
Oct 2011 - Dec 2011	1,453,791.00	490,442.50	0.00	157,779.50	21,157.75	1,034,563.20	3,157,733.95
Jan 2012 - Mar 2012							0.00
Apr 2012 - Jun 2012							0.00
Jul 2012							0.00
Total	11,760,859.50	8,666,797.11	0.00	5,696,177.64	1,385,188.60	11,650,313.39	39,159,336.24
%	30.03%	22.13%	0.00%	14.55%	3.54%	29.75%	100.00%

(THB)

	Air fare	Traveling cost (Except Airfare)	Contract for consultant service (Local Consultant)	Allowance / compensation (Except for APCD staff)	Meeting cost (Holding seminar and training)	Daily expense (Desk equipment, car fuel etc.)	Total
JFY2007	1,585,067.00	755,056.50	0.00	1,282,864.25	106,139.69	2,200,813.69	5,929,941.13
JFY2008	2,751,805.50	3,482,089.11	0.00	1,681,632.59	508,879.66	2,277,182.09	10,699,588.95
JFY2009	2,306,935.75	2,084,549.00	0.00	1,641,470.05	525,643.50	3,872,238.30	10,430,836.60
JFY2010	2,780,208.25	1,459,252.50	0.00	715,015.25	176,804.00	1,802,919.11	6,934,199.11
JFY2011	2,336,843.00	885,850.00	0.00	375,195.50	69,721.75	1,497,160.20	5,164,770.45
JFY2012	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
Total	11,760,859.50	8,666,797.11	0.00	5,696,177.64	1,385,188.60	11,650,313.39	39,159,336.24
%	30.03%	22.13%	0.00%	14.55%	3.54%	29.75%	100.00%

Sere
am

Annex 6: List of Counterpart Personnel

Name	Title
1. Mr. Akiie Ninomiya	Executive Director
2. Ms. Nongluck Kisorawong	Administrative Manager
3. Mr. Somchai Rungsilp	International Training Manager
4. Mr. Jasper Rom	Networking Manager
5. Mr. Ryuhei Sano	Information & Knowledge Management Manager
6. Ms. Natagamon Roongtim	Advisor to APCD Executive Director
7. Ms. Duangnarumol Dokruk	Information & Knowledge Management Chief
8. Ms. Nongnuch Maytarjittipun	Administrative Officer
9. Ms. Kularb Gaysomsri	Procurement and Accounting Officer
10. Mr. Watchapol Chuengcharoen	International Training Officer
11. Ms. Lalin Chonlatanon	Information & Knowledge Management Officer
12. Mr. Songkiat Khemjaroen	Information Communication Technology Officer
13. Ms. Thitipat Srimulchai	IDPP Coordinator, IB Coordinator
14. Mr. Bkom Limpiphiphatn	IB Coordinator
15. Ms. Sujitra Mukrassada	House Keeper
16. Mr. Narong Kokaew	Driver

Seru
am

ANNEX 7 Local Expenses borne by Thai Side

Local cost (Thai Side)								(THB)
	Salary	Public facility	Contract for cleaning service	Contract for security guard service	Expense for Japanese experts (salary of secretaries, fuel fee)	Budget for operation (Meeting, overtime, consumable supply, material, maintenance, training, and commuting)	Equipment providing, Management and Maintenance	Total
Aug 2007 - Dec 2007	1,096,670.00	390,833.92	125,000.00	160,000.00	163,020.00	1,612,369.13		3,547,893.05
Jan 2008 - Mar 2008	465,990.00	225,543.13	125,000.00	160,000.00	31,050.00	588,604.80		1,596,187.93
Apr 2008 - Jun 2008	477,360.00	242,019.02	125,000.00	160,000.00	36,660.00	829,965.56		1,871,004.58
Jul 2008	155,330.00	4,542.00	125,000.00	160,000.00	15,960.00	84,350.00		545,182.00
Aug 2008 - Jan 2009	811,840.00	346,651.51	183,057.42	193,840.00	38,495.00	1,495,839.82		3,069,723.75
Feb 2009 - Jul 2009	1,111,740.00	545,746.60	183,057.42	270,000.00	219,960.00	3,068,585.57	242,435.00	5,641,524.59
Aug 2009 - Jan 2010	1,870,298.00	536,032.88	183,057.42	270,000.00	139,560.00	744,592.87	4,151,309.56	7,894,850.73
Feb 2010 - Jul 2010	2,295,858.00	469,462.19	183,057.42	270,000.00	207,000.00	2,358,308.14	184,999.94	5,968,685.69
Aug 2010 - Jan 2011	2,456,696.00	523,072.26	189,417.14	286,688.00	219,960.00	2,482,947.63	188,193.05	6,346,974.08
Feb 2011 - Jul 2011	2,915,020.00	485,993.90	192,600.00	295,032.00	157,860.00	3,215,332.12	140,555.50	7,402,393.52
Aug 2011 - Jan 2012								0.00
Feb 2012 - Jul 2012								0.00
Total	13,656,802.00	3,769,897.41	1,614,246.82	2,225,560.00	1,229,525.00	16,480,895.64	4,907,493.05	43,884,419.92
%	31.12%	8.59%	3.68%	5.07%	2.80%	37.56%	11.18%	100.00%

Sere

SM

ANNEX 8 Agreed Focal Points in Phase 2

As of Jan 2012

No.	Countries	Governments/NGOs	Date of agreement (dd/mm/yyyy)
1	Kyrgyz Republic	Minister Ministry of Labor and Social Development (MLSD) 215 Tynystanova Street, Bishkek, Kyrgyz Republic Tel: +996-312-665724	26/05/2008
2	Tajikistan	Mr. Shukurjon Zuhurov Minister Ministry of Labor and Social Protection of the Population (MLSP) 5/2 Alisher Navoi, Dushanbe, The Republic of Tajikistan	01/08/2008
3	Philippines	Ms. Rosie Lovely T. Romulo, Chairperson National Council on Disability Affairs (NCDA) G/F SRA Building, North Avenue, Diliman, Quezon City, Philippines	10/11/2008
4	Bhutan	Mrs. Karma Doma Program Officer, Department of Health, Ministry of Health, Bhutan	05/03/2009
5	Cambodia	Mr. Hoth Kho, Depty Director, Rehabilitation Department, Ministry of Social Affairs, Veteran and Youth Rehabilitation, Cambodia	05/03/2009
6	Indonesia	Mr. Dwi Heru Sukoco Director, Social Rehabilitation and Services for Persons with Disabilities, Directorate General of Social Rehabilitation and Services, Ministry of Social Affairs, Indonesia	05/03/2009
7	Lao People's Democratic Republic	Mr. Phetsamone Phengsavane Deputy Director General, Ministry of Labour and Social Welfare, Lao People's Democratic Republic	05/03/2009
8	Malaysia	Ms. Norani M. Hashim Director, Division for planning and Development, Department of Social Welfare, Ministry of Woman, Family and Community Development, Malaysia	05/03/2009
9	Myanmar	Mr. Soe Kyi Director-General, Department of Social Welfare, Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement, Myanmar	05/03/2009
10	Pakistan	Mr. Khalid Naseem Director-General (Special Education), Ministry of Social Welfare and Special Education, Pakistan	05/03/2009
11	Viet Nam	Mr. Nghiem Xuan Tue, Director, National Coordinating Committee on Disability (NCCD), Viet Nam	05/03/2009
12	Brunei Darussalam	Mr. Haji Mohammad Bin Haji Abd Rahman Acting Permanent Secretary, Ministry of Culture, Youth and Sports, Brunei Darussalam	12/06/2010

See
↓ *cm*

ANNEX 9 Agreed Associate Organizations in Phase 2

As of Jan 2012

No.	Date Approved (dd/mm/yyyy)	Country	Name of Organization	Address/Tel/Fax/E-mail
1	08/01/2008	Thailand	Nakhonpathom Independent Living Center (NILC)	173 Sakaew Road , Phraphathon Amphur Muang , Nakhonpathom 73000 Tel/Fax: 034-213675 E-mail: sawaddiju@hotmail.com
2	09/05/2008	Japan	World Vision Japan	1-17-8-3F Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0073 Tel: (+81) 3-3367-7252 Fax: (+ 81) 3-3367-7652 E-mail: hiroaki_imanishi@worldvision.or.jp Website: http://www.worldvision.jp/
3	05/06/2008	Cambodia	Disability Development Services Pursat (DDSP)	Peal Nhekl Village , Pleh Prey Commune , Sampove Meas District , Pursat Province , c/o Department of Social Affairs Veterans and Youth Rehabilitation, P.O. Box 9206 Tel: (855) 052 951 495/092 266 493 E-mail: ddsp@camintel.com Website: N/A
4	08/06/2008	Thailand	Jodnongkae Sub-district Administrative Organization	Jodnongkae Sub -district Moo 1, Phon District, Khon Kaen Province 40120 Tel/Fax: 4321-3919 E-mail: nitwattana.d@hotmail.com
5	12/08/2008	The Philippines	SM Supermalls Committee on Disability Affairs	SM Corporate Offices , Building A, 1000 JW Diokon Blvd . Mall of Asia Complex, Pasay City 1300, Philippines Mailing Address: SM City North Edsa Administration Office , Edsa Corner North Avenue , Quezon City 1100 Tel: (632) 9272635 Fax: (632) 9262219 E-mail: bcm@smsupermalls.com Website: www.sprime.com
6	22/08/2008	Viet Nam	Reaching Out Handicrafts	103 Nguyen Thai Hoc Street , Hoi An, Viet Nam Tel: 84(0) 510 862460/910168 E-mail: Reachingoutvn@gmail.com Website: www.reachingoutvietnam.com
7	25/08/2008	Lao PDR	Vientiane Capital Disabled People's Association	Bann Sailom, Srisawad Street Muang Chanthaburi , Vientiane Capital, Lao PDR Tel: +856-21-263770 Fax: + 856-21-263097
8	24/09/2008	India	Asia Pacific Disability Rehabilitation Journal	J-124, USHA Apts., 16 Main 4 Block, Jayanagar, Bangalore 560011, India Tel/Fax: +91-80-26961556 Mobile: + 91 98459 18185 E-mail: m_thomas@rediffmail.com
9	24/10/2008	Kyrgyz Republic	Kyrgyz National Association of Disabled People's Organizations	# 191 Bokonbaev Street, Bishkek 720017, Kyrgyz Republic Tel: + 996-312-24-47-60 Fax: + 996-312-24-43-02 E-mail: erc@elcat.kg
10	08/11/2008	Japan	Foundation for Advanced Studies on International Development (FASID)	1-6-17 Kudan-Minami, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0074, Japan Tel: 81 3 5226 0303 Fax: 81 3 5226 0023 E-mail: watanabe@fasid.or.jp Website: www.fasid.or.jp
11	14/11/2008	The Philippines	Life Haven Inc.	2189 M. De Leon Street, Fortune Villabe 2, en.T. De Leon, Valenzuela City, Philippines 1442 Tel/Fax: (632) 4569819 E-mail: lifehaven@gmail.com Website: www.lifehaveninc.blogspot.com
12	14/11/2008	The Philippines	MCCID College of Technology (Previously Manila Christian Computer Institute for the Deaf Foundation, Inc.)	807 Aurora Blvd., Immaculate Conception, Cubao, Quezon City, Philippines, 1111 Tel: (632) 412 9447 Fax: (632) 726 9690 E-mail: info@mccid.edu.ph Website: www.mccid.edu.ph
13	18/02/2009	Pakistan	Danishkadah	Registered office: 1233/B, LAC II, Street 37/B, Mehmoodabad # 6, (Behind United Bakery), Karachi-75460, Pakistan Mobile Phone: +92 333 307 1630 (SMS only) E-mail: info@danishkadah.org.pk, danishkadah@gmail.com Project office: D - 63, Block 8, Gulshan-e-Iqbal, Karachi, Pakistan Website: www.danishkadha.org.pk

Sree
↓
OM

ANNEX 9 Agreed Associate Organizations in Phase 2

14	27/02/2009	The Philippines	Autism Society Philippines	Room 307 ML Bldg. 47, Kamias Road, Quezon City 1102 Philippines Tel: 632-926-6941/929 8447 Fax: 632-926-6941 E-mail: autismphil@pidtdsl.net; autismphils@gmail.com Website: www.autismsocietyph.org
15	06/03/2009	Thailand	The Thai Deaf Children & Women Network Federation (TDCWNF)	98/6 Moo Ban Klangmeuang Sai Onnut 17 Yaek 16, Sukhumvit 77 Rd., Suanluang, Bangkok 10250 Mobile Phone: 081-912-2112 (Interpreter) Tel: +662-720-0703 Fax: +662-720-0640 Email: thaideafwomen@gmail.com
16	13/03/2009	Pakistan	Association of the Physically Handicapped Adult (APHA)	Street 2, Block 16, Scheme 36 Gulistan –e-Jouha, Karachi, Pakistan Tel: 92-021-4611974 Tel/Fax: 92-021-4027137 E-mail: nishat@apha.org.pk Website: www.apha.org.pk
17	13/03/2009	Pakistan	Disabled Welfare Association (DWA)	42, Ground Floor, Al-Amna Plaza, M.A. Jinnah Road, Opp. Capri Cinema, Karachi, Pakistan Tel: 0092-300-9277998/0092 21 2789039 Fax: 0092-21-2788067 E-mail: d_welfare@yahoo.com Website: www.dwapk.org
18	13/03/2009	Pakistan	Pakistan Disable People Organization (PDPO)	406/677, Jamshed Road No. 3, Fatima Jinnah Colony, Karachi, Pakistan Tel: 0092-300-2613317, 0092-21-4128867, Fax: 0092-21-4134905 E-mail: surartimobin@hotmail.com Website: www.pdpo.org.pk
19	13/03/2009	Pakistan	Sindh Disability Forum (SDF)	42 Ground Floor, Al-Amna Plaza, M.A. Jinnah Road, Karachi Tel: +92-21-2789039 Fax: +92-21-2788067 E-mail: ghulamnabi.nizamani@gmail.com
20	31/03/2009	Japan	Inclusion Japan	Zenkoku Tobacco Center Bldg. 8F, 2-16-1 Nishi-shinbashi, Minato-ku Tokyo 105-0003 Tel: 0081-3-3431-0568 Fax: 0081-3-3578-6935 E-mail: info@ikuseikai-japan.jp Website: http://www.ikuseikai-japan.jp/index.html
21	01/04/2009	Viet Nam	Hanoi Association of the Deaf	No. 26 – Gate 181 – Nguyen An Ninh Street, Hoang Mai District, Hanoi, Viet Nam Tel/Fax: 84.4.36622760 Email: deafhvn@yahoo.com; Thuylinh.802000@gmail.com Website: www.deafhanoi.com
22	16/05/2009	The Philippines	Committee on Accessibility of the United Architects of the Philippines	53 Scout Rallos Street, Diliman, Quezon City 1103, Philippines Tel: (632) 889-8661 E-mail: Jaime.silva@cyan.com.ph; amreusfaguid@yahoo.com
23	18/05/2009	The Philippines	Philippine Web Accessibility Group, Inc.	2F 807 Aurora Blvd., Quezon City, Philippines 1111 Tel: (632) 412 9447 Fax: (632) 726-9690 E-mail: info@pwag.org Website: www.pwag.org
24	08/07/2009	Pakistan	National Institute of Science and Technical Education (NISTE)	Faiz-Ahmed-Faiz Road, Sector H-8/1, Islamabad, Pakistan 44000 Tel: +92-51-9250433 Fax: +92-51-9250543 E-mail: saïmanasir2007@hotmail.com Website: www.niste.edu.pk
25	08/07/2009	Thailand	Bangkok Independent Living Group	150/8 Moo 10, Kukot, Lamlookka, Phatumthanee 12130 Tel: 662-531-0429/66-85-0405301 E-mail: ilbangkok@gmail.com
26	08/07/2009	Viet Nam	Danang Youth People with Disability Association (DYPWDA)	40 Bach Dang Street, Hai Chau District, Danang, Vietnam Tel: +84-905-124452 E-mail: shgdanang@yahoo.com.vn, ntrungprinting@gmail.com
27	07/08/2009	Viet Nam	Danang Youth People with Disability Association (DYPWDA)	40 Bach Dang Street, Hai Chau District, Danang, Vietnam Tel: +84-905-124452 E-mail: shgdanang@yahoo.com.vn ntrungprinting@gmail.com

Sere
↓

ANNEX 9 Agreed Associate Organizations in Phase 2

28	09/08/2009	Pakistan	Sightsavers International	House No. 2, Street No. 10, Sector F-7/3 Islamabad, Pakistan Tel: 0092 51 2651276 Fax: 0092 a51 2651275 E-mail: ntiaz@sightsavers.org.pk
29	04/09/2009	Pakistan	Mirpurkhas Special Sports and Welfare Association Pakistan(MSSWA)	Gulistan-e-Mazooreen, Opp. Press Club Mirpurkhas Sindh, Pakistan Tel: +92-233-872687 Mobile: +92-334-2801706 Fax: +92-233-872687 E-mail: special_2005computer@yahoo.com
30	01/10/2009	Pakistan	Nawabshah Disability Forum (NDF)	House No. 11, VIP Road, Bhanghwar Colony Nawabshah, District Shaheed Benazir Abad (Sindh), Pakistan Tel: +92-244-366107 Fax: +92-244-366107 E-mail: ndf_nawabshah@yahoo.com Website: www.ndfnawabshah.org
31	22/10/2009	Malaysia	Malaysian Association for the Blind (MAB)	Kompleks MAB, Jln Tebing, Off Jln Tun Sambanthan 4, 50470 Kuala Lumpur, Malaysia Tel: (+603) 2272-2677 Fax: (+603) 2272-2676 E-mail: rahim@mab.org.my
32	09/11/2009	Thailand	Sukhothai Deaf Club	Special Education Center, Sukhothai Province, 39 Moo 5, Pak Qua Sub-District, Muang District, Sukhothai Province 64000 Tel: 66 5564 5297 Fax: 66 5564 5297 E-mail: hrang54@hotmail.com, kpong2511@hotmail.com
33	18/11/2009	Thailand	Global Campus Chiangmai	P.O. Box 175, Chiangmai Muang, Chiang Mai, 50000 Tel: 089-1912963 (ka), 081-7968056 (non), Tel/Fax: 053-241017 E-mail: gccthailand@hotmail.com, gcchailand@yahoo.com, kachakorn@hotmail.com, non977@hotmail.com
34	11/12/2009	Malaysia	Pusat Majidiri Y for the Deaf	95 Jalan Padang Belia, 50470 Kuala Lumpur, Malaysia Tel: 603-22741439 Fax: 603-22740559 E-mail: morleyng@ymcacl.com
35	15/12/2009	Myanmar	The Leprosy Mission International (TLMi)	12 K, Pyithu Lane, 7th Mile, Pyay Road, Mayangone Township, Yangon, Myanmar Tel/Fax: 0095(1) 666851 E-mail: scm@tmi-in-myanmar.org
36	16/12/2009	India	Mobility India	1st & 1st A Cross, J.P. Nagar, 2nd Phase, Bangalore 560078, India Tel: +91 80 26492222 Fax: + 91 80 26494444 E-mail: albina@mobility-india.org
37	16/12/2009	Indonesia	CBR Development and Training Center	Jl. LU. Adi Sucipto, Km. 7, Colomadu, Karanganyar, Solo 57176, Central Java Indonesia Tel: + 62-271-780075/780829 Fax: = 62-271-780976 E-mail: cbr_center@indo.net.id
38	16/12/2009	Nepal	International Nepal Fellowship	Green Pastures Complex, Pokhara, P.O. Box 28, Nepal Tel: 00977-61-431083 Fax: 00977-61-430940 E-mail: cbradvisor@nepal.inf.org
39	24/01/2010	Myanmar	Family Support Network for Children with Intellectual Disabilities	Room 31/Building 213 East Yankin, Yangon, Myanmar Tel: (95) 095024315 (95-1) 562158 (Res.) E-mail: ukyawhtut@gmail.com
40	19/03/2010	Indonesia	Sehjira Deaf Foundation	Jln. Terogong 2 No. 6c, Cilandak Barat Kec. Cilandak, Jakarta Selatan, DKI Jakarta, Indonesia Tel: (62-21) 81280940501 Fax: (62-21) 584 0813 E-mail: sehjira_vdf@yahoo.com Website: www.sehjira.or.id
41	26/04/2010	Singapore	Level Field Consultants	132 Lor L Telok Kurau # 01-05, Singapore 425569 Mobile (65) 9732-5877 Fax: (65) 6346-3315 E-mail: judy.wee@levelfield.com.sg Website: www.levelfield.com.sg
42	28/04/2010	Brunei	Society for the Management of Autism Related issues in Training, Education and Resources (SMARTER)	P.O. Box 694, Seri Cplex, Jalan Tutong, Bandar Seri Begawan, Brunei Darussalam, BA1779 Tel/Fax: +673-266-1830 E-mail: bjaksarter@gmail.com Website: www.smarterbrunei.org/
43	19/01/2012	Pakistan	A STAR Association (ASA)	41/A Cantt Plaza Abbotabad, KPK Pakistan Tel: +92-333-5039162 E-mail: astarassociation@yahoo.com

See


OM




ANNEX 10 List of Signed Action Plans

1/3

	Country	Focal Point / Associate Organization	Date of signing (dd/mm/yy)			Summary of Action Plan	% of implementation
			FP/AO	APCD Director	JICA Advisor		
1	Japan	Nippon Foundation	01/03/08	01/03/08	01/03/08	1. To organize Blind Future Leader's Dialogue Towards a Better Asia (Mar - Aug 2008)	100
2	Thailand	DPI-AP	11/04/08	11/04/08	11/04/08	1. To organize Sub-regional Capacity Development Workshop on Women with Disabilities (WWD) in 2009 and 2010 2. To organize Capacity Development of Self-Help Organizations of Persons with Disabilities (CDSHOD) in Central Asia	100
3	Lao PDR	LDPA Deaf Unit	01/07/08	14/07/08	14/07/08	1. To organize Lao Deaf leaders' training in Thailand 2. To organize Follow-up training in Laos	100
4	Thailand	Nakhonpathom Independent Living Center	01/08/08	04/08/08	04/08/08	1. Documenting the story of NILC 2. Presentation and distribution	100
5	Thailand	Association of Parents for Thai Persons with Autism	05/08/08	05/08/08	05/08/08	1. To collaborate on Networking and collaboration with persons with intellectual disabilities and their families in Thailand and CLMV 2. Documenting good practice collaboration the the autism between Thailand and CLMV	100
6	Japan	FASID	11/08/08	04/08/08	04/08/08	1. To organize workshop for persons with disabilities in CLMV	100
7	Viet Nam	Reaching Out Handicrafts	22/08/08	04/08/08	04/08/08	1. Documenting a good practice of a self-initiated business (social business) from a perspective of Economic Empowerment	100
8	Viet Nam	Danang Rehabilitation and Satatrium Hospital	25/08/08	04/08/08	04/08/08	1. Documenting a good practice of CBR from a perspective of Capacity Development (Danang Rehabilitation and Sanatorium Hospital)	100
9	Lao PDR	Vientiane Capital Disabled People's Association	28/08/08	04/08/08	04/08/08	1. Documenting a good practice of SHG/SHO from a perspective of Capacity Development (VCDPA) 2. Training of trainers	95
10	Thailand	Jodnongkae Sub-district Administrative Office	01/10/08	01/08/08	01/08/08	1. Documenting a good practice of CBR from a perspective of Capacity Development (Jodnongkae SAO) 2. Presentation of DVD at both domestic and international level	100
11	Thailand	Association for Persons with Intellectual Disability in Thailand	05/08/08	05/08/08	05/08/08	1. To collaborate on Networking and collaboration with persons with intellectual disabilities and their families in Thailand and CLMV 2. Documenting good practice of the ID in collaboration between Thailand and CLMV	100
12	Uzbekistan	World Vision Uzbekistan	12/12/08	03/02/09	20/01/09	1. Collaboration in Uzbekistan in CBR Project	100





	Country	Focal Point / Associate Organization	Date of signing (dd/mm/yy)			Summary of Action Plan	% of implementation
			FP/AO	APCD Director	JICA Advisor		
13	Viet Nam	Hanoi Association of the Deaf	15/01/09	03/02/09	03/02/09	1. Development of the foundation for forming a national level association of the Deaf in Viet Nam and a sub-regional network of the Deaf organizations in CLMV	70
14	India	Asia Pacific Disability Rehabilitation Journal	17/02/09	02/03/09	02/03/09	1. Coordination and Facilitation of the Post CBR Congress Workshop 2. Publication of the Post CBR Congress Workshop	100
15	Philippines	United Architects of the Philippines Accessibility Committee	24/02/09	02/03/09	02/03/09	1. Documenting a good practice of NHE from a perspective of Capacity Development	100
16	Philippines	National Council on Disability Affairs	03/03/09	03/03/09	03/03/09	1. Documenting a good practice of NHE/ICT from a perspective of Capacity Development	100
17	Pakistan	Special Talent Exchange Program	11/03/09	11/03/09	11/03/09	1. Documenting a good practice of SHG from a perspective of Capacity Development	100
18	Danishkadah	Danishkadah	13/03/09	13/03/09	13/03/09	1. Documenting a good practice of ICT from a perspective of Capacity Development	100
19	Papua New Guinea	Papua New Guinea Assembly of Disable Persons	20/03/09	13/03/09	23/03/09	1. Documenting a good practice of SHO from a perspective of Capacity Development	100
20	Thailand	Inclusion Japan	N/A	01/04/09	01/04/09	1. Strengthening of the capacity of potential leaders among Thai persons with intellectual disabilities and their families 2. Experiences of the Inclusion Japan in promoting self-advocacy and strengthening groups/organizations of persons with intellectual disabilities and their families are shared with their peers in Thailand and CLMV	95
21	Philippines	Resources for the Blind Incorporated	15/05/09	26/05/09	26/05/09	1. Documenting a good practice of ICT from a perspective of Capacity Development	100
22	Philippines	MCCID College of Technology	15/05/09	26/05/09	26/05/09	1. Documenting a good practice of ICT from a perspective of Capacity Development	100
23	Philippines	Life Haven Incorporated	19/05/09	26/05/09	26/05/09	1. Producing Tagalog subtitle version of DVD Nakhonpathom ILC 2. Training of IL leaders in partnership between LHI and SCIF	100
24	Philippines	SM Supermalls Committee on Disability Affairs	12/05/09	1/05/09	1/05/09	1. Documenting a good practice of Inclusive Community Business Development from a perspective of Capacity Development (SM Supermalls Committee on Disability Affairs)	100
25	Vietnam	World Vision Vietnam	16/06/09	23/06/09	23/06/09	1. Promoting CBR in Inclusive Development (Production and Utilization of a Documentary DVD) 2. Participate in CBR Networking in Asia-Pacific region 3. Capacity Building for Inclusive Development on Disability	95



 [Handwritten signature and initials]

ANNEX 10 List of Signed Action Plans

	Country	Focal Point / Associate Organization	Date of signing (dd/mm/yy)			Summary of Action Plan	% of implementation
			FP/AO	APCD Director	JICA Advisor		
26	Pakistan	National Institute of Science and Technical Education	26/06/09	26/06/09	02/07/09	1. Documenting a good practice of SHG from a perspective of Capacity Development (STEP) 2. Utilizing the DVD for the training activities by NISTE	100
27	Thailand	Thai Deaf Children and Women Network Federation	N/A	N/A	21/07/09	1. Networking and collaboration with the Deaf in CLMV	85
28	Myanmar	Eden Center	22/10/09	4/11/09	04/11/09	1. CBR training program development	90
29	Malaysia	Malaysian Association for the Blind	N/A	18/11/09	18/11/09	1. Documenting a good practice of ICT from a perspective of Capacity Development (MAB)	100
30	Myanmar	Family Support Network	28/01/10	28/01/10	28/01/10	1. Network and Collaboration among family members	100
31	Brunei	Society for the Management of Autism Related issues in Training, Education and Resources	29/04/10	29/04/10	29/04/10	1. To exchange and share ideas, experiences and resources on Autism among self-advocates (persons with Autism), family members and supporters from the perspective of ASEAN region	100
Average:							97.7

See

Annex 11 List of Trainings, Workshops, and Seminars

177

Course Title	Year	Month	Date	Place	Number of participants	Main participants
Regional Workshop on the Empowerment of Persons with Intellectual Disabilities and their Families in Asia and the Pacific	2007	10	11-13	China	6	Persons with intellectual disabilities, families and members of the Association for Persons with Intellectual Disabilities and the Association of Parents for Thai Autistic Persons
Workshop on Intellectual Disabilities	2007	11	20-22	Cambodia	18	Persons with intellectual disabilities (5 persons) and persons with cerebral palsy (3 persons) and supporters
Networking and collaboration workshop with persons with intellectual disabilities	2007	12	3-8	Viet Nam	26	Persons with intellectual disabilities and their families
Networking and collaboration workshop	2007	12	12-14	Laos	48	Deaf persons, persons with intellectual disabilities, their families and supporters
Networking and collaboration workshop with Deaf persons	2007	12	3-8	Viet Nam	22	Deaf persons
Sub-regional workshop on Intellectual Disabilities	2008	1	22-25	Thailand	25	Persons with intellectual disabilities, families and supporters from Cambodia, Laos, Viet Nam and Thailand
Workshop on the Capacity Building for Self-help Organizations of Persons with Disabilities (CBSHOD)	2008	2	12-16	Papua New Guinea	57	Leaders of self-help organizations of persons with disabilities from the Pacific countries
Workshop with Deaf Leaders and Deaf School Teachers	2008	3	10-14	Myanmar	30	25 Deaf persons and 5 Deaf school teachers in Myanmar
Training to strengthen CBR through a comprehensive participatory approach	2008	4	21-2 May	Thailand	25	25 participants from Cambodia, Laos, Malaysia, Pakistan, the Philippines, Sri Lanka and Thailand.
Expert Meeting on WHO World Report	2008	6	15	Philippines	30	CBR stakeholders in Asia-Pacific
Workshop with Persons with Intellectual Disabilities and their Families	2008	8	19	Viet Nam	28	Persons with intellectual disabilities and their families
Workshop with Persons with Intellectual Disabilities and their Families	2008	8	21	Viet Nam	30	Persons with intellectual disabilities and their families

Same
↓ *an*

Annex 11 List of Trainings, Workshops, and Seminars

2/7

Course Title	Year	Month	Date	Place	Number of participants	Main participants
Workshop with Persons with Intellectual Disabilities and their Families	2008	8	25-29	Laos	42	Persons with intellectual disabilities and their families
Presentation at Triangular and South-South Cooperation to be Focus of UN Forum	2008	10	21	Thailand	50	UNDESA, UNESCAP
Workshop on the Capacity Development of Self-help Organizations of Persons with Disabilities (CDSHOD)	2008	10	16-26	Kyrgyz Republic	51	Leaders of self-help organizations of persons with disabilities, government and UN representatives from the five Central Asian countries.
Workshop on Leadership and Capacity Development of Deaf Leaders	2009	1	11-16	Viet Nam	27	Deaf and hearing impaired persons from Ho Chi Minh City, Hanoi and surrounding provinces
1st Asia-Pacific CBR Congress	2009	2	18-20	Thailand	650	Over 650 participants from more than 50 countries joined the meeting, which was organized by WHO, UNESCAP, APCD and the Ministry of Social Development and Human Security.
Training on CBR (Post-CBR Congress)	2009	2	21-22	Thailand	24	24 CBR practitioners among APCD's ex-training participants and 6 prominent resource persons on CBR attended the CBR Congress and the post-congress workshop to discuss the future direction of CBR.
Training on Disability, Gender and Development	2009	3	2-14	Thailand	22	22 participants from Cambodia, Kazakhstan, Laos, Malaysia, the Philippines, Thailand, Viet Nam
Workshop with Self-advocates with intellectual disabilities/autism and their families	2009	3	18-19	Thailand	26	13 self-advocates and 13 family members 3 JICA short-term experts
High-level Meeting on South-to-South Cooperation	2009	3	4-5	Thailand	20	Senior government officials from the Asia-Pacific region (mainly the ASEAN region)
Senior Officials' Meeting on South-to-South Cooperation on Disability	2009	3	4-5	Thailand	19	19 representatives of APCD national focal points (Bhutan, Cambodia, Indonesia, Lao People's Democratic Republic, Malaysia, Myanmar, Pakistan, the Philippines, Thailand and Vietnam) exchanged information on the progress made in relation to self-help organizations of PWDs and their families as well as women with disabilities. They also adopted a joint statement which supports the internationalization of APCD.
Workshop on Self-Help Groups of Deaf Persons	2009	5	27-29	Laos	31	29 Deaf persons and 2 sign language interpreters from Vientiane and Savannakhet

See
W *am*

Annex 11 List of Trainings, Workshops, and Seminars

3/7

Course Title	Year	Month	Date	Place	Number of participants	Main participants
Workshop for Sharing Experiences between Cambodian and Thai Deaf Persons	2009	6	8-10	Cambodia	44	Deaf persons (23 persons) and NGO staff
Workshop "CBR as a PWDs-led Approach Towards Inclusive Development"	2009	6	24 - 2 Jul	Uzbekistan	30	Persons with disabilities and supporters (CBR workers)
Training on Strengthening CBR and SHG of PWDs	2009	7	21-29	Thailand	25	25 participants from Cambodia, Indonesia, Laos, Malaysia, Myanmar, Pakistan, the Philippines, Thailand and Viet Nam.
Follow-up Workshop Blind Leaders' Dialogue	2009	8	3-6	Thailand	5	5 delegates from Indonesia, Malaysia, Myanmar, the Philippines and Viet Nam. They identified potential areas for regional projects (fundraising and entrepreneurship)
Regional workshop on accessibility web-based information networking	2009	9	2-Nov	Thailand	16	16 participants from Cambodia, Indonesia, Laos, Philippines, Thailand and Vietnam
Workshop on Intellectual Disabilities	2009	9	14-17	Cambodia	54	Families (35 persons) of persons with intellectual disabilities
Workshop with Families of Deaf Persons	2009	10	8-10	Laos	30	20 Deaf persons and 10 family members/supporters
Workshop on Sharing Experiences in Conducting Training	2009	10	19-22	Myanmar	16	Members of NGOs and government officials engaged in training activities on disability and development
CBR Asia-Pacific Network Meeting	2009	12	14-16	Thailand	18	18 country representatives of the CBR Asia-Pacific Network met at APCD to develop a Constitution, a Plan of Actions and select the Executive Committee members
Workshop on Awareness Raising Activities by Deaf Groups	2010	1	11-14	Myanmar	58	58 persons (3 Department of Social Welfare officials, 1 Project JCC member, 20 Project Task Force Members from Yangon and Mandalay, 12 from Project Facilitators from Yangon and Mandalay, 5 Mandalay Deaf persons, 7 Yangon Deaf persons, 1 JICA long-term expert, 1 JICA Project assistant, 8 APCD mission members) attended the workshop
Workshop on the Capacity Development of Self-help Organizations of Persons with Disabilities (CDSHOD)	2010	1	26-29	Thailand	36	36 PWDs from the ASEAN region participated and adopted the Bangkok Declaration, in which they committed themselves to the development of self-help organizations of PWDs and regional collaboration among them.

Sum
 *cm*

Annex 11 List of Trainings, Workshops, and Seminars

4/7

Course Title	Year	Month	Date	Place	Number of participants	Main participants
ID workshop in Myanmar	2010	2	19-20	Myanmar	54	2 Department of Social Welfare officers, 15 persons with intellectual disabilities, 20 family Members from Family Support Network Yangon and 17 observers
Workshop with Self-advocates with intellectual disabilities/autism and their families	2010	2	21-22	Thailand	25	10 self-advocates, 10 family members and 5 supporters
Training on Disability, Gender and Development	2010	3	9-19	Thailand	15	15 participants from Indonesia, Malaysia, Myanmar, Philippines, Vietnam and Thailand
Collaboration with the World Vision Vietnam for training on CBR	2010	4	20-27	Viet Nam	24	Two workshops (21-23, 24-26) were conducted with active participation of PWDs (physical). World Vision Vietnam staffs and community leaders (mixture of leaders from MOLISA, Area Development Program and community health workers) in 8 districts. APCD resource persons and staffs facilitated sessions on international disability movement, DET, Disability Mainstreaming and SWOT analysis to raise awareness on PWDs as well as to identify their situations and develop action plan.
Meeting on National Plan of Action and CBR in Myanmar	2010	5	10-14	Myanmar	200	Participants: about 200 peoples total in Nepido and Yangon. Ministries of Myanmar, International Organizations, DPOs.
Training of Trainers for Community-based Rehabilitations (CBR) through an Inclusive Development Approach (ASEAN)	2010	6	7-18	Thailand	19	19 participants from Indonesia, Myanmar, Philippines, Vietnam, Timor Leste and Thailand
CBR-AP Network Meeting	2010	6	14	Thailand	8	1. Ms. Noor Yasmin Abdul Karim Chairperson 2. Ms. Amy Bolinas Vice Chairperson 3. Mr. Ghulam Nabi Nizamani Vice Chairperson 4. Ms. Etsuko Ueno Vice Chairperson 5. Mr. Akiie Ninomiya EC Member 6. Mr. Sunarman Sukanto EC Member 7. Ms. Kanitta Kamolwat Treasurer 8. Mr. Paul Gibbs Secretary
Regional Leadership Conference in Pakistan	2010	7	31-2 Aug	Pakistan	150	The Conference was organized by Special Talent Exchange Program (STEP) in collaboration with the Ministry of Social Welfare and Special Education (Government of Pakistan) Asia-Pacific Development Center on Disability, Sightsavers, Telenor Pakistan, and British Council. In total 150 persons participated in the meeting.
Training of Trainers for Community-based Rehabilitation (CBR) through an Inclusive Development Approach (Asia-Pacific)	2010	8	18-30	Thailand	17	17 participants from Afghanistan, Bangladesh, Cambodia, Indonesia, Iran, Nepal, Sri Lanka, Timor Leste and Thailand

Sere

W am

Annex 11 List of Trainings, Workshops, and Seminars

5/7

Course Title	Year	Month	Date	Place	Number of participants	Main participants
Senior Officer's Meeting on South-to-South Cooperation on Disability	2010	8	19-20	Thailand	30	Senior officials from 10 ASEAN countries are invited to Bangkok. Twenty representatives from Ministry of Social Welfare and 10 representatives from Ministry of Foreign Affairs from ASEAN countries will attend the Senior Officials Meeting.
Preparation Meeting on CRPD report in Laos	2010	9	23-24	Laos	2	Ministry of Labour and Social Welfare (MLSW) - Mr. Phetsamone, Deputy Permanent Secretary, - Mr. Bounphamith Somvichith, Officer in Charge of Disability
Collaboration with AO and ASEAN in Indonesia	2010	9	13-17	Indonesia	-	Meeting with JICA Indonesia, Visiting Sehjira Deaf Organization, CBM Country Office, Yayasan Autisma Indonesia (Autism Foundation in Indonesia), Embassy of Japan to ASEAN, ASEAN Secretariat, Permanent Representative of Thailand to ASEAN, Royal Thai Embassy, Community Based Rehabilitation Development and Training Center (CBRDTC)
ESCAP Committee on Social Development	2010	10	-	Thailand	-	-
ID Stakeholders Meeting	2010	11	30	Thailand	10	Persons with intellectual disabilities, their families and supporters
Asia-Pacific CBR Convention	2010	11	13-15	Malaysia	553	representatives of persons with disabilities, CBR practitioners, domestic/international NGOs and government officials from 32 countries in the Asia Pacific
Post Asia-Pacific CBR Convention Workshop	2010	11	16	Malaysia	18	18 participants from Cambodia, China, India, Indonesia, Laos, Myanmar, Pakistan, Philippines, PNG, Vietnam and Thailand.
Preparation Meeting on CRPD report in Laos	2010	12	21-22	Laos	50	Participants: about 50 peoples as follows; Ministries of LSW, Cabinet, Foreign Affairs, Law, Health, Information, Women Union and so on, Representatives from Disabilities. JICA Lao PRD Office.
ASEAN Autism Workshop	2010	12	13-15	Thailand	27	Brunei, Myanmar, Viet nam, Indonesia, Thailand, Philippines, Malaysia, Cambodia, Laos
The First Conference of Stakeholders to CBR for PWDs	2011	1	10-13	Myanmar	133	Main Organizer: Network of Myanmar Disabled People Co-organizers: DSW, APCD, AAR-Japan and AEON
Empowerment Cafe Workshop	2011	2	3-5	Thailand	5	delegates from 5 regions

Sere

↓ am

Annex 11 List of Trainings, Workshops, and Seminars

6/7

Course Title	Year	Month	Date	Place	Number of participants	Main participants
AAN Regular Meeting	2011	3	8	Thailand	10	AAN Members
Mission to Bangladesh for sub-regional collaboration in South Asia	2011	3	15-19	Bangladesh	27	Ministry of Social Welfare of Bangladesh, BPKS, ADD Bangladesh, National Forum of Organizations with the Disabled (NFOWD), Centre for Disability in Development (CDD), Sightsavers Bangladesh Office, British Council Bangladesh, South Asian Disability Forum (SADF)
Training of trainers for Community-based Inclusive Development (CBID)	2011	5	23-3Jun	Thailand	13	13 participants from Afghanistan, Bangladesh, Cambodia, Myanmar, Nepal, Pakistan, Palestine and Thailand
UNESCAP General Session	2011	5	19-21	Thailand	-	-
CBR-AP network EC	2011	5	30-31	Thailand	6	1. Ms. Noor Yasmin Abdul Karim Chairperson 2. Ms. Amy Bolinas Vice Chairperson 3. Ms. Etsuko Ueno Vice Chairperson 4. Mr. Ghulam Nabi Nizamani Vice Chairperson 5. Ms. Vijita Rachatanantikul Treasurer on behalf of Ms. Kingkaew Inwang 6. Mr. Akiie Ninomiya EC Member
AAN Regular Meeting	2011	5	10	Thailand	7	AAN Members
Training for Strengthening Community-Based Rehabilitation (CBR) in Countries of the South-East Asian Region	2011	7	4-9	Thailand	16	16 participants from Bangladesh, India, Indonesia, Myanmar, Sri Lanka, and Thailand
Regional Leadership Conference for Persons with Disabilities in South Asia under the concept of "Make the Right Real"	2011	9	21-22	Bangladesh	100	2-day regional conference was organized by the Ministry of Social Welfare of Bangladesh, SADF, BPKS, the United Nations ESCAP, APCD, JICA and British Council.
Collaboration with South Asian Disability Forum (SADF)	2011	9	19-20	Bangladesh	20	2-day workshop was organized by SADF in collaboration with Bangladesh Probandi Kalyan Somity (BPKS), APCD and JICA to outline the key points of SADF including Constitution, Office bearers and Future SADF activities
Regional Workshop on Development of Self Help Group Network on Intellectual Disability in Cambodia	2011	11	14-17	Cambodia	110	Participants from Cambodia, Thailand, and Myanmar, including persons with intellectual disabilities and their families
2nd Asia-Pacific CBR Congress	2011	11		Philippines	600	More than 600 Delegates from 65 Countries Participating in the Congress

Saru
U am

Annex 11 List of Trainings, Workshops, and Seminars

Course Title	Year	Month	Date	Place	Number of participants	Main participants
Make the Right Real Campaign in the Philippines	2011	12	2	Philippines	3000	collaborate with other stakeholders (NCCA, SM, ESCAP) to organize the Campaign event on Make the Right Real
Inclusive for All: Training of Trainers (TOT) for Community-based Inclusive Development (CBID)	2012	2	6-17	Thailand	15	15 participants from Afganistan, Bhutan, Cambodia, Pakistan, Thailand, Uzbekistan and Vietnam

*See
↓ am*

ANNEX 12 List of Published Materials

	Course Title	Year	Place	Copies	Format
1	Nakhon Pathom Independent Living Center (NILC)	2008	Thailand	1,000	DVD & Newsclip
2	CBR Initiative in Jodnongkae	2008	Thailand	1,000	DVD & Newsclip
3	Together We Can Make Changes	2009	Lao PDR	1,000	DVD & Newsclip
4	CBR & Inclusive Development in Asia and the Pacific	2009	Asia-Pacific	1,000	Booklet
5	South-South Cooperation Seminar Report (ESCA P-APCD)	2009	Asia-Pacific	500	Workshop Report
6	Community for All	2009	Vietnam	1,000	DVD & Newsclip
7	Differently Able Notebook	2009	Asia-Pacific	1,000	Leaflet & Others
8	Yes, You Can!	2009	Vietnam	1,000	DVD & Newsclip
9	APCD Introduction Leaflet	2009	Asia-Pacific	1,000	Leaflet & Others
10	APCD Roll-up	2009	Asia-Pacific	1	Leaflet & Others
11	Inclusive Community Development	2010	Asia-Pacific	1,000	Booklet
12	House of Wisdom	2010	Pakistan	2,000	Cartoon & Photo
13	Community Based Inclusive Development: Principle and Practice	2010	Asia-Pacific	1,000	Booklet
14	South-South Cooperation Seminar Report (ESCA P-APCD)	2010	Asia-Pacific	1,000	Workshop Report
15	CDSHOD Training Report	2010	Asia-Pacific	1,000	Training Report
16	Disability, Gender and Development Training Report	2010	Asia-Pacific	500	Training Report
17	Regional Collaboration Roll-up	2010	Asia-Pacific	1	Leaflet & Others
18	A Blind Architect	2010	Philippines	1,000	DVD & Newsclip
19	CBR in ASEAN Training Report	2010	ASEAN	500	Training Report
20	Inclusive Business Brochure	2010	Asia-Pacific	1,000	Leaflet & Others
21	Business Magazine "Informa"	2010	Asia-Pacific	1,000	Leaflet & Others
22	Accessible Information Roll-up	2010	Asia-Pacific	1	Leaflet & Others
23	The Heart of SM	2010	Philippines	1,000	DVD & Newsclip
24	UN-APCD Collaboration	2010	Asia-Pacific	1,000	Cartoon & Photo
25	Empowerment Starts within Oneself	2010	Papua New Guinea	1,000	Cartoon & Photo
26	CBR AP Training Report	2010	Asia-Pacific	500	Training Report
27	Wheelchair support to flood victims in Pakistan	2010	Pakistan	500	Booklet
28	APCD – Wheelchair Support to Pakistan	2010	Pakistan	1	DVD & Newsclip
29	From Why to How through ICT	2010	Philippines	1,000	DVD & Newsclip
30	Beyond the Voice of Our Own	2010	Pakistan	1,000	DVD & Newsclip
31	Rights Base for the Disabled	2010	ASEAN	1	DVD & Newsclip
32	International Day of Persons with Disabilities	2010	Asia-Pacific	1	DVD & Newsclip
33	First ASEAN Autism Workshop	2010	ASEAN	1	DVD & Newsclip
34	ASEAN Autism Walk	2011	ASEAN	1	DVD & Newsclip
35	APCD Annual Report	2011	Thailand	500	Booklet
36	APCD Launched the Empowerment Café	2011	Asia-Pacific	1	DVD & Newsclip
37	Community-based Inclusive Development: Principles &	2011	Asia-Pacific	1,000	Booklet
38	Post CBR Convention Workshop Training Report	2011	Asia-Pacific	600	Training Report
39	Autism Workshop and Congress Training Report	2011	ASEAN	600	Workshop Report
40	Make the Right Real in Thailand Report	2011	Thailand	500	Workshop Report
41	WHO-APCD CBR Training Report	2011	Asia-Pacific	600	Training Report
42	Community-based Inclusive Development Workshop	2011	ASEAN	1	DVD & Newsclip
43	APCD International Training on CBR for Syria	2011	Syria	50	Training Report
44	ASEAN Highlights	2011	ASEAN	1	DVD & Newsclip
45	Make the Right Real Roll-up	2011	Asia-Pacific	1	Leaflet & Others
46	Make the Right Real in Pakistan Report	2011	Pakistan	200	Workshop Report
47	Make the Right Real in PNG Report	2011	Papua New Guinea	200	Workshop Report
48	Make the Right Real in Bangladesh Report	2011	Bangladesh	300	Workshop Report
49	South Asia Disability Forum (SADF) Report	2011	Bangladesh	500	Workshop Report
50	APCD International Training Leaflet	2011	Asia-Pacific	500	Leaflet & Others
51	CBR Asia-Pacific Network Leaflet	2011	Asia-Pacific	1,000	Leaflet & Others
52	Summary of Activities: CBR & CBID	2011	Asia-Pacific	500	Booklet
53	Genashtim: ICT and Disabilities	2011	ASEAN	1	DVD & Newsclip
54	Autism Poster in ASEAN countries	2012	ASEAN	3,000	Leaflet & Others
55	APCD Trainee's Resource Book	2012	Asia-Pacific	500	Booklet
56	ID Workshop Report	2012	Cambodia	1,000	Workshop Report
57	Make the Right Real in Philippines Report	2012	Philippines	1,000	Workshop Report

Sere

↓ m

ANNEX 13 Satisfaction Level of APCD Trainings Participants

YEAR

* Participants select from Strongly Agree, Agree, Disagree, Strongly Disagree and N/A

2008 **Training to strengthen CBR through a comprehensive participatory approach** 28 respondents including observers

NO.	Questions	Strongly Agree	Agree	Sum	
1	I have gained new important knowledge/skills	21	7	28	
		75%	25%	100%	
2	Training contents have met my expectation	13	15	28	
		46%	54%	100%	
3	Training contents are relevant to my work	16	11	27	
		57%	39%	96%	
4	Training contents are applicable to my country situation	14	14	28	average
		50%	50%	100%	99%

2009 **Training on Strengthening CBR and SHG of PWDs** 24 respondents

NO.	Questions	Strongly Agree	Agree	Sum	
1	I have gained new important knowledge/skills	14	7	21	
		58%	29%	88%	
2	Training contents have met my expectation	15	5	20	
		63%	21%	83%	
3	Training contents are relevant to my work/country situation	12	8	20	
		50%	33%	83%	
4	Training contents are applicable to my work/country situation	11	10	21	average
		46%	42%	88%	85%

Disability, Gender and Development 16 respondents

NO.	Questions	Strongly Agree	Agree	Sum	
1	I have gained new important knowledge/skills	5	10	15	
		31%	63%	94%	
2	Training contents have met my expectation	3	9	12	
		19%	56%	75%	
3	Training contents are relevant to my work/country situation	3	10	13	
		19%	63%	81%	
4	Training contents are applicable to my work/country situation	6	8	14	average
		38%	50%	88%	84%

Regional Workshop on Accessible Web-based Information Networking 16 respondents

NO.	Contents	Strongly Agree	Agree	Sum	
1	I have gained new important knowledge/skills.	4	9	13	
		31%	69%	100%	
2	Training contents have met my expectation.	3	10	13	
		23%	77%	100%	
3	Training contents are relevant to my work/country situation	4	8	12	
		31%	62%	92%	
4	Training contents are applicable to my work/country situation	6	7	13	average
		46%	54%	100%	98%

2010 **Training on Disability, Gender and Development** 14 respondents

NO.	Questions	Strongly Agree	Agree	Sum	
1	I have gained new important knowledge/skills	11	2	13	
		79%	14%	93%	
2	Training contents have met my expectation	6	6	12	
		43%	43%	86%	
3	Training contents are relevant to my work/country situation	7	6	13	
		50%	43%	93%	
4	Training contents are applicable to my work/country situation	10	3	13	average
		71%	21%	93%	91%

TOT for CBR (ASEAN) 16 respondents

NO.	Questions	Strongly Agree	Agree	Sum	
1	I have gained new important knowledge/skills	7	8	15	
		44%	50%	94%	
2	Training contents have met my expectation	5	10	15	
		31%	63%	94%	
3	Training contents are relevant to my work/country situation	11	4	15	
		69%	25%	94%	
4	Training contents are applicable to my work/country situation	7	8	15	average
		44%	50%	94%	94%

CBR Asia-Pacific

Overall satisfaction						
Items	Excellent	Very good	Good	Fair	Poor	
How do you find the overall of this training?	41%	47%	12%	0%	0%	100%

2011 **CBID Training of Trainers**

Overall satisfaction						
Items	Excellent	Very good	Good	Fair	Poor	
How do you find the overall of this training?	31%	62%	0%	0%	0%	92%

WHO-APCD CBR Training

Overall satisfaction						
Items	Excellent	Very good	Good	Fair	Poor	
How do you find the overall of this training?	13%	44%	44%	0%	0%	100%

2012 **TOT for Community-based Inclusive Development (CBID)**

Overall satisfaction						
Items	Excellent	Very good	Good	Fair	Poor	
How do you find the overall of this training?	79%	21%	0%	0%	0%	100%

Total Average: 94%

Sere
↓
Out

ANNEX 14: Impacts of the Project

1) From International Organizations

1. As the result of the first Asia-Pacific CBR Congress in Bangkok, Thailand, the CBR Asia-Pacific Network was established as a vehicle to promote CBR/CBID. In close collaboration with the World Health Organization (WHO), APCD has been identified as the secretariat of the CBR Asia-Pacific Network.
2. WHO has been strengthening collaboration with APCD in the area of CBR/CBID. In response to the request from WHO, customized CBR training for countries of WHO South-East Asia Region was organized in July 2011. Moreover, APCD conducted CBR situation analysis tasked by WHO.
3. APCD has signed MOU with ESCAP as a partner to promote the regional campaign "Make the Right Real" to review the 2nd Asia and Pacific Decade of Disabled Persons (2003-2012) and picture future prospects in the region. For the purpose of public relations, all documents and other materials have been developed according to knowledge management approach: evidence-based documentation.
4. APCD "Empowerment Café", an information and knowledge management mechanism was developed to exchange information regarding disability and development on a sub-regional basis in Asia and the Pacific. With over 800 news per month, APCD Empowerment Café has been connected with other social media such as Facebook which has about 1,000 members.
5. Fifteen civil society organizations are identified to participate in the High-level Intergovernmental Meeting organized by ESCAP in March 2012. APCD, CBR-AP Network, SADF and AAN are included in the list.
6. OECD selected APCD as a model case of "The South - South Opportunity Case Stories". Moreover, the World Bank selected APCD as one of the six good practices of South-South Cooperation in the magazine of the World Bank Institute.

Thailand

1. APCD provided international training to nearly 400 persons in Thailand. Some of them have been collaborating with APCD as resource persons on CBR, DET and other topics.
2. Ms. Preparat Sasean, Dao Rueng Group (self-help group of persons with intellectual disabilities, which was facilitated by APCD) received the "Princess Ngarmchit Award" from Her Royal Highness Princess Soamsavali. Ms. Preparat has been playing a leadership role as a member of the Dao Rueng Group.
3. The Project Phase 2 focused on empowerment of persons with intellectual disabilities in the greater Mekong region. Several JICA short-term experts who are self-advocate with intellectual disabilities were dispatched. As a result, the first ever self-advocacy group of

Sere
↓ *OK*

persons with intellectual disabilities in the greater Mekong region namely “Dao Ruang” was formed in Thailand in 2009. One of the leading “Dao Ruang” members explained how her life had changed after joining “Dao Ruang” activities; “I feel I am reborn. Before, no one cared about us. I now believe myself that we are capable as like any other persons without disabilities. I am now proud of myself”. The members presented their activities in the international events such as CDSHOD in Bangkok in 2010, 2nd Asia-pacific CBR Congress in Manila, the Philippines in November 2011, as the only presenter with intellectual disabilities.

2) Papua New Guinea

1. After the CDSHOD in 2007, the development process of PNG Assembly of Disabled Persons (PNGADP) was illustrated as a photo book according to the story-based knowledge management approach. The photo book was fully utilized to emphasize the participation of persons with disabilities in the development process. In March 2011, APCD dispatched a mission to PNG for promoting the ratification of CRPD. The “Make the Right Real” workshop was conducted in collaboration with the ESCAP, the Department of Community Development, PNGADP, APCD and JICA. The outcome of the workshop was the Government of PNG to sign the UNCRPD on 3 June 2011. Presently, all the documents necessary for ratification are in the approval procedure in the Parliament.

3) Pakistan

1. As one of “Make the Right Real” campaign activities, the Stakeholders Meeting on Reviewing the AP Decade was organized by the Government of Pakistan, STEP, Sightsavers, ESCAP, APCD, JICA and British Council at the end of January 2011. Following up the Islamabad Recommendations to Make the Right Real, the Government of Pakistan ratified the UNCRPD in July 2011.
2. The Special Talent Exchange Program (STEP, DPO), one of AO in Pakistan, motivated by APCD developed good capacities among staff. Some international leadership conferences of persons with disabilities have been arranged by STEP mainly. The Ministry of Education and the Ministry of Social Welfare and Special Education committed to invite STEP as resource organization for teacher’s training, as a result of collaboration on knowledge management with APCD.
3. In consultation with APCD, FPs/ AOs, APCD resource persons and APCD ex-participants in Pakistan established a platform to work on disability movement such as the Pakistan Disability Forum (PDM) and the Sindh Disability Forum (SDF).
4. Danishkadah (DPO), one of AOs in Pakistan, works hard on awareness-raising programs in Pakistan regarding information and web accessibility. Such process was documented in the cartoon book “House of Wisdom” as one of APCD’s knowledge management activities. Danishkadah has been leading the movement on Hard of Hearing and Deafened at the

Sera
↓ *am*

Asia-Pacific level.

5. An ex-participant, who belongs to Sightsavers in Pakistan, conducted three CBR trainings after he participated in APCD's CBID training. The trainings were given to their partner organizations, which implements Water Supply and Sanitation Project. They were given comprehensive training on CBR components. Also CBR network has been developed in Pakistan, of which main aim is to empower persons with disabilities and DPOs.
6. An ex-participant, who participated in APCD training on Gender, Disability and Development, established "Women with Disability Forum, Pakistan" in 2010 in collaboration with the Duskin Leadership trainees. After a series of meetings, the very first leadership training for Women with Disabilities was conducted by the Forum in collaboration with APCD resource person, ex-participant and JICA PWDs leadership trainee.

4) Indonesia

1. An ex-participant, who learned the right-based approach in APCD's CBR training, shared knowledge in the community. The ex-participant observed the change of peoples' attitude including persons with disabilities and their parents.
2. An ex-participant, who accomplished the training course in 2010, published her life story book. The experience obtained in APCD training motivated her to speak about her own disability and her wish to change the society to be friendly with PWDs. She has received by now 150 emails from the readers and the number of her follower of Facebook has now reached 2,000 and that of twitter has reached 1,500. Also she established in December 2011 a private company named "Thisable Enterprise", which provides consulting services for the specific private companies (mainly oil and/or natural gas suppliers) who have established PWDs supporting fund in the company about its employment as well as employment of PWDs as their staff.
3. A newly-born ASEAN Autism Network which was established in December 2010 conducted an Autism Walk in their respective countries on Saturday, 2 April, 2011 on the World Autism Awareness Day (WAAD). Streets, parks, national monuments and shopping centers in several major cities in the above 10 countries filled with thousands of participants. Government representatives, NGOs workers, business partners, volunteers, students, families and community members actively participated in this powerful activity. National TV and newspaper of each AAN member's countries reported on this successful walk. The spirit of community gathering shone bright light to individuals with autism and that they are warmly welcomed and embraced into the community. This milestone has provided continued support and courage towards a friendly autism awareness society in the ASEAN region.

5) Myanmar

1. Based on knowledge gained from APCD training, an ex-participant held a Conference of

Sere



an

stakeholders to CBR for persons with disabilities in 2010 for the first time in Myanmar, to which APCD dispatched the resource persons. Almost 100 people from the government officials, NGOs, DPOs attended. Before the conference, CBR carried by NGO in Myanmar had been basically the medical model. The conference promoted better understanding on CBR as a rights-based and inclusive approach among the participants, and as a result, collaboration between NGOs and DPOs has been strengthened.

2. Burmese ex-participants of ASEAN Autism Network Workshop formed the first family group for Autism in Myanmar.
3. The first self-advocate group of persons with intellectual disabilities called "Unity" was established in 2010 with support of Dao Ruang group from Thailand and also two JICA short-term experts with intellectual disabilities from Japan.

6) Bangladesh

1. An ex-participant, who works for NGO in Chittagong, established 47 DPOs in community with advocacy and facilitation skills and knowledge on SHG acquired from APCD training. She plans to establish 10 DPOs in Hill Tribe community where the lives of PWDs are much more difficult compared with other areas.
2. Through APCD activities, concept of disability has been changed from Medical Model to Rights-based Model. Based on this, some DPOs have changed their name and approach. Also the term of "Persons with Disabilities" in Bengali, without negative image, has been commonly used.
3. The perception of persons with disabilities is changed from "the object of pity" to "the member of society". The government, which used to be reluctant to recruit Persons with Disabilities, is changing their perception to Persons with Disabilities. In latest employment process, the government employed 198 persons with disabilities.
4. When an university refused admission of a Blind lady, who has three blind sisters, an ex-participant who was empowered by APCD activity, negotiated with the university in place of the lady. As a result, the lady and her three blind sisters are studying in the university.
5. Based on the knowledge and skills learnt from APCD training, one ex-participant with visual impairment created ICT and Resource Center on Disability, where people with visual impairments can learn computer skills. Up to date, a total of 228 persons have been trained through the center.

7) Afghanistan

1. An ex-participant, who learned CRPD and presentation skill in APCD training, negotiated with three local governments, who agreed to design all the schools to build from now on to be accessible for children with disabilities.

8) Japan

1. SbKM materials are utilized in the undergraduate course of the University of Tokyo and

Sera
↓ *on*

Rikkyo University as learning materials on disability and development.

9) Uzbekistan

1. "CBR as a PWDs-led Approach Towards Inclusive Development" was conducted by joint collaboration of APCD and World Vision in Uzbekistan. 30 persons with disabilities participated the training. As a result, the participants initiated to establish self-help organization whose goal is to create rights-based and barrier free society for all. In a country where a medical model is still dominant, the organization is one of a few groups whose direction is based on a rights-based approach. They have been actively conducting various activities such as awareness raising events, barrier-free check on public transportations, conducting DET trainings, etc.

Sere

OK *am*

Annex 15: Evaluation Grid

Asia-Pacific Development Center on Disability (APCD) Project Phase 2 Terminal Evaluation

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Communication	Do the Project and APCD staff communicate appropriately?		<ul style="list-style-type: none"> Ways of communication (including unofficial ones)- means, frequency, fairness, etc Challenges / good practices which contribute the Project outcomes 	Project Progress Report Project Experts, C/P, APCD staff, FP, AO	An appropriate communication mechanism exists such as weekly Managers meeting, weekly Sectional meeting, and monthly all staff meeting, to share information and ideas, and to reach consensus. Moreover there were team building events such as staff retreats and birthday celebrations which contributed to better fellowship among the staff. Staff retreat was held in Samut Songkram Province on 25 and 26 March 2010, and in Ratchaburi Province on 24 and 25 March 2011. All APCD staffs and some JICA Experts and Secretaries participated in such retreat. Its primary purpose was to improve their knowledge on disability issues, and its secondary purpose was to foster team spirit of APCD.
	Do APCD and FPs/AOs communicate appropriately?		<ul style="list-style-type: none"> Ways of communication- means, frequency, fairness, etc Was there any strategy regarding communication with FP/AO 		<ul style="list-style-type: none"> APCD communicates with FPs/AOs by means of 1) Senior Official's Meeting, 2) Mission to FPs/AOs, and 3) E-mail correspondents. APCD actively disseminates information related to their activities and updates on disability movements to FPs/AOs through emails, newsletters, APCD website, CBR Asia-Pacific Network website, ASEAN Autism Network website, Empowerment Cafe, Facebook, etc. It has been a challenge to have active two-way communication with all the FPs/AOs and to follow up their activities and/or achievements due to the limited manpower. It has also been a challenge to follow-up ex-trainees' activities based on the Action Plans that the ex-trainees made during training. After the mid-term evaluation, attempts at improvement have been made through sending out follow-up emails to all the ex-trainees three months after their trainings. Although there is a language barrier, Empowerment Cafe and Facebook can be effective tools to encourage communication with/among FPs/AOs and ex-trainees, especially considering the limited manpower.
	Do APCD and other key players communicate appropriately?		<ul style="list-style-type: none"> Ways of communication- means, frequency, fairness, etc 		<ul style="list-style-type: none"> The meetings of Executive Board which includes members of the Thailand Development International Cooperation Agency (TICA) and the National Office for Empowerment of Persons with Disabilities (NEP) of the Ministry of Social Development and Human Security are held every two month. A meeting minute is produced for each meeting.
	Decision Making Process	Are decisions made appropriately?			<ul style="list-style-type: none"> Process of decision making (e.g. when to revise project activities) Internal document on decision making process

W
BR
Sara

Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Process of Implementation	Technical assistance/transfer	Is technical assistance/transfer appropriately provided? Any good practices/problems?	<ul style="list-style-type: none"> Targets, contents, methods Views of C/P, APCD staff 	Project Progress Report Project Experts, C/P, APCD staff	<p><Long-term Experts></p> <ul style="list-style-type: none"> Long-term Japanese experts have worked with APCD staff side by side. <p><Short-term Experts></p> <ul style="list-style-type: none"> Short-term experts (experts on training management, with intellectual disabilities, etc) were effectively provided to maximize the Project outcomes at right timing and with innovative approach. <p>(example)</p> <p>Groups of Persons with intellectual disabilities in Myanmar and Cambodia were established by APCD and Dao-Ruang (Similar group in Thailand) by following steps;</p> <p>1st step: The key persons with Intellectual Disabilities were dispatched for training in Japan</p> <p>2nd step: Japanese expert with intellectual Disabilities was dispatched to Thailand</p> <p>3rd step: The Project supported the trainees (in 1st step) to establish their group in Thailand (Dao-Ruang)</p> <p>4th step: Dao-Ruang and APCD together visited Myanmar to support for the establishment of the group in the country</p> <p>5th step: Together with APCD, Dao-Ruang and the group in Myanmar visited Cambodia to support for the establishment of the group in the country.</p> <p>Note: Above 4th and 5th steps are the activities related to "South to South Cooperation"</p> <p>Note: These three groups are the firstly established ones of Persons with Intellectual Disabilities in each country</p>
	Monitoring System	Is the Project progress monitored appropriately? How are the monitoring results utilized to improve the Project progress?	<ul style="list-style-type: none"> Monitoring system (methodology, frequency, by whom) System to reflect monitoring results on the Project activities 	Project Progress Report Project Experts, C/P, APCD staff	<ul style="list-style-type: none"> Annual implementation plan of the Project is developed and shared with all the staff members after approval of APCD Executive Board. The Project progress is reported to Joint Coordination Committee (JCC) every 6 months and a plan of activities for next 6 months discussed in the meeting. JCC's functions are to monitor the project implementation progress and to modify or improve the project activities. Documentations are prepared by APCD staff responsible for the plan of operations and its achievements, which are disseminated among all staff.
	Other	Are C/P appropriately assigned for the Project?	<ul style="list-style-type: none"> The number of officials/staff at APCD assigned by C/P Transition of the officials/staff over the Project period Views of relevant people 	Project Progress Report Project Experts, C/P, APCD staff	<ul style="list-style-type: none"> Officials/staff of APCD are assigned for the Project as followings; 14 staff are assigned for the Project Though some officials/staff were transferred, their works were smoothly succeeded to the new officials/staff.
	Inputs		Are Project Experts dispatched according to the plan?	Record on experts dispatchment	Annex 3 Dispatch of Japanese Expert
		Are inputs provided by Japan side according to the plan?	C/P training in Japan	Record on trainings	Annex 4 Training of Counterpart Personnel in Japan
			Any equipment provided?	Record on transferred equipment	No equipment were provided.
		Are inputs provided by Thai side according to the plan?	Amount of local expenditure borne by Japanese side	Record on local expenditure	Annex 5 Local Expenses borne by Japanese Side
			Personnel assigned for the Project by C/P	Record on staff assigned by C/P	Annex 6 Assigned APCD Staff
	Amount of local expenditure funded by Thai side	Record on local expenditure	Annex 7 Local Expenses borne by Thai Side		

✓
Sour
on

Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required information/data	Information Source	Result
	Main Question				
		Output 1 More effective and sustainable networking and collaboration are developed among APCD, Focal Point Organizations (FPs), Associate Organizations (AOs) and other relevant organizations.	Indicator 1: 7 selected FPs agree to their roles in documents by August 2009.	Project Progress Report Agreement signed with FP on their roles	12 FPs agreed to their roles in documents by July 2011 (See Annex 8 for details). (11 FPs agreed by August 2009). 1. Ministry of Labor and Social Development, Kyrgyz Republic 2. National Council on Disability Affairs, Philippines 3. Ministry of Labor and Social Protection of the Population, Tajikistan 4. Ministry of Health, Bhutan 5. Ministry of Social Affairs, Veteran and Youth Rehabilitation, Cambodia 6. Ministry of Social Affairs, Indonesia 7. Ministry of Labor and Social Welfare, Lao PDR 8. Ministry of Women, Family and Community Development, Malaysia 9. Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement, Union of Myanmar 10. Ministry of Social Welfare and Special Education, Pakistan 11. National Coordinating Committee on Disability, Viet Nam 12. Ministry of Culture, Youth and Sports, Brunei Darussalam
			Indicator 2: 30 AOs agree to their roles in documents by August 2009.	Project Progress Report Agreement signed with AO on their roles	43 AOs sign an associate organization by July 2011 (30 AOs signed by October 2009). (Detail: see Annex 9) Including the Phase 1, APCD has succeeded to have agreements with a total number of 200 Associate Organizations.
			Indicator 3: 30 Action Plans are prepared by August 2009 and 60% of the Plans are conducted together with FPs and/or AOs by 2012.	Project Progress Report Action Plans Follow-up record on Action Plans	31 Action Plans are developed by April 2010, and 97.7% of the Plans have been successfully implemented as of February 2012. (Detail: see Annex 10)
			Indicator 4: 3 regional networks on specific areas are developed and strengthened (CBR, NHE, KM etc).	Project Progress Report	The following 4 regional networks were developed and strengthened with APCD's support. 1 regional network is expected to be established through the workshop scheduled from 29 February to 2 March 2012. 1) CBR-Asia Pacific Network 2) ASEAN Autism Network 3) Empowerment Cafe (Information and Knowledge Management Mechanism) 4) South Asian Disability Forum 5) Asia-Pacific Federation of Hard of Hearing and Deafened (to be confirmed)

See on

Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Achievement	Achievements		Indicator 5: 10 regional trainings and 10 networking collaboration follow-up activities are conducted to strengthen regional networks.	Project Progress Report Follow-up record	<p>APCD facilitated trainings, workshops, and seminars with various stakeholders at grassroots, national, and international levels. APCD played an active role to facilitate linking people and organizations, which generated collective power to move toward an inclusive, barrier-free and rights-based society for all. (Detail: see Annex 11)</p> <p>(1) Training at APCD: 10 trainings were conducted on CBR / Community Based Inclusive Development (CBID), Self-Help Group (SHG), Gender and Development with 183 participants in total.</p> <p>(2) Empowerment and strengthening network of persons with intellectual disabilities: 13 workshops were conducted in 6 countries, namely China, Cambodia, Vietnam, Lao PDR, Myanmar, and Thailand. 475 people participated in the workshops in total.</p> <p>(3) Empowerment and strengthening network of persons with hearing impairment: 7 workshops were conducted in 4 countries, namely Cambodia, Vietnam, Laos, and Myanmar. 242 people participated in the workshop in total.</p> <p>(4) Empowerment and strengthening network of persons with visual impairment: Workshop for leaders' dialogue was conducted with 5 participants from Indonesia, Malaysia, Myanmar, the Philippines and Viet Nam.</p> <p>(5) Empowerment and strengthening network of persons with disabilities at national level: Trainings, meetings, and campaigns were conducted by joint collaboration of AOs and APCD.</p> <p>(6) High level official meetings: APCD initiated / participated 8 high level official meetings.</p> <p>(7) Capacity Building for Self-Help Organizations of Persons with Disabilities (CBSHOD): Workshops on CDSHOD were held in 3 countries; Papua New Guinea, Kyrgyz Republic and Thailand.</p> <p>(8) CBR-Asia Pacific (AP): With an initiative of APCD along with the World Health Organization (WHO), CBR-AP Congresses in Thailand (2009) and the Philippines (2011) as well as CBR-AP Convention (2010) in Malaysia were successfully held. As many as 600 people participated in these events.</p> <p>(9) ASEAN Autism Network (Name to be confirmed): On 13-15 December 2010, 27 family members of autism from 9 countries including Brunei Darussalam, Cambodia, Indonesia, Lao PDR, Myanmar, Philippines, Thailand and Vietnam participated in the ASEAN Autism workshop at APCD and formed the ASEAN Autism Network.</p> <p>(10) Sub-regional network: Workshops and a forum were held to strengthen sub-regional networks such as a sub-regional workshop on intellectual disabilities, an Empowerment Café Workshop, and South Asian Disability Forum.</p>
			Indicator 6: 5 sub-regional workshops are conducted to facilitate sub-regional networking and collaboration in the Asia-Pacific region by 2012. All outputs and impacts are documented and widely shared.	Project Progress Report Record on workshops Record on the report sharing	<p>- 57 good practices and information were documented with accessible format and widely disseminated in collaboration with FPs/AOs and other stakeholders. (Detail: see Annex 12)</p> <p>- Story-based Knowledge Management (SbKM) was introduced as a method to document and share good practices of Persons with Disabilities as an agent of change. In the SbKM, persons with disabilities actively participated in the process to bring out their own experiences and knowledge which had not been expressed or properly understood before.</p> <p>- 8 Booklets (CBR & Inclusive Development in Asia and the Pacific, Inclusive Community Development, Community-based Inclusive Development: Principles & Practice, Community-based Inclusive Development: Principles & Practice/Future Direction, Summary of Activities: CBR & CBID, Wheelchair Support for Flood Victims in Pakistan, APCD's Annual Report, Trainees' Resource Book)</p> <p>- 18 DVDs & Newsclips (Nakhon Pathom Independent Living Center in Thailand, CBR Initiative in Jodnongkae in Thailand, Together We Can Make Changes in Lao PDR, Yes, You Can! in Vietnam, Community for All in Vietnam, From Why to How through ICT in the Philippines, Beyond the Voice of Our Own in Pakistan, A Blind Architect in the Philippines, The Heart of SM in the Philippines, Rights Base for the Disabled, Wheelchair Support to Flood Victims in Pakistan, International Day of Persons with Disabilities in Thailand, First ASEAN Autism Workshop, Empowerment Café, ASEAN Highlights, ASEAN Autism Walk, Community-based Inclusive Development Workshop, Genashtim: ICT and Disabilities in the Philippines)</p> <p>- 3 Cartoons & Photobooks (House of Wisdom in Pakistan, UN-APCD Collaboration Photo Book, Empowerment Starts within Oneself in PNG)</p> <p>- 10 Workshop Reports (Senior Officials' Meeting 2009, Senior Officials' Meeting 2010, "Make the Right Real" in Thailand, "Make the Right Real" in Pakistan, "Make the Right Real" in Papua New Guinea, "Make the Right Real" in Bangladesh, South Asian Disability Forum Workshop, Autism Workshop, "Make the Right Real" in the Philippines, ID Workshop)</p> <p>- 7 Training Reports (CDSHOD, DGD, CBR Training for Asia-Pacific, CBID Training, CBR Post Convention, JICA Syria, , WHO-APCD CBR Training)</p> <p>- 11 Leaflets and Others (APCD Introduction Leaflet, Inclusive Business Brochure, CBR AP Network Leaflet, International Training Leaflet, Business Magazine "Inforna", Differently Able Notebook, APCD Intro Roll-up, Regional Collaboration Roll-up, Accessible Information Roll-up, Make the Right Real Roll-up, Autism Poster)</p>
			Indicator 7: 30 documents on good practices and useful information are developed with FPs, AOs and stakeholders, and widely shared in collaboration.	Project Progress Report Documents on good practices Record on the documents sharing	

AM
SP

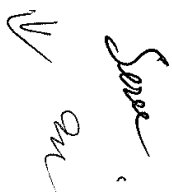
Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required information/data	Information Source	Result
	Main Question				
			Indicator 8: 60% of participants of APCD's activities are satisfied with communication accessibility.	Feedbacks by participants of APCD activities	- 87% of the interviewees during the evaluation responded that they are satisfied with the communication accessibility (Total respondents: 15, "Yes, very much": 8, "Yes, at certain level": 5, "Not so much": 2). - APCD Staff, who participated in counterpart trainings, made efforts for their information to be accessible. For instance, preparing accessible information materials for workshops (Workshop for Persons with intellectual disabilities in Myanmar (Feb 2010), provision of sign language interpreters at trainings (Training on Disability, Gender and Development (DGD), etc. - On the other hand, ex-trainee with hearing impairment pointed out that sometimes it was difficult to understand the lecture/discussion due to fast speaking.
			Indicator 9: 80% of participants are satisfied with training courses.	Feedbacks by the ex-trainees	94% of the participants of APCD trainings (16 training in the Phase 2) are satisfied with their contents. (see Annex 13 for details)
			Indicator 10: 70% of ex-participants share their learning and initiate or strengthen their activities.	Project Progress Report Follow-up record on ex-trainees	According to Staff's observation, more than 70% of the ex-participants reported that they shared their updates or initiatives. Also, most of the activities conducted by APCD are initiated by ex-participants. * Since May 2011, APCD has sent emails to all the ex-participants for follow-ups after three months of training. It should be noted here that follow-up efforts have been made by the APCD staff though it is a challenge to follow-up as many as 2,000 ex-participants.

W
an
Spice

Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Achievement	Output 2 The managerial and administrative capacity of APCD to sustain the internationalized activities is strengthened.	Indicator 1: The APCD Master Plan is approved by the APCD Foundation.	Project Progress Report Master Plan	The APCD Master Plan was approved on May 3, 2011.	
		Indicator 2: APCD's progress report on the Master plan is approved by the APCD Foundation.	Project Progress Report Minutes of APCB Board meetings	A Progress Report is being developed.	
		Indicator 3: An annual report to show the APCD's performance is published every year.	Project Progress Report Published APCD annual report	Annual Report 2010 was published by APCD and submitted to the National Office for Empowerment of Persons with Disabilities, the Ministry of Social Development and Human Security.	
	Project Purpose	APCD is able to function as a regional center to facilitate networking and collaboration among organizations off/for PWDs towards an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region.	Indicator 1: The number of salient documents /declarations on disabilities to recognize APCD as a functional regional center for promoting an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region. Indicator 2: The number of organizations off/for PWDs (including grass-roots organizations) to recognize APCD as a functional regional center for promoting an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region	Project Progress Report Organization off/for persons with disabilities	<p>The following salient documents / declarations on disabilities were developed as a result of activities facilitated by APCD.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Bishkek Statement, Oct. 2008 2. Phuket Declaration on Disaster Preparedness for Persons with Disabilities May 2009 3. Bangkok Statement, Jan. 2010 4. South-South Cooperation Agreement, Mar. 2009 5. Islamabad Recommendations on Regional Networking & Collaboration in South Asia, Jul. 2010 6. Bangkok Statement on South-South Cooperation, Aug. 2010 7. Bangkok Statement at ESCAP Committee on Social Development, Oct. 2010 8. Kuala Lumpur Declaration, Nov. 2010 9. Bangkok Statement on Autism, Dec. 2010 10. Islamabad Recommendations to Make the Right Real, Jan. 2011 11. Port Moresby Recommendations to Make the Right Real, Mar. 2011 12. Dhaka Recommendations to Make the Right Real, Sep. 2011 13. Manila Recommendations, Dec. 2011 <p>According to the interviews conducted during the evaluation, five (5) out of eighteen (18) representatives of organizations remarked that more than 80 % of organizations off/for Persons with Disabilities in their countries recognize APCD as a functional regional center for promoting an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities in the Asia-Pacific region.</p> <p>Furthermore, APCD has been identified as one of the top best practices in the field of social development by the World Bank.</p>
	Actual cases that APCD facilitated networking and collaboration among organizations off/for PWDs			<p>Additional measure; Actual cases that APCD facilitated networking and collaboration among organizations off/for Persons with Disabilities</p> <p>It is recognized that APCD has been playing a vital role to facilitate and strengthen network and collaboration among organizations off/for Persons with Disabilities at various levels.</p>	



 ✓

 ON

 Soper

Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required Information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Overall Goal	In order to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region, organizations of/for PWDs are strengthened through APCD's activities.	Indicator 1: Regional networks and collaboration mechanisms are initiated / strengthened by organizations of/for PWDs.	Project Experts, C/P, APCD staff, FP, AO (on prospect to achieve overall goal in 3-5 years)	It is not applicable to make the judgment here as "Overall Goal" is a goal to be achieved after 3-5 years after the Project termination.	
		Indicator 2: Activities to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs are initiated and conducted by FPs/AOs.			
		Indicator 3: The number of Action Plans with FPs / AOs is increased.			
Policy	Do the Project purpose conform to the international policies and strategies on Disability in Asia-Pacific region?	International policies and strategies on disability in the region	Recent international documents on disability (WHO, UNESCAP, etc)	- On February 5, 2010, Joint Review Team of the Mid-Term Review composed of Thai side and Japan side confirmed that the Project is consistent with the policy of the Government of the Kingdom of Thailand. The Government of the Kingdom of Thailand has emphasized the importance to address the disability issues by adopting such policies as "Plan for the Development of the Quality of Life of the Disabled No.3 2007-2011" and this direction has been and will be maintained. The Project, therefore, is consistent with the government policies of Asia-Pacific Region.	
	Do the Project purpose conform to the policy and strategy of Thailand on Disability?	National policy/strategy on development	Recent national development strategy/plan	The strategies of National Empowerment office of Persons with Disabilities are as follows; 1. Integration of the national disability work mechanism 2. Strengthening of Disabled Persons' Organizations (DPOs) 3. Promotion of a barrier-free and equitable society for persons with disabilities These strategies conform to the APCD project purpose.	
	Do the Project purpose conform to JICA's cooperation strategy for Thailand?	JICA's cooperation policy/strategy for Thailand	<ul style="list-style-type: none"> · Japan's Official Development Assistance Charter · Japan's Economic Cooperation Program for Thailand · JICA's country specific rolling plan 	- The Project purpose conforms to The development strategy of both The Government of Japan and JICA, which is to promote South-to-South cooperation and to strengthen support of The socially vulnerable. The Project, therefore, is consistent with The Japanese Government policy.	
Relevance	Needs of the Project	Is the Project purpose relevant to the needs of APCD?	Needs of APCD Project purpose and achievements	Project Progress Report Opinions of C/P and APCD staff	- The Project was designed aiming at further promotion of networking and collaboration by utilizing human and information resources, in particular, ex-participants of the trainings conducted in the Project Phase 1. APCD needed skills and knowledge, in order to continue such activities in the ex-participants' respective countries. - To respond the needs to enhance the capability of the staff, the Project has provided counterpart trainings in Japan and dispatch short-term experts (on Training Management).
		Is the Project purpose relevant to the needs of organizations of/for PWDs?	Needs of organizations of/for PWDs Project purpose and achievements	Project Progress Report Opinions of AO	- APCD is accumulating experiences of middle management through The Project to facilitate networking and collaboration among The organizations of/for PWDs, which conforms to The needs of them especially in The grass-root level.

Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required Information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Effectiveness	Project approach	Is the Project design adequate?	Logic of project design (activities→ outputs→project purpose→overall goal)	PDM, PO Project Progress Report	Through a series of evaluation and review by JICA and Govt. of Thailand, project design was revised appropriately.
		Are target areas/groups adequately selected?	Selection of target areas/groups Selection criteria Comparison with Phase 1	Preparatory Study Report (Phase 1 and 2)	- The disability issues remain as crucial challenges in the Asia-Pacific region. The expectation is high for APCD to continuously function as a regional center on disability. - In response to the recommendation from the terminal evaluation at Phase 1, the Project (Phase 2) has started its activities by putting emphasis on inclusion of intellectual disabilities and Hearing Impairment. After a certain period of time in which the Project accumulated experiences with these two categories, it has expanded its filed of activities, i.e. Cross-Disability.
		Does Japan have superior experiences/technical skills in the area of disability?	Japan's experience in the field of disability in Japan, Thailand, and other countries	Evaluation reports (Phase 1)	In Asia-Pacific region, it is obvious Japan has outdistanced the other countries in respect of a level of maturity of barrier-free society. There are thousands of organizations/groups off/for the PWDs in Japan for which public administration has been providing variety kinds of social services with initiative of the persons concerned. Therefore, Japan has ample experiences and superior technical skills in the area of disability.
	Causal relationship between the Project purpose and outputs	Is APCD able to function as a regional center to facilitate networking and collaboration among organizations off/for PWDs towards an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of PWDs in the Asia-Pacific region?	Achievement forecast by indicators	Project Experts, C/P	As shown in 3-2-2 Outputs, most of all the Objectively Verifiable Indicators have been achieved. Through a lot of high quality seminars and workshops, APCD has been recognized as a functional regional center, and at the same time, capacity of APCD itself, i.e., skills of the APCD staff, have been improved enough to carry out the work as a functional regional center.
		Are there any other factors influenced the effectiveness of the Project?	Factors and the reasons behind	Project Experts, C/P, FP, AO	The Project effectively utilized ex-training participants as resource persons to strengthen their activities e.g. the ex-participants of the Workshops on the Deaf and Persons with ID & their families in CLMV countries were mobilized as resource persons and participants in the APCD Regional Workshop for Networking and Collaboration on Intellectual Disabilities. e.g. Ex-participants contributed the SbKM activities by being coordinators for activities' arrangement - Collaboration with the UN Agencies, such as UNESCAP and WHO, contributed significantly to the achievement of Project Purpose and Outputs. - Through the APCD mission to other countries, there had been provided a chance for gathering of people from Government and Non-Government Organization including DPOs. These gathering strengthened the network between Government and Non-Government.
		Are there any factors hampered to achieve the Project purpose?	Factors and the reasons behind	Project Experts, C/P, FP, AO	Information about APCD activities and cooperative relationship between FP and APCD would not be transferred to the newly-appointed officer who has assumed office for FP.
		Are the Outputs enough to achieve the Project purpose?	Degree of contribution of the outputs to achieve the Project purpose	Project Experts, C/P	The Outputs are enough to achieve the Project purpose because of the following reasons. - While the capacity of APCD will be developed, the capacity of DPOs and SHOs will be also developed. - Relationship among the stakeholders in the region will be strengthened by the regional seminars.

Handwritten marks:



Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required Information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Efficiency	Achievement forecast for the Project outputs	Are Output 1 and 2 to be achieved?	Degree of the outputs achievement	See "Achievement"	Output 1 & 2 has been achieved.
		Are there any factors influenced to achieve the Outputs?	Factors and the reasons behind	Project Experts, C/P, FP, AO	- Output 1 and 2 have been achieved. More outcomes are expected in the rest of project period. (Factors: influence to achieve the outputs) - Commitment of APCD staff and their technical skills contribute to run the project smoothly - The appropriate approach was adopted in the Project such as 1) Participation of Persons with Disabilities as an agent of changes, 2) Needs based approach for Persons with Disabilities, 3) Involvement of organizations in various fields and 4) Networking.
		Are there any factors hampered to achieve the Outputs?	Factors and the reasons behind	Project Experts, C/P, FP, AO	Schedules of workshops had to be postponed due to the deluge.
	Inputs	Were quality, quantity and timing of the inputs for the Project appropriate, compared to the outputs achieved by the Project?	Appropriateness of Experts dispatchment, Equipment provided, C/P training, Local expenses, Personnel assigned by C/P	Records of Experts dispatchment, Equipment provided, C/P training, Local expenses, Personnel assigned by C/P	(Japanese Experts) - The Project focused on the intellectual disabilities and hearing impairment at the initial stage. The Japanese experts with intellectual and hearing disabilities were dispatched to strengthen these areas. It contributed to achieve the project output 1. - APCD needed to develop the capacity of APCD staff, resource persons and sign language interpreters in Thailand. Based on these needs, Japanese expert on Training and Management was dispatched. Daily work were followed and monitored by the long-term experts. It contributed to achieve the project output. (Machinery): No equipment were provided / installed (C/P Training): See Annex 4 in detail. (Budget): See Annex 5 & 7 in detail (C/P staff) - With the transfer of authority of APCD from NEP to APCD Foundation, all NEP staff working in APCD went back to their own department.
Achievement forecast for the overall goal	Is there prospect to achieve the overall goal within five years after the Project termination?	Degree of the Project achievement	See "Achievement"	- A significant number of activities for networking and collaboration to promote an inclusive, barrier-free and rights-based society and empowerment of Persons with Disabilities have been conducted by APCD in collaboration with various stakeholders. - Regional networks and collaboration are initiated and strengthened by organizations of/for Persons with Disabilities based on their needs. It has been promoting the disability movement and inclusive development. - In addition to FPs and AOs, APCD has been working with other stakeholders such as the UN agencies, civil society organizations and private sector.	
	Are there any factors hamper the achievement of the overall goal?	Assumptions	Project experts, C/P	No particular change has been recognized in the government policies concerned.	

W on
Sum

Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required Information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Impact	Ripple effects	Impacts occurred as ripple effects (positive or negative) - changes in lives of PWD through participating APCD activities - impacts that brought to organizations and/or PWDs by cooperating with APCD	Actual cases of negative/positive impact	Project Progress Report Project Experts, C/P, FP, AO	<ul style="list-style-type: none"> - Effect of the APCD trainings: FPs and AOs gained skills and knowledge via training courses conducted by APCD. Many of them applied newly acquired knowledge and experiences in their own activities. - Effect of the APCD's facilitation: The APCD missions and the seminars in collaboration with FPs and AOs, contributed to the ratification / signing of UNCRPD in Pakistan / Papua New Guinea. - Effect of the APCD's documentation: Good practices of persons with disabilities have been documented in collaboration with FPs, AOs and other stakeholders. The documentations according to knowledge management principles have been shared to promote inclusive barrier-free society not only by disability stakeholders but also by the business partners. - APCD has been promoting disability movement at the policy level in collaboration with the UN agencies and other partners. APCD has become one of the vital players to promote disability rights in the region. The declarations, recommendations and statements were the result of all efforts of vital players in the regions. - APCD was selected as one of case stories in OECD's "The South-South Opportunity" - APCD was featured in the Magazine of the World Bank as one of six good practices of South-South Cooperation. - The other impacts are shown in Annex 14. - There are no negative impacts.
Sustainability	Policy	Will the Thai government keep the policy/strategy to promote empowerment of PWD and barrier-free society?	National development strategy/plan	Recent national development strategy/plan	It was noted that the Biwako Millennium Framework (BMF) and Biwako Plus Five for Action towards an Inclusive, Barrier-free and Right-based Society in Asia and the Pacific 2003-2012 should ensure effective participation of persons with disabilities in all relevant activities. APCD has been identified by the United Nations ESCAP as a regional cooperative base, so APCD has been developing sub-regional mechanisms. The first priority is given to the Greater Mekong River countries, the second to the ASEAN countries, and the third to South Asia sub-region.
			Opinions of concerned personnel in the government	OPP, NEP	
		Will international policy/strategy on promoting empowerment of PWDs and barrier-free society be kept/strengthen in Asia-pacific region?	International policies and strategies on disability in the region	International policy/strategy on disability	
Sustainability	Organization and system	Does APCD have enough capacity and ownership to continue and manage their activities to pursuit their mission?	Staff assignment plan	organization/staff structure chart (present and future plan after the project)	Master Plan of APCD has been approved by APCD Board of Directors.
			Staff continuity	Record of staff transition since project started	Not a small number of staff resigned APCD but transfer of the duties have been made properly. Through the dispatch of short term expert, skills were transferred to staff. Long term expert follow up the technical transfer with their on-the-job training.
			Quality and technical level of staff	Project experts, C/P, APCD staff	Quality and technical level of staff is sufficient.
		Is the road map well recognized and will be followed in the future?	Degree of recognition on the road map by C/P, APCD Staff Action plan for the road map	Project experts, C/P, APCD staff	The road map is well acknowledged by the APCD staffs. For further understanding, the detailed action plan may be required.
		Will the partnership sustained with FO and AO after the termination of the Project?	Plan to promote the partnership	Project Experts, C/P, APCD staff, FP, AO	<ul style="list-style-type: none"> - Under the supervision of the APCD Foundation, APCD has been developing an effective organization structure. - The partnership between APCD and AOs is sustained through the information sharing and follow-up. On the other hand, most of the representatives of FPs are transferred to other departments. It sometimes results in difficulties to keep the partnership between APCD and FPs.

Handwritten initials and signatures:



Annex 15: Evaluation Grid

Evaluation Criteria	Evaluation Question		Required Information/data	Information Source	Result
	Main Question				
Technical	Have C/P, APCD staff, and resource persons attained sufficient skills and capacities to sustain APCD activities on their own?	Degree of technical transfer	Project Progress Report Project experts, C/P, APCD staff	All staff is competent to perform daily operation. Their high motivation and commitment contribute greatly to the APCD's achievement of the organizational duties.	
		Capacity on training management			
		Capacity on monitoring			
Financial	Will sufficient financial resources be secured to continue APCD activities after the termination of the Project?	Record of balance sheet during the project period	Project financial report	APCD has signed the contract with the Nippon Foundation and is negotiating with other organizations.	
		Budget and its contents for the 1st year after the project termination	Project budget	Positive activities for fund raising has been and will be continued.	
Others	Are the roles of APCD well recognized by international agencies, FP, and AO?	Recognition and expectations by the agencies toward APCD	Project Experts, C/P, APCD staff, FP, AO	The role of APCD was well recognized by the UN agencies. APCD has the collaboration and cooperation relationship with ESCAP and WHO. The relationship between APCD and the UN agencies is expected to be sustained.	

Mo
Sum

